

地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和6事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果
小項目評価

年度評価
令和7年3月31日現在

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。			中項目No.	1
				小項目No.	1
中期計画	ア 専門的人材及び各種活動の充実 1. 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 本法人の活動を支える専門人材を安定的に確保し、育成に取り組む。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実を目指す。				
法人自己評価		科学館において不在となっていた館長を公募により配置するとともに、各館においては欠員となっていた学芸員を計画的に採用するとともに、次年度に向けた採用準備等を進めた。【新規採用者】市立美術館：3名、科学館：2名、歴史博物館：2名 また、その他の職種の人員についても採用・配置を行うとともに、各種の研修への参画や人員配置の見直し等を通じて人材育成を積極的に進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	専門人材の安定的な確保を図る。	契約から経理に関わる研修を実施した。 令和6年5月15日に開催する。参加者は、総務課学芸課全員。 新規採用者数:3名 職員数:20名 うち学芸員数:10名	3
大阪市立自然史博物館	ア 必要な分野の学芸員を安定的に配置し、またライブプランに応じ、休職時などには業務継続に必要な措置を速やかに確保する。 イ スキルアップのため、関連催事(関連分野の学術集会、博物館学関連行事)をオンライン・オフラインで誘致・実施する。 ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修へ参加する。積極的にオンライン会議などを活用する。 エ 総務系職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。	ア 懸案の脊椎動物化石担当の採用人事を進めることができた。また、採用までの空白期間にアルバイト職員を手配し補うことができた。育休職員の休暇期間にはアルバイト職員を手配することができた。また、新年度には保存担当の職員を兼務配置する予定である。 イ 4月には日本貝類学会を当館講堂で開催、9月には日本甲虫学会を開催した。また、サイエンスミュージアムネットのデジタル化に関する研究会を当館で2月に開催した。 ウ 各種学会に学芸員が参加、中でも9月に沖縄で開催されたSPNHC-TDWG2024 Okinawaに学芸課長はオーガナイザーとして参加した。 エ 特別展(自然史のイラストレーション展、ネコ展)に際し、館内職員向け研修などを実施している。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	専門人材の安定的確保を図る。	・専門人材は、学芸課長が館長との兼務。学芸課長代理2名、学芸員3名。 ・一昨年度採用した学芸員1名、昨年度採用した学芸員2名の計3名に対して、作品の取扱研修を実施し、基本的な技術の習得を行った。また、展覧会の作品展示・撤去、寄贈候補作品の調査、令和7年度の展覧会出品作品の調査などの機会を捉えて、作品の取扱に関する育成を行った。 ・昨年度採用した学芸員1名を、文化庁が主管する2年度にわたる国指定文化財に関する取扱、企画・展示セミナー研修に派遣することとし、本年度は8月下旬の5日間、京都国立博物館に派遣した。	3
大阪市立科学館	ア 科学館活動に関連する各種学会、研究会、研修会等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。 イ プラネタリウム、サイエンスショー及び企画展の制作時と制作後の組織内評価並びに来館者アンケートを通して学芸員の事業企画に係る資質向上を図る。	・1年間不在であった館長を昨年度公募し4月より配置し、館長業務専任体制をとった。 ・副館長(事務職)に代わり総務企画課に総務企画課長代理1名を配置し、展示リニューアルに向けた業務増に対応するため、総務企画課の実務体制を強化した。 ・学芸員を2名、契約技術職員1名を4月から新規採用し、退職欠員の補充ができた。 ・1年以上欠員が続いていた企画・広報担当契約事務職員1名について10月に採用した。 ・新規採用者1名を12月に博物館団体の海外研修に派遣した。 ・3月末で退職する学芸員の後任となる学芸員1名を公募し、採用予定者を決定した。	3
大阪歴史博物館	ア 館の活動を支える人材を確保し、適切な職員配置、業務分担などを模索する。 イ 職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。 【令和4年度実績】研修5回、参加者6人 【令和6年度目標】研修5回、参加者5人	ア 欠員となっていた近代史担当学芸員2名を採用した。令和7年度に向けて、古代史担当学芸員採用の準備を行った。 【令和6年度】新規採用者2名(職員数:33 学芸員:19) イ 下記の研修に学芸員が参加した。 文化庁「公開承認施設担当者会議」(2名・6月)・「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」(2名・6月)・「ミュージアム・パブリックリレーションズ研修」(1名・12月)、奈良文化財研究所「文化財デジタルアーカイブ課程」(1名・7月)、九州国立博物館「IPM研修」(1名・10月)、東京文化財研究所「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」(2名・2月) 【令和5年度実績】文化庁「公開承認施設担当者会議」(6月)、「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」(6月)、奈良文化財研究所文化財担当者専門研修「遺跡地図・GIS課程」(7月)	3
大阪中之島美術館	ア 館活動を支える学芸人材の確保を目指す。 イ 学芸員はもとより学芸業務にかかわる職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め参加機会を増やす。	ア 館活動を支える学芸人材の確保について検討を進めた。 イ 学芸員はもとより学芸業務にかかわる職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努めた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。			中項目No.	1
				小項目No.	2
中期計画	ア 専門的人材及び各種活動の充実 2. 博物館等資料に関する調査研究 各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料そのほかの資料(以下「博物館等資料」という。)に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。				
法人自己評価		各館とも計画通り着実に調査研究を進め館活動に大きく貢献した。特に自然史博物館や東洋陶磁美術館、科学館では外部資金等を活用して積極的に調査・研究活動を展開した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	館蔵品、寄託品、及びその関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和4年度実績】著書・論文等 20 件、研究発表 19 件、展覧会報告1件 【令和5年度目標】著書・論文等 10 件、研究発表 10 件、展覧会報告1件 【令和6年度目標】作品・資料等実地調査 20 件、著書・論文等 10 件、研究発表等 10 件	館蔵品や寄託品、各担当分野の作品について調査を進め、論文や著作、コラムなどの執筆や、研究発表、講演会、学会などの発表など、基礎研究を行った。 ・作品・資料等実地調査174件 ・著書・論文等(研究ノート・コラムなど含む)24件 ・研究発表等(講演会・パネラーなど含む) 24件	3
大阪市立自然史博物館	ア 学芸員による館蔵資料を活用した研究及び野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 外来研究員や外部研究者による館蔵品を用いた研究を支援する。 ウ 科研費や民間助成金を積極的に活用し、必要な調査を計画的に行い、機会を捉えて積極的に成果発表を行う。	ア 科研費などを活用した野外研究を積極的に行っている。 イ 外部研究者による収蔵庫利用は高いレベルで続いている。同時に植物標本、描画資料を中心にデジタル化を積極的に進めており、公開による研究支援をすすめている。【実績一般特別収蔵庫 630名＋バイト314名＋実習・職場体験83名 液浸収蔵庫 61名＋バイト1名】 ウ 令和6年度も科研費の新規採択3件(主担2,分担1)、環境研究総合推進費1件、ほか民間助成金や継続研究を含め外部研究費による活動を進めている。また7年度に向け科研費11件を申請し、2件の新規採択が決まった。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。	・科学研究費補助金国際共同研究加速基金(海外連携研究)「中国宋代天目茶碗に関する国際共同研究―東アジア的視点から見た日本伝世品の再評価」 ・科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)「17-20世紀中国における嗅ぎタバコの受容と変遷―鼻煙壺の研究を中心に―」 ・科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)「唐時代における天王俑に関する基礎研究―西安地区を中心に」	3
大阪市立科学館	ア 館蔵資料等関連資料に関する基礎研究や科学教育に関する実践的研究等を継続的に進める。 イ サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。	ア 科研費補助金による採択研究について、R4年度からの継続研究1件に加え、今年度新たに1件(共同研究者として)が採択された。また、R7年度の科研費補助金の公募に7件応募し、1件が採択された。 京都産業大学と光学機器メーカーと3者共同で館蔵品の共同調査を開始し、3月から同大学での展覧会に展示するために貸し出しを行った。 大阪市有形指定文化財であるプラネタリウム(ツアイスⅡ型25号機)について移設に伴う解体組立時に現状調査を行った。 展示場改修に伴い、新規製作・改修した展示物を含めた計250点を8月より公開した。 一財)全国科学博物館協議会からの助成事業で、1テーマの調査を行い、成果物を冊子として発行、オンライン版も公表した。 イ サイエンスガイドから、リニューアルによる新展示物の不具合などの意見を適宜聴取している。	3
大阪歴史博物館	ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和4年度実績】共同研究事業3本、基礎研究事業1本 著書・論文数51件、研究発表68件 【令和6年度目標】共同研究事業2本、基礎研究事業1本 著書・論文数40件、研究発表50件	ア 個々の学芸員による日常的な館蔵品等に関わる調査研究とともに共同研究2件、基礎研究1件を進め、『共同研究成果報告書17 大阪市の中世城館』を刊行した。 【令和5年度実績】 共同研究3件、基礎研究1件、著述・論文数39本、口頭発表66本	3
大阪中之島美術館	館蔵品に関する調査・研究を継続的に推進する。	専門的見地から、館蔵品に関する調査・研究を継続的に実施した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。			中項目No.	1
				小項目No.	3
中期計画	ア 専門的人材及び各種活動の充実 3. 博物館等資料の保管に関する調査研究 最新の情報の収集を図るなど、博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。				
法人自己評価		計画通り博物館資料の保存や修復に関する情報を収集し調査・研究を実施した。 自然史博物館においては能登半島文化財レスキューへ職員を派遣しその情報を共有し、災害時の対応についても検証を進めた。また、市立美術館・科学館・歴史博物館においては国立館や他機関の研修等への参画を通じて新たな知見を獲得した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	東京文化財研究所、文化財活用センター及び国宝修理装演師連盟等が開催する研修会への参加や、所蔵作品の修復監督の機会を通じて、美術作品の保存や修理に関する知見の獲得に努める。	以下3施設と協議などを行い、知見獲得を実施した。 ・東京文化財研究所 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)参加1名 ・文化財保存修理所(奈良国立博物館内) 国宝「聖徳太子及び天台高僧像」(一乗寺寄託)修理方針協議合同会議参加2回 ・光影堂(京都国立博物館内) 長谷川等二「竹藤図屏風」(館蔵)修理監督実施 1回	3
大阪市立自然史博物館	ア 大規模改修をにらみ、必要な収蔵体制や条件などについて大規模改修検討会議、学芸会議等で検討を進め、具体的な諸室の条件などを明確化、基本計画や設計に反映する。 イ 文化財防災ネットワークと連携し、大規模災害に備えるとともに、調査や研究・研修などで貢献する。 ウ 国際自然史標本保存学会など、自然史分野の保存科学関連の情報を積極的に収集し、またそれを本法人内や国内に還元する。 エ 「自然史博物館研究報告」などで当該分野の研究報告を受け入れる。	ア 大規模改修に向け収蔵庫の増設を含め諸室の検討は計画的に進めている。また経済戦略局とともに有識者会議による議論を準備中である。本市の状況が進展すれば、協議に入る準備は整っている。 イ 学芸員の能登半島文化財レスキューの館内での共有、文化財防災ネットワークと年度内の自然史系レスキュー研修を実施した。 ウ 科研費研究及び文化庁助成事業の一環で学会に参加・オンライン参加を支援した。10月に報告会を実施した他、全国科学系博物館協議会や日本生態学会などで関連発表を行った。 エ 3月に6編の論文を掲載して刊行されたが、保存科学分野の投稿は今年度はなかった。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	館蔵品の保存に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。	・IPMに関する収蔵庫内、展示ケース内のトラップ調査を月1回実施している。その調査結果をもとに、収蔵庫と荷解場の扉に防虫ブラシを設置した。また、収蔵庫内の定期清掃などの対策を実施した。 ・展示ケース内にデータロガーを設置して、展示ケース内の温湿度の変化のデータを調査している。	3
大阪市立科学館	日本博物館協会をはじめとした関連団体や文化庁の研究会・研修会等に参加し、資料保存に関する新しい情報の収集に努める。	日本博物館協会の全国博物館大会、指定都市科学館連絡会議、経済産業省資源エネルギー庁科学館等職員対象研修会、全国科学館連携協議会海外視察研修など各種団体の研修会等に参加し、内外の最新の情報収集を行った。	3
大阪歴史博物館	博物館資料の保管にかかわる情報を研修や研究会などを通じて収集し、研究を行いその成果を活かす。 【令和4年度実績】 ケース内空気環境改善のための調査と空気清浄機の導入 新規ケース仕様の検討と確定 【令和6年度目標】 未改修の展示ケースに空気清浄機を適切に使用し、展示環境改善に努める。	博物館資料の保管にかかわる情報を収集した。 令和5年度に改修・新規購入したケースは定期的に空気環境調査と温湿度測定を行い、異常がないか経過観察を行った。未改修のケースは引き続き温湿度測定を行うとともに、空気清浄機を設置する場合の配線プランを検討した。さらに、文化庁から空気環境と換気にかかる助言を得た。 奈良文化財研究所「文化財デジタルアーカイブ課程」(7月・1名)、九州国立博物館「IPM研修」(10月・1名)、東京文化財研究所「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」(2名・2月)に参加し、得られた知識を館のアーカイブ事業や資料保存環境の改善に活かした。	3
大阪中之島美術館	館蔵品の保存状態を常に確認し、その保存に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。	館蔵品の保存状態を常に確認するとともに、館蔵品に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努めた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。			中項目No.	1
				小項目No.	4
中期計画	ア 専門的人材及び各種活動の充実 4. 博物館等資料の展示に関する調査研究 最新の情報の収集を図るなど、博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。				
法人自己評価		各館とも計画通り調査・研究・開発を進めた。特に市立美術館では大規模改修を契機として展示ケースにかかる最新の情報を収集し、購入・配置することにより展示環境の大幅な機能向上に繋がった。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	大規模改修工事を機に展示環境の向上実現を図る。展示ケース、照明器具、演示具、免振装置などの製品仕様について、他館等から積極的に情報収集する。	・最新式の各種スペック(長尺、長高のミュージアムガラス、低反射フィルム貼り、タブレット操作できるマルチパターン照明システム、一部免振装置、前進可動壁面などの採用)を備えた展示ケースの施工が終了した。これにより、作品展示効果が大幅に向上し、来館者の好評を得た。 ・大手展示ケースメーカー・ITOKIの八幡工場に特設されたショールームを訪問し、独立ケースへの照明効果を実見したほか、最新の展示ケース製作技術を情報収集。これにより購入した移動ケースにより、作品の展示環境が大幅に向上し、来館者の好評を得た。 ・奈良国立博物館よりYAMAGIWAの照明器具について教示を受け、特に「カッタースポット」の有効的な活用により、展示作品の魅力が格段に向上し、来館者の好評を得た。	3
大阪市立自然史博物館	ア 大規模改修を目指し、新たな展示手法や包摂的な展示手法の積極的な情報収集、開発に努める。 イ 科学技術振興財団RISTEX事業と連携してSDGsに関する展示の開発を続ける。 ウ 西日本自然史系博物館ネットワークや全国科学博物館研究協議会、展示学会などと連携した展示手法に関する研究会・学会に参加し、情報収集及び当館の取組を発表し、議論する。	ア 西日本自然史系博物館ネットワークとすすめている文化庁事業などを活用した高解像度デジタルデータの作成は一定の進展を見た。また3Dデータを活用した視覚障害者対応についても、研修の機会を持ち、3Dプリンタを導入した。大阪博事業などの機会を捉えてVR展示などについても情報収集、開発を進めた。 イ 現在進めている研究期間の3月までの延長が認められ、記録冊子の作成、「ワークショップの作り方」などのコンテンツを公開した。令和7年度の本採択を目指し、開発を続ける。 ウ 全国博物館大会に3名が参加した他、全国科学系博物館協議会に4名参加、3件の発表を行った。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	館蔵品の保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。	・科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)「文化資源としての伝世陶磁器3Dモデル作成の手法構築と普及」による研究を進めた。	3
大阪市立科学館	ア 全国科学博物館協議会、全国理工系学芸員会議など関連団体の展示手法に関する研修に参加する等、最新の情報の収集に努める。 イ サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。	ア 全国科学博物館協議会総会、日本プラネタリウム協議会の大会や地域研修会、全国科学博物館連携協議会の総会に参加し、博物館施設に関する最新情報や専門知識の収集を行った。また、科学館において第15回全国理工系学芸員展示研究大会を開催し、全国の同種施設における展示の最新状況について議論や意見交換を行った。 イ サイエンスガイドから、リニューアルによる新展示物の不具合などの意見を適宜聴取している。	3
大阪歴史博物館	博物館資料の展示にかかわる情報について研究会等を通じて収集するとともに、その研究で得た成果を活かす。 【令和4年度実績】新規購入ケースのLED照明の仕様の検討と確定 【令和6年度計画】LED照明への交換計画の策定	新規購入ケースのLED照明の展示効果を実践的に検証し、結果をフィードバックした。旧ケースのLED化については、2026年度の工事実施を目指して予算化を検討中。	3
大阪中之島美術館	展覧会開催時に展示作品の状態に合った展示手法を検討・調査するとともに、他館の展示方法や関係研究所や展示事業者等から最新の情報の収集に努める。	展覧会開催時に展示作品の状態に合った展示手法を検討・調査しつつ、他館の展示方法や関係研究所・展示事業者等から最新の情報の収集を図った。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。			中項目No.	1
				小項目No.	5
中期計画	ア 専門的人材及び各種活動の充実 5. 博物館等の運営に関する調査研究及び評価 他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、マーケティング調査やビッグデータを活用したデータ分析を行う。				
法人自己評価		令和5年度に引き続き、従来の紙面でのアンケートに加え、オンラインによるアンケート等を実施し積極的に来館状況の把握に努めた。 他機関が主催する研修会等に積極的に参画し、博物館運営に関する調査・研究を計画通り進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	全国の博物館・美術館が参画する各種研究会、マスコミ各社の文化事業部などとの情報交換をもとに、大都市圏での展覧会の開催動向や広報戦略について調査・研究を行う。	読売新聞、毎日新聞、NHK、読売TVと協議を行い、そこから訴求点明確化の重要性を認識した。そこで改修した市美の姿を意識したプレスリリースを企画し実施した。2/28に開催したリニューアルオープン展「What’sNew展」およびオープン記念式典のプレスリリースについては、2019年開催のフェルメール展、(68社:110人)2022年開催のフェルメール展(76社:105人)等大規模特別展と同等のトータル76社109人のメディアをあつめた。	4
大阪市立自然史博物館	ア 科研費共同研究などの機会を捉えて、博物館の来館者の期待、経営手法及び寄附開発などについての研究を進める。 イ モバイル端末などのビッグデータ活用を行い、来館者属性の分析を進める。 ウ 博物館を取り巻く様々な属性を持つ(潜在的)利用者からのヒアリングの機会を設け、インクルーシブな博物館づくりを目指す。 エ 主要な利用者の代表である友の会からの声を運営に活かす。	ア 「ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究－社会的価値と事業改善に着目して」という報告書(当館も研究に参画)が9月末に刊行された。同報告書には仮想評価法による大阪市立自然史博物館の常設展示の評価などが掲載されている。また、4月にシンポジウム「持続可能な博物館のためのお金の話:クラブファンだけじゃない長期サポーターの集め方」を開催し1,245視聴を集めている。 イ 特別展などの来館者情報を中心に解析を進めている。 ウ 外部有識者会議等を含め準備している。(No.3に記載) エ 4月29日に博物館と合同で活動報告会などを実施、積極的に対話をすすめている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	入館者に対するアンケート調査を実施し、効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討し、その方向性について協議をする。	下記のとおり調査を実施し、改善に向けて協議を実施した。 ・特別展「シン・東洋陶磁－MOCOコレクション」(以下「シン展」と略す)〔令和6年4月12日(金)～令和6年9月29日(日)〕において、アンケート①(4/12-9/29)回答513件、アンケート②(8/5・ファミリーデー)回答7件を実施した。 ・特別展「中国陶磁・至宝の競艶－上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」(以下「上海展」と略す)〔令和6年10月19日(土)～令和7年3月30日〕において、アンケート(10/19～3/30)回答141件を実施した。	3
大阪市立科学館	ア 展示・プラネタリウム・サイエンスショーなど各種事業に関して、アンケートにより入館者の満足度等を調査し、館の運営、事業内容の改善を行う。 イ 日本博物館協会、全国指定都市科学館連絡会をはじめとした関係団体の研究会等に参加し、運営に関する情報を収集する。	ア 館全体やプラネタリウムの関するアンケートをオンラインで実施し、来館者の満足度を調査している。回答数は以下の通り:来館者アンケート60件、プラネタリウムアンケート210件、サイエンスショーアンケート3,431件(8月1～3月31日) イ 全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会の大会に参加し、全国の博物館施設の運営や、文化庁による博物館行政の方針などの情報を収集した。	3
大阪歴史博物館	ア 他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 イ 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象としたアンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。 【令和4年度実績】 特別展・特別企画展2回、特集展示4回 【令和6年度目標】 来館者アンケート、特別展・特別企画展4回、特集展示6回 ウ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、以後の企画立案に活用する。 【令和4年度実績】 展覧会事後分析4回 【令和6年度目標】 展覧会事後分析4回 エ 事務局と連携し、事務局において収集したマーケティング・リサーチ結果やビッグデータを活用し、戦略的な広報を展開する。	ア 文化庁や国立の文化財研究所等の研修や、日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会の研究会に参加し、博物館運営に関する情報収集を行った。 イ 特別展2回、特別企画展2回のアンケートを実施。特集展示では令和5年度からの継続分を含めて6回実施済み、1回を継続中。 ウ 開催終了した特別展2本・特別企画展1本について振り返りを実施。 エ 令和6年度・7年度開催の展覧会について、事務局経営企画課と連携して人流データから巡回展の他会場、類似展覧会の傾向を分析し、ターゲット等の確認に役立てた。	3
大阪中之島美術館	他館に対して部分的な調査・情報収集をするほか、ブランディングやマーケティング等に関して営利団体の手法等も調査・研究の対象とする。	他館に対して部分的な調査・情報収集をするほか、ブランディングやマーケティング等に関しては民間事業者等の手法等も調査・研究の対象とした。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.			1
		小項目No.			6
中期計画	イ 資料の充実 6. 博物館等資料の収集、整理及び提供 博物館等資料について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。 博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。				
法人自己評価		各館とも寄贈による資料収集を進めることができた。科学館においては展示改装を契機として展示物の全般的な見直しを行い常設展示の充実を実現するとともに、中之島美術館においては寄附金や基金を活用した購入により美術館活動に有効な作品収集を実現した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集に努める。 【令和4年度実績】購入0件 寄贈2件 寄託 受入4件 返戻 22 件 イ 調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録等を収集する。 【令和4年度実績】購入 図書・雑誌 119 件 【令和6年度目標】館蔵品のアーカイブ化に向け、基礎となるデータベースの作成と公開(主要作品 250 件程度)を行う。	ア 寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集に努めた。 【令和6年度実績】 購入 0件 寄贈 2件 寄託 受入 7件 返戻 39件 イ 調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録等を収集した。 【令和6年度実績】 購入 図書・雑誌 139件 データベース作成と公開(主要作品250件程度)を行った。 9791件(画像付844件)を大阪デジタルミュージアムで公開	3
大阪市立自然史博物館	ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 イ 収蔵品の増加ペース及び残存収蔵スペースを精査し、大規模改修をにらみつつ、将来にわたる確実な収蔵のために必要な計画を立てる。	ア 大淀町の岸田日出男旧蔵植物標本約200点、華園力貝類コレクション6000点、林修甲虫コレクション63,000点など新規の寄贈を受け入れた。 大阪府産植物標本のデジタル化などを積極的に進めている。 イ 大規模改修計画の一環として進めている。大阪市立自然史博物館資料収集方針を改定し、公表の予定。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 芸術的・資料的価値の高い作品の購入及び寄贈による新たな館蔵品の獲得を目指す。 【令和4年度実績】 寄贈件数8件(作品数27件30点) 評価額計10,021万円 イ 研究図書、雑誌等の収集に努める。 【令和4年度実績】 購入図書資料197点(図書17点、雑誌34誌186点) 寄贈図書資料305点(図書253点、雑誌11誌52点)	ア 寄贈件数26件(作品数26件26点) 評価額計3,205万円 イ 購入図書資料 85点(図書 54点、雑誌 8誌 31点) 寄贈図書資料 156点(図書 126点、雑誌 9誌 30点)	3
大阪市立科学館	ア 物理学、化学、天文学、気象学、科学史、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集する。 【令和4年度実績】寄贈1件 イ 科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。 ウ 大阪市立科学館が持つ資料・展示物画像の有償提供を行う。 【令和4年度実績】有償提供7件 エ 継続的に図書、研究図書の収集を行う 【令和4年度実績】研究用単行本27冊、雑誌8誌	ア 今年度は新たな館蔵品の収集はなかった。一方で、常設展示内容の見直しにあたり新たに45の企業、団体等から情報・資料の提供を受け、常設展示内容を充実させる事ができた。 イ 展示改装に伴い、館内の展示物全般を見直し、科学現象そのものを体験によって紹介する展示物を新規開発・改良し、制作を行って8月より公開を開始している。 ウ 資料・展示物画像を6件有償提供した。 エ) 研究用単行本50冊、雑誌8誌を収集した。	4
大阪歴史博物館	ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和4年度実績】購入0件0点、寄贈746件1,217点 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。 【令和4年度実績】寄託48件65点(丹波篠山市教委、一時預かりから寄託に切替) ウ 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【令和4年度実績】館蔵資料撮影70カット、マイクロフィルム撮影0カット エ 住民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行い、年度内にデータベース化を完了する。 【令和4年度実績】図書 2,446 点	ア 令和6年度は337件489点の寄贈を受けた。資料収集は、引き続き収蔵庫の空きスペースを勘案しながらの作業となる。 【令和5年度実績】 購入0件0点、寄贈280件310点 イ 収蔵可能なスペースを鑑み、特に博物館活動に有効と認められる寄託品の維持に努めた。 【令和5年度実績】 寄託品受入れ点数0件0点 ウ 令和6年度は、考古・美術・歴史・建築資料について、38カットの撮影を実施した。 エ 図書の受贈数2,232点、購入数78点、合計2,360点で、順次、図書データベースへの登録を進めた。	3
大阪中之島美術館	ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、美術館活動に有効な作品収集に努める。 【令和4年度実績】購入32件、寄贈等69件 イ 館蔵映像資料、紙資料のデジタル化、公開に努める。	ア 予算のみならず寄附金や基金を活用した購入や寄贈・寄託を通じて美術館活動に有効な作品収集に努めた。 【令和6年度実績】購入6件、寄贈108件 イ 館蔵映像資料、紙資料のデジタル化、公開に努めた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。		中項目No.	1
			小項目No.	7
中期計画	イ 資料の充実 7. 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 博物館等資料の保存・継承と、常設展示や企画展示等による効果的な活用を図るため、それぞれの館において優先順位を決め、必要な修復を進める。			
法人自己評価		各館とも資料の状況等により必要な修復を判断し、計画的にその修復や展示物の改修を進めた。		
3				

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	改修後のコレクション展等での効果的な活用を目指し、館蔵品の修復を計画的に進める。 【令和6年度目標】国指定文化財2件を含む3件	重要文化財2件を含む計3件の下記所蔵作品について、光影堂(京都国立博物館内)にて保存修理(一カ年目)を実施した。 ・重要文化財「紙本墨画護摩壇様並三十七尊三昧耶形」 ・重要文化財「絹本着色大日如来像」 ・長谷川等二「竹藤図屏風」	3
大阪市立自然史博物館	ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進め、現状の状態を確実に記録し、将来の保全に役立てる。 イ 大山文庫・岸川蔵書などの現状の記録と修復手法について標本委員会等で検討・協議を進める。	ア 西日本自然史系博物館ネットワークによるInnovateMuseum事業が今年度も採択され、植物標本のデジタル化は進んでいる。合わせてデジタル化に関係した科研費が採択され菌類標本関連資料のデジタル化も進んでいる。およそ4万点の撮影を行った。 イ 引き続き検討を進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	館蔵品の中から優先順位を設けながら、館蔵品の修復を計画的に行う。 【令和6年度目標】 韓国陶磁5件5点 【令和4年度実績】 韓国陶磁計7件7点	・李秉昌コレクション韓国陶磁3件3点について実施した。 ※重要な作品の修復であることを勘案して、東京在住の修復家に依頼することとなったため、修復費の高騰とともに別途経費が発生したことで修復点数が減少したが、修復の質は良好となった。	3
大阪市立科学館	ア カールツアイスⅡ型プラネタリウムの移設展示に伴い分解清掃・現状カルテを作成する。 イ 学天則の移設展示に伴い分解清掃・電気機器更新等修復を実施する。	ア カールツアイスⅡ型プラネタリウムを4月に移設し、その際に分解清掃を行った。それに合わせて、現状を記録しカルテとしてまとめた。 イ 展示改装に伴い、学天則を分解清掃し、劣化した部品の修復、コンプレッサーや照明などの機器の更新・整備を行い、8月より公開を開始している。	3
大阪歴史博物館	ア 館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復を行う。 【令和4年度実績】修復0件 【令和6年度目標】修復2件	令和6年度は修復4件を実施した。 【令和5年度実績】 修復0件 【令和6年度実績】 修復4件	3
大阪中之島美術館	館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復・額付けを行う。 【令和4年度実績】修復作品13点、額付け作品1点	館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復・額付けを行っている。 【令和6年度実績】修復作品10点	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備		中項目No.	1
	各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。		小項目No.	8
中期計画	イ 資料の充実 8. 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。			
法人自己評価				
3		各館において計画通りに温湿度管理、IPM、防災・防犯に取組み博物館等資料の適切な管理・保管を行った。		

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	改修工事の間、館蔵品、寄託品を保管している地下ギャラリー、外部倉庫において、総合的虫菌害の管理(IPM)のための害虫トラップ、空気環境の調査・分析、清掃、コンサルティングを定期的の実施する。また防犯・防災システムを定期的に点検する。	作品保護のためIPMを実施した。 ・害虫トラップの設置・分析(歩行性昆虫調査) ・空気環境の調査(年3回)・分析(年2回の空中浮遊菌・付着菌調査) ・常時の温湿度分析、定期的なサーモ調査 ・改修工事引き渡し後のIPMメンテナンス ・漆工、金工作品の二酸化炭素燻蒸や、一部作品の外部燻蒸庫でのガス燻蒸の実施 ・館内のゾーニング(土足禁止エリアの設定、粘着マットの設置) ・清掃 ・防犯・防災システムの点検 ・コンサルティング含めた月次会議の開催 ・各種IPM研修の受講、文化財保存修復学会の加入	3
大阪市立自然史博物館	ア 収蔵庫内での虫菌害の監視及び温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワーク・文化財防災ネットワークなどとの連携による災害対策について標本委員会等で検討・協議を進める。 カ 大規模改修により館屋の耐震性能の向上をはかり、人と物の安全を図る。	ア 継続的に実施した。 イ 継続的に実施した。 ウ 点検を続けている。防災訓練を2月に植物園と合同で実施した。 エ 一部の棚で試験的に試みている オ 文化財防災ネットワークとの連携に勤めている。 カ 大阪市経済戦略局の施設視察を受ける等、大規模改修に向けた準備を進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努める。 イ 保管スペース確保のため、収蔵庫スペースの拡充についての方策を模索し、方策について協議する。 【令和6年度目標】 収蔵庫・展示室の温湿度測定(通年) 定期清掃12回(月1回) IPM調査 【令和4年度実績】 虫菌害の対策として定期清掃(収蔵庫等)を12回行った。 展示室とバックヤードにモニタリングトラップを設置し、展示室の環境を把握した。	ア 8月末より展示室地袋と収蔵庫(資料展示室含む)に文化財歩行害虫モニタリングトラップを設置、令和7年3月末まで毎月調査を実施した。令和6年11月6日から8日にかけての3日間、収蔵庫(資料展示室含む)のIPM重点清掃を実施。 イ 棚の増設などを、令和8年度の施設改修工事に向けて協議中。 ウ 李秉昌コレクション韓国陶磁4点について、作品を納める木箱が傷んでいて、作品を安全に保管できないため、新調し交換した。	3
大阪市立科学館	展示改装に伴い防犯カメラ、機械警備装置の再配置・充実を図る。	・防犯カメラを館内43箇所に設置した。また機械警備装置については、開館以来の古い警備であるため、新たに設置する場所も含め警備装置配置の検討を行った。	3
大阪歴史博物館	ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。 ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。 【令和4年度実績】燻蒸庫燻蒸3回、収蔵庫内生物調査1回 【令和6年度目標】燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回	ア 年1回の生物調査を実施し、燻蒸については2回実施した。令和7年度以降、現行の燻蒸方法での虫菌駆除は行えなくなるため、二酸化炭素など新しい燻蒸方法の導入を検討した。 【令和5年度実績】 燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回 【令和6年度実績】 燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回 イ 出納簿を収蔵庫前室に設置し、資料の出し入れを記録している。 ウ 防犯・防災システムの点検・修理を行い、システムの維持に努めた。 エ 前年度の新規受け入れ資料は順次登録を進めた。統合データベース、登録手続き、館蔵品台帳が連動する企画は継続中である。	3
大阪中之島美術館	ア IPMの考え方に沿って収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努め、作品保存を行う。 イ 貴重資料や新規に収蔵する資料については、状態を勘案し燻蒸を行うこととする。 ウ 貴重資料等についても同様の処置をするものとする。	ア IPMの考え方に沿って収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努め、作品保存を行った。 イ 貴重資料や新規に収蔵する資料については、状態を勘案し燻蒸を行った。 ウ 貴重資料等についても同様の処置を行った。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。			中項目No.	1
				小項目No.	9
中期計画	イ 資料の充実 9. ICTを活用した博物館等資料のデジタルアーカイブ化及び有効利用 博物館等資料のデジタルアーカイブ化、著作権等に配慮したオープンデータ化を推進するとともに、来館の案内や展示解説等にAI技術その他様々な技術を用いた活用を行う。				
法人自己評価		各館とも計画通り博物館資料のアーカイブ化やオープンデータ化を進めた。また、大阪博の開催を進める中で、デジタル大阪ミュージアムにおいて、大阪の宝120点を掲載し、英語ページ、スペシャルコンテンツも公開した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	館蔵品のアーカイブ化に向け、基礎となるデータベースの作成と公開を行う。 【令和5年度目標】主要作品の作品基本情報集約 【令和6年度目標】主要作品 250 件のデータベース作成・公開	館蔵品のアーカイブ化に向けたデータベース作成し公開した。(主要作品250件程度) 実績 9791件(画像付844件) 現在は大阪デジタルミュージアムで公開中であるが、11月中には美術館HP上で直接公開の準備を継続中。	3
大阪市立自然史博物館	ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進めることとし、植物から順に記録を行う。 イ 大阪博の館蔵品データベースを活用したジャパンサーチへのデータ提供に向けたデジタル・アーカイブ化等について諸条件を確認し、可能なものから各種補助金を活用して実現を図る。 ウ 研究資料のJAIRO Cloudによる公開を引き続き実施するとともに、未公開の資料についても順次公開を図る。更なる公開流通の方途についても検討、開発を進める。 エ 自然史分野のAI活用に関しての情報収集を進める。	ア 西日本自然史系博物館ネットワークによるInnovateMuseum事業が今年度も採択され、植物標本のデジタル化は進んでいる。合わせてデジタル化に関連した科研費が採択され菌類標本関連資料のデジタル化も進んでいる。およそ4万点の撮影を行った。(再掲) イ 国立国会図書館と調整中 ウ https://omnh.repo.nii.ac.jp にて公開中。J-STAGEを通じた公開も検討中。 エ SPNHCでの活用事例収集を行った。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 継続的に館蔵品を撮影し、アーカイブ化を図ることでオープンデータ化を積極的に進める。 イ ジャパンサーチと連携して、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図る。 【令和4年度実績】撮影件数173件、オープンデータ化件数20件	ア 新規寄贈品26件数を撮影し、アーカイブ化を図った。 イ ジャパンサーチと連携して、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図った。	3
大阪市立科学館	館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。 【令和4年度実績】撮影件数2件、アーカイブ化2件	館蔵品20点(大阪の宝)のデジタル撮影を行い、大阪博のwebページにアーカイブとして公開した。	3
大阪歴史博物館	統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。 【令和4年度実績】アーカイブ化70カット	館の資料情報の統合データベースである資源データベースへの登録を進めるため、38カットの資料写真を撮影した。 【令和5年度実績】アーカイブ化38カット	3
大阪中之島美術館	ア 未撮影収蔵作品及び新収蔵作品の撮影を計画的に進める。 イ アーカイブ情報室にて、それらをデータベースへの取り込み並びに公開を行う。 【令和4年度実績】デジタル・アーカイブ化 5,180件 ウ アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。	ア 未撮影収蔵作品及び新収蔵作品の撮影を計画的に進めている。 イ アーカイブ情報室にて、それらをデータベースへの取り込み並びに公開を実施中。 【令和6年度実績】デジタル・アーカイブ化 619件 ウ アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行っている。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.			1
		小項目No.			10
中期計画	ウ 施設及び設備の充実 10. 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修 博物館等の機能維持や快適な鑑賞環境を提供し、SDGsなど社会の課題に対する取り組みを実現するため、費用対効果や来館者への影響等も勘案しながら、各館の施設整備の充実を計画的に実施する。 大阪市立自然史博物館では、今後の館のあるべき姿を考え、将来にわたり持続的に発展する博物館として大規模な改修実施に向けて検討を進める。				
	法人自己評価	市立美術館においては、大改修に伴いバリアフリー導線を確保するとともに無料ゾーンの設置を図るなど、来館者の利便性の向上を実現した。科学館においてもオンラインチケットの更新を行い団体予約をオンラインで可能とするなど、一層のサービス向上を図った。また、歴史博物館では展示室のWi-Fiを活用し、6月からスマートフォン対応の多言語ミュージアムガイド(音声ガイド)を開始する等、多様な来館者への鑑賞機会の確保を実現した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	観覧者の満足度が高く住民にとって立ち寄りやすい美術館を目指し、展示設備を一新し、バリアフリー動線や無料ゾーンを設置する。また耐震補強・内装工事により安全性・快適性を向上させる。	・改修計画に沿って、展示設備を一新し、エレベーター、エスカレーターの増設によりバリアフリー動線を確保した。 ・開館後、無料ゾーンを設置する方針を確定した。 ・耐震補強を実施した。 ・空調を一新し、館内の快適性を向上させた。	3
大阪市立自然史博物館	予算獲得及び実施に向けた検討を進め、関係各所との対話の機会を確保し、着実に実施を進める。	外壁剥落防止工事、冷凍庫の改修については予定通り進めた。また、植物標本乾燥機、凍結乾燥機のメンテナンスなどを進めた。第2展示室など特定天井の工事は設計を進めているが着工は再来年度以降の見込み。大規模改修については経済戦略局とともに有識者会議による議論を準備中である。また、ポーチに展示中のナガスクジラ骨格標本について、点検及び緊急補修を実施し、本格修理に向けた計画を立案した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	貴重な作品を安全に管理するための収蔵スペースを整備し、貴重な作品を安全かつ最適な環境で展示・保管するための展示室・収蔵庫の温湿度管理環境の改善の実施を目指す。 ア 作品の安全な展示のため、展示室の温湿度管理環境の改善や快適な鑑賞環境の改善のため老朽化したガラスの高透過化などの改修に向け準備を進める。 イ 作品の安全な保管のため、収蔵庫スペースの拡充と温湿度管理など基本環境の改善に向けての改修に向け準備を進める。	ア 快適な鑑賞環境の改善のため展示ケースの改修(鍵の交換、ケースの不具合修繕、クロスの張替え等)を実施するとともに、既存のLEDの照明の老朽化に伴い、陶磁器作品の鑑賞に適した紫励起LED照明を導入した。 イ 令和8年度の施設改修工事に際し、本館空調設備を4管式の恒温恒湿設置に改修する方向で協議中。	3
大阪市立科学館	来館者サービス機能向上のため、設備等の更新を行う。 さらに利用者目線に立ったオンラインチケットシステムの充実を進める。 ア エスカレーター(2～5号)を更新する。 イ 利用者目線に立ったオンラインチケットシステムを導入する。 ウ ミュージアムショップを移設・拡充する。	ア エスカレーター2～5号機の全面改修を行った イ オンラインチケットシステムを更新し、プラネタリウムのオンライン予約を投影開始1時間前まで可能にし、また団体観覧をオンラインで予約できるようにするなど、利用者の利便性を改善した。 ウ ミュージアムショップを移転して面積を約3倍拡充し、オリジナル商品を作成し取扱商品を増やして魅力向上を図った。	3
大阪歴史博物館	展示室における適正な展示環境の維持や、照明のLED化に取り組む。また、増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築を館内部で協議を進める。 ア 老朽化した展示ケースや展示機器、展示照明の状況を把握し、修理や備品類新調など適宜対応する。 イ 展示改修基本計画に基づき、活動の見直しや展示の部分改修へ向けての準備を進める。 ウ 改修した特別展示室の展示ケースの空気環境を維持し、未改修ケースについても可能な限り展示環境の改善を図る。 エ 2025年大阪・関西万博に向けて展示室のネットワーク環境の活用を進める。 オ 公開承認施設として認可されるよう申請を目指す。	ア 特別展示室では令和5年度に壁面展示ケースを改修し、新規独立ケース3台を購入したが、それ以外の展示ケースおよび照明機器、映像機器については経年による劣化、故障が生じており、随時、修理等を行った。またシステムが古く活用のめどが立たなくなった展示情報端末については撤去もしくはパネル台に転用した。 イ 全体の実施は困難だが、展示改修基本計画報告書にもとづき、照明のLED化を最優先に部分的改修を実施できるよう検討中である。 ウ 特別展示室の有機酸問題は、改修・新規購入ースについては改善された。未改修ケースについても、換気や空気清浄機の稼働により改善の目途をたてることができた。 エ 令和4年度に設置完了した展示室のWi-Fiを活用し、6月からスマートフォン対応の多言語ミュージアムガイド(音声ガイド)を開始した。令和7年度の特別展「日本刀1000年の軌跡」では、二次元コードを用いたキャプション設置の準備を進めた。 オ ケース内の空気環境が改善され、10月に公開承認施設復帰への申請を行い、令和7年2月20日付で「承認証」の交付を受けた。	4
大阪中之島美術館	ア 利用者サービスの更なる向上を図るべく、チケット販売・受付に関するシステム・設備の更新を行う。 イ 現状の活動に沿った改良点と新たなシステムに必要な機能を洗い出し、事業者の選定を行う。	ア 利用者サービスの更なる向上を図るべく、チケット販売・受付に関するシステム・設備の更新を進めた。 イ 現状の活動に沿った改良点と新たなシステムに必要な機能を洗い出し、事業者の選定を進めた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(1)	各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
			小項目No.	11
中期計画	ウ	施設及び設備の充実 11. バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修 特に改修を進めている大阪市立美術館及び大阪市立科学館において、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性の向上を図るため、バリアフリー化を推進するとともに、さまざまな利用者を念頭に、ジェンダーに配慮するなどユニバーサルデザイン化を推進する。		
法人自己評価		市立美術館では改修に伴うバリアフリー化を完了した。科学館においては授乳スペースを新たに設置するとともに、館内サインの見直しを行うなど多様な来館者が利用しやすい環境整備を図った。 また、歴史博物館では海外からの来館者に対応するためホームページで7カ国での館の紹介ページの作成を完了した。		
3				

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	エスカレーターを設置や、エレベーターの増設など、高齢者、障がい者等に配慮し、バリアフリー化を推進する。	・エレベーター、エスカレーターを増設し、高齢者、障害者に配慮したバリアフリー化施工を完了した。合わせて、授乳室を設けオストメイトに配慮したトイレを4か所設置した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 大規模改修の中でのハードウェア的な改善を目指すとともに、運用による改善が可能な項目についての検討を進める。 イ 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。	ア 大規模改修の中での重点項目としている。また、来年度情報センタートイレなどの改修について設計を進めた。 イ オムツ利用者(子ども、大人)に向けてオムツ回収機の導入等を検討しているが、引き続きの課題としたい。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	エントランス棟に新設した多目的トイレや救護・授乳室を活用し、来館者の利便性の向上に寄与する。	・エントランス棟に多目的トイレや救護・授乳室を新設したことにより、来館者の利便性が向上した。とくにベビーカーを利用される顧客層の増加を見込んでいる。 ・カフェ入口へ続くスロープ、転回スペース、店内の通路幅は、ベビーカー、車椅子がゆとりをもって通れる十分な幅を確保した上で、利便性向上にも努めている。	3
大阪市立科学館	ア 授乳専用ブースを新設する。 イ 来館者の多様性を考慮した館内サインを設置する。	ア 地下1階に授乳専用スペースを2ブース新設し、ニーズに応えた。 イ 展示改装に伴い館内全体のサインを見直し、文字のフォント・大きさ、サインの大きさや種類など、多様性を考慮し、設置を行った。 なお、ア及びイの目的をを達成するために、多言語対応への有用性」と視認性の高い「noto sans」というフォントを採用した。	3
大阪歴史博物館	ア 前年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき館内の充実を図る。 イ 海外からの来館者など様々な利用者を念頭においてユニバーサルデザイン対応を進める。 ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を情報収集し館内で協議を進める。	ア 前年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき、耳マークを設置し筆談対応を実施するほか、車イス・ベビーカーの貸出しなど館内設備の充実を図った。またInstagramに、当館への車イス等でのアクセス案内動画2本を公開した。 イ 海外からの来館者など様々な利用者を念頭におき、ホームページに7か国語での館概要の紹介を行うほか、「やさしいにほんごによるごあんない」ページを設け、ユニバーサルデザイン対応を進めた。 ウ 震災・火災等の非常時の案内について情報収集を実施。また、災害発生後のBCP(事業継続計画)について館内で策定し、ベースとなるプロトタイプ版を共有した。	4
大阪中之島美術館	多様な利用者の利便性の向上に資するべく、展覧会の臨時案内等の整備をについて協議を行う。	展覧会の臨時案内等の整備を行う等、多様な利用者の利便性の向上のための施策について継続して協議を実施した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。			中項目No.	2
				小項目No.	12
	中期計画	12. 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施 「大阪博」により得られたノウハウや知見、及びWebシステム等を継承し、活用する。 アーカイブ化等の手法を用いて、「大阪の宝」のデータベース等をレガシーとして継承し、各館の展示等への活用を行う。			
法人自己評価		大阪博の開催を進める中で、デジタル大阪ミュージアムで、大阪の宝120点を掲載するとともに、各館連携し、大阪の宝の魅力を伝えるWeb体験型スペシャルコンテンツを作成、大阪の宝の解説動画の公開するなどした。マーケティング・リサーチ等の結果をもとにプロモーションを実施し、大阪の都市魅力を広く国内外に発信した。			
4					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	以下の取組により、大阪・関西万博のレガシーを継承する準備を始める。 「大阪博」の中心的コンテンツとなるWeb展覧会「大阪の宝 大阪の力」（仮称）のインデックスから、「市民の力」・「都市の力」・「芸術の力」をアピールできる作品選定を中心に、コレクション展の魅力を向上させる展示企画の準備を行う。	・リニューアル後のコレクション展（企画展示）の各企画名称について、万博開催を視野に入れた内容決定の協議を実施した。 ・「大阪の宝 バーチャル体験 展示室」（スペシャルコンテンツ）3件への作製への協力を行った。 大阪の宝を大きくしてみよう ①燕文貴「江山楼観図」 大阪の宝をものがたりを読んでみよう ②「豊臣秀吉像」 ③上田公長「蟹子復讐之図」 ・「大阪の宝」選定の作品を、企画展示内で展示を行った。	3
大阪市立自然史博物館	以下の取組により、大阪・関西万博のレガシーを継承する準備を進める。 ア デジタル資料の充実を生かしたコンテンツ展開を大阪博と連動して行う。 イ 当館と接点を持つ万博での展示や活動に関する情報収集を進める。	ア 大阪博の関連データとして撮影と公開を進めている。また、資料を紹介する動画コンテンツ作成を事務局と協力して作製、公開し、16万アクセスと非常に好評を博している。 イ サテライト展示としてのフランスリール市の展示開催を長居植物園と協力して進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等を行うべく、優れた館蔵品を十分に活用した展示の計画を策定する。	当機構全館共通で実施するweb展覧会「大阪の宝」でとりあげる当館所蔵品20点を、4/19から11/24まで開催する特別展「CELADON－東アジアの青磁のきらめき」および併設のコレクション展などで全点展示し、万博開催の全期間展示公開するよう計画した。 併せてweb上の各作品解説のQRコードを作品の前に設置するよう計画を策定した。 <主な取組> ・国宝「飛青磁花生」動画コンテンツの作成 ・国宝「油滴天目茶碗」の体感コンテンツの導入 ・大阪博「大阪の宝」に関する作品展示	4
大阪市立科学館	「大阪の宝」で選定した資料をはじめ、大阪市立科学館所蔵の資料の情報をオンライン等で積極的に発信する。	「大阪の宝」に選定した資料の写真や、資料の詳細に関するコンテンツを「大阪博」のwebページで公開している。また、リニューアルに伴い、新しく展示を開始した館蔵品や展示品を中心に、SNSで情報発信を適宜行っている。学芸員X発信数:194件。	3
大阪歴史博物館	2025年大阪・関西万博における「大阪博」の準備としてコンテンツを充実させ、画像や解説についてアーカイブ化を進める。	2025年大阪・関西万博にむけて「大阪博」のコンテンツを充実させるために、画像・映像、解説についてアーカイブ化を行った。また、スペシャルコンテンツ3件を制作し、LINEスタンプ1件も制作して販売した。「大阪博」リアル展示では、令和7年度開催予定の特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」の準備を行い、特集展示では1970年万博をテーマとした「オープン the タイムカプセル」の準備と、1970年万博のタイムカプセル納入品・16mmフィルムのデジタルアーカイブ化をを行った。 ・「関ヶ原合戦図屏風」のアニメーション動画 ・「関ヶ原合戦図屏風」のLINEスタンプ ・『出潮引汐奸賊聞集記』の挿絵で「大塩平八郎の乱」を紹介 ・「明王贈豊太閤冊封文」の読み上げ動画	4
大阪中之島美術館	「大阪博」の実施に向け各館と連携を図り、コンテンツの充実を目指す。	「大阪博」等の実施に向け、各館と連携を図りコンテンツの充実を実現した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。			中項目No.	2
				小項目No.	13
中期計画	13. 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者の鑑賞機会の確保 これまで受け継いできた各館が所蔵するコレクションの魅力を伝えるための常設展示について、次の方針のもと、その充実を図る。				
法人自己評価		科学館では目標数値を大幅に上回る来館者を迎えることができた。全館においても来館者は目標人数を上回る964,492人（目標：928,199人）を記録した。 また中之島美術館においては次年度のコレクション展示にかかる準備を事務局と連携して進めた。 【令和6年度実績】（自然史博物館：266,921人（目標：248,450人）、東洋陶磁美術館：96,778人（目標：95,880人）、科学館：338,484人（目標：283,869人）、歴史博物館262,309人（目標：300,000人）			
4					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。 様々なテーマにより、変化に富むコレクション展示を開催するとともに、時宜やテーマに即し「特集展示」を開催する。 【令和4・5年度実績】改修工事の実施に伴い開催なし	改修工事の実施に伴い企画展示は開催しなかったが、コレクションを活用して特別展を開催するとともに、特集展示の開催に向けた準備等を実施した。	3
大阪市立自然史博物館	常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示などで、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、SNS、動画配信などを含め展示品の背景情報についてもデジタルメディアを活用して伝えていく。 ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。 【令和4年度実績】 常設展示入場者数247,000人 ミニ展示3回、テーマ展示5回 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。 ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。	ア ミニ展示として「もう一つの自然史のイラストレーション 菌類の教育掛図」、「魚を描いて楽しむ ～顔彩からデジタルまで～」、「植物の標本を使って研究する（月替わり展示）」、「博物館の学芸員の仕事～研究って、どうするの？」、「秋山知伸 世界の野生ネコ科動物写真展」、「化石を楽しむ」、「自由研究展示」などを実施した。また新年度に行う、大阪博連携展示「大阪の宝」先行展示を3月より行った。これらにより、特別展だけで伝えられなかった館蔵品などを紹介し、SNSなどでも積極的に広報を行っている。こうした活動の結果、常設展入館者数についても予算計画を上回った。（計画248,450人、実績266,921人） イ 子どもワークショップも特別展の主題や常設展示内の展示物と連動した企画を行い、来館者の理解を促進した。また、この取り組みが文化庁new!!seum事業によりビデオ紹介されることとなった。https://youtu.be/Chm-c_CO9ZQ ウ 新規の収録を行い、順次公開を続けている。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	国宝や重要文化財を含む世界的なレベルの館蔵品の魅力を最大化した独自の展示方法と、コレクション展示にテーマを設けるなど、名品を様々な切り口から鑑賞できるようにする。 ア 専用展示ケースの導入による国宝の新たな見せ方に努める。 【令和4年度実績】改修工事の実施に伴い、開催なし 【令和6年度目標】コレクション展入場者95,880人 イ コレクション展示のサインやキャプションをリニューアルする。	ア 国宝「油滴天目茶碗」専用の独立ケースを導入し特別展示を実施した。また新キャラクターゆかりの作品の特別展示を実施した。 イ 展示室のサインおよびキャプションのリニューアルを行った。 【令和6年度実績】コレクション展入場者数：96,778人（目標であった95,880人）	3
大阪市立科学館	物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を再現する体験型展示を行う。 また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。 ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。 【令和4年度実績】常設展示入場者 288,920人 【令和6年度目標】常設展示入場者 283,869人(4-7月休館) イ 実験装置・観測装置等の実物資料静展示や、体験型展示を設置する。 ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3～4か月に1本実施する。 エ 企画展示コーナーを新設し、企画展などで所蔵コレクションを公開する。	ア 展示場を全面的に改装し、新しい展示の開発・製作、既存展示の改修・改良を行い、8月1日にリニューアルオープンした。またサイエンスショーもプログラムを新たな形式にして実施している。 【R6年度常設展示入場者目標 283,869人】 【展示場入場者実績：338,484人】 イ 実験装置・観測装置等の実物資料静展示や体験型展示を合計250点設置・公開している。その他、ツアイスⅡ型プラネタリウム投影機の移設に伴って関連資料を新たに常設展示した。また、プラネタリウムの歴史に係る収蔵資料（大西式プラネタリウム、MS-10）を新たにプラネタリウムホワイエにて常設展示した。 ウ 今年度よりサイエンスショーの演示プログラムを、期間内で固定した演目を実施する形式から、適宜新プログラムを追加・実施する方式に変更した。9月時点で9演目を適宜公開している。 エ 展示場1階に新設した「みんなのサイエンス・ラボ」において、8月1日から11月24日まで企画展「日本の科学館は大阪から」を、12月6日から企画展「万博で夢見たサイエンス」（次年度4月6日まで開催予定）を開催し、館蔵品等のコレクションを展示・公開している。	4

大阪歴史博物館	第1期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。これまで以上に展示更新を行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。 ア 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。 【令和4年度実績】常設展示入場者131,844 人 【令和6年度目標】常設展示入場者300,000 人 イ 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。 【令和4年度実績】テーマ展示2回、展示更新38回 【令和6年度目標】テーマ展示2回以上、展示更新30回以上 ウ 館蔵資料及び市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。 ・わたしが難波橋のライオン像をつくりました!! なにわの彫刻家・天岡均一没後10年記念展 5/8～7/8 ・新収品お披露目展 7/10～9/2 ・新発見！なにわの考古学2024 9/4～10/28 ・心斎橋ときもの一小大丸260年のあゆみー 10/30～12/23 ・稲作民俗事始め一米をつくる技術、米がつくる文化ー 12/25～2/17 ・泉布観ー大阪最古の洋風建築ー 2/19～4/14 エ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。 オ 個人端末による音声ガイド(多言語)を導入・稼働させ、展示の理解度を深める。 カ ハンズオン展示を再実施する。	【令和6年度】 常設展示入場者262,309 人 ア 常設展示の更新は57件を実施した。また、両替商の道具や大型農具の露出展示を行うなど、体感的な展示を実践した。さらに、安全確認のため休止していた考古学体験ゾーンの一部を、ボランティア監視員の配置を前提に再開し、活気ある展示空間を実現した。 イ 夏の天神祭りなど季節や時宜に応じた展示を行った。また、新紙幣への切り替えに伴い、大阪市を通じ預かった福沢諭吉一万円券の最終印刷紙幣を、同様の経緯で受領した最初期印刷紙幣とともに8月に展示した。 ウ 特集展示は下記6本を実施した。 ・わたしが難波橋のライオン像をつくりました!! なにわの彫刻家・天岡均一没後100年記念展 5/8～7/8 ・新収品お披露目展 7/10～9/2 ・新発見！なにわの考古学2024 9/4～10/28 ・心斎橋ときもの一小大丸260年のあゆみー 10/30～12/23 ・稲作民俗事始め一米をつくる技術、米がつくる文化ー 12/25～2/17 ・泉布観ー大阪最古の洋風建築ー 2/19～4/14(予定) エ キャプションの英語表記を充実させるとともに、固定の配布物(考古学体験ゾーンの解説等)については四か国語のリーフレットを整備した。 オ 音声のみの音声ガイドを廃止し、スマートフォンを用いた多言語対応のミュージアムガイドに移行した。これにより、視覚障害だけではなく聴覚障害の方にも対応可能となった。 カ 常時体験できる文楽人形かしらメカや、拓本体験に加え、今年度から新たに両替商体験を実施し、実際の展示物を展示空間内で触る体験を提供した。	3
大阪中之島美術館	所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。 ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。 イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。	所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進めた。 また、令和7年度が2025大阪・関西万博の開催年度であることから、利用者サービスの向上に資するため、創意工夫のもと特別展の一部スペースを活用し所蔵コレクションを夏季の展覧会中に展示するよう準備を完了した。 ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。 イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。	4

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。			中項目No.	2
				小項目No.	14
中期計画	14. 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者の鑑賞機会の確保 自主企画による展覧会等についても、コレクション等を活かし、来館者が求める企画の実現に努め、各館の魅力向上につなげる。				
法人自己評価		再開館した市立美術館や科学館においては目標を上回る来館者を迎え、全体としても目標を上回る等好調を維持した。 【令和6年度実績】市立美術館：29,471人（目標：26,825人）、自然史博物館：12,358人（目標：20,729人）、東洋陶磁美術館：96,778人（目標：95,880人）、科学館：242,422人（目標：222,039人）、歴史博物館14,671人（目標：11,210人）			
4					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	東アジア等を中心とするコレクションの特性を活かすとともに、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品に注目した自主企画による特別展を開催する。また国内外の博物館・美術館や社寺などの所蔵者や研究者との連携を図り、新聞社・テレビ局など他機関と協働した特別展を開催し、日本と世界の美に触れる機会を提供する。 【令和4年度実績】 「華風到来 チャイニーズアートセレクション」11,708 人 【令和6年度目標】 館蔵品のみ全館展示する改修お披露目展の開催 「リニューアル・オープン記念展」(仮称) 開催日数 26 日 目標入館者数 20,000 人	令和6年度開催予定特別展の企画を実施した。 「What’s New! 大阪市立美術館 名品珍品大公開!!」展 目標来館者数：26,825人 ＊令和6年12月に上方修正 〈来館者実績〉 有料 20,095名 無料 9,376名 合計 29,471名 目標達成率：110％	4
大阪市立自然史博物館	学芸員の研究や住民との協働研究に根ざし、大阪の自然の新たな一面や資料の新たな価値を紹介する特別展を開催する。展示だけでなくオンライン配信やSNSの展開と合わせ、その価値を広く住民と共有できるものとする。 ア 昨年度に引き続き「自然史のイラストレーション展」を開催するとともに、年度末には「貝展(仮称)」を開催する。これらの特別展で学芸員の研究に根ざした展示及び解説を行う。 【令和4年度実績】 「日本の鳥の巣と卵427」16,809人 「大阪アンダーグラウンドRETURNS」7,140人 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。	ア 自然史のイラストレーション展は自然史博物館としては従来のファンとは異なる対象に呼びかけた野心的な試みとなった。来館者総数では十分な入場者を得られなかったが、従来光の当たっていない資料に着目した特別展として、アンケートなどからは評価をいただいている(入館者数令和5年度分3,622人、6年度7,177人合計10,799人)。また図録も完売に近い状況となっている。2月から開催している「貝に沼る」展では、オンライン上の反応や、グッズの評判が大変高く、会期後半に向けての盛り上がりが期待できる。(3月31日現在5,181人) イ オープンセミナーおよび特別展講演会などを開催し、ハイブリッド開催によりYouTube上で多くの市民に参加いただけるように実施した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	学芸員の調査研究の成果をもとに、コレクションを最大限活用しながら、国内外の美術館・博物館などと連携しつつ、当館の特徴を活かした魅力ある独自企画の特別展を開催する。 ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。 【令和4年度実績】改修工事の実施に伴い、開催なし 【令和6年度目標】 ・大阪市立東洋陶磁美術館リニューアル・オープン記念特別展「シン・東洋陶磁ーMOCOコレクション」41,180人 ・友好都市協定50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流ー上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」54,700人 イ 海外の美術館・博物館と連携して、当館コレクションを活用した独自企画の特別展を実施する。 【令和6年度目標】 友好都市協定50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流ー上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」54,700人(再掲)	ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを最大限活用したリニューアルオープン記念展「シン・東洋陶磁ーMOCOコレクション」を開催した。 来館者数：59,916人 イ 大阪市と上海市の友好都市提携50周年を記念して、長年交流のあった上海博物館と共催で、当館コレクションも活用した特別展「中国陶磁・至宝の競艶ー上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」の開催した。 来館者数：36,862人 年間を通じた総収入金額が目標金額を超えた。	4
大阪市立科学館	プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、年4回テーマを変え公開する。また、館蔵品や調査研究成果を活用した企画展(年3回程度)や、博物館・学校、その他団体等、地域の多様な主体との連携による展示などを実施する。 ア プラネタリウムの新プログラムを3～4か月に1本制作・投影するほか、適宜「学芸員スペシャル」等の特別プログラムを実施する。 【令和4年度実績】プラネタリウム入場者数287,223 人 【令和6年度目標】プラネタリウム入場者数222,039人(4-7月休館) イ プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かし、幅広い年齢層にアピールするプログラムを開発する。 ウ 企画展「日本の科学館は大阪から(仮)」、「万博で夢見たサイエンス展(仮)」を実施し、住民の科学と2025年大阪・関西万博への興味を喚起する。	ア プラネタリウムでは、学芸員の専門性を生かしたオリジナルの投影プログラムを制作・投影し、3～4ヶ月ごとにテーマを変えている。また、土日祝日には学芸員の専門分性を活かした特別投影「学芸員スペシャル」を実施している。 【R6年度プラネタリウム入場者目標：222,039 人】 【プラネタリウム入場者実績：242,422人】 イ プラネタリウムでは一般プログラムに加えて、家族向けプログラム「ファミリータイム」や、小中学校の学習内容に沿った「学習投影」を実施している。またサイエンスショーでは、学校や未就学児団体を対象とした特別プログラムを実施している。その他、専門性の高い講演会など、多様な年齢層に対応した普及事業を行っている。 ウ 8月1日～11月24日に企画展「日本の科学館は大阪から」を実施し、12月6日から次年度4月6日まで企画展「万博で夢見たサイエンス」を開催した。特に後者では、月の石やコンピュータなどの実物資料を含めた70年大阪万博の話題などを紹介し、来る大阪・関西万博への機運も高めた。	4

大阪歴史博物館	国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、館蔵品を活かした自主企画展を開催する。 ア 自主企画による特別展を1本実施する。 ・「難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮ー古代日本のターニングポイントー」目標来館者数11,210人 【令和4年度実績】 「～浮世絵師たちが描く～絶景！滑稽！なにわ 百景！」14,607人 イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を2本実施する。 ・「おおさか街あるきーキタ・ミナミー」(自主企画) ・「発掘！大名たちの蔵屋敷ー「天下の台所」に集う米・物・人ー」(自主企画) 【令和4年度実績】 「和菓子、いとおかしー大阪と菓子のこれまでと 今ー」(自主企画) 「刀剣～古代の武といのり～」 「ー橋本コレクション受贈記念ー文明開化のやきもの印版手」(自主企画)	ア 自主企画の特別展「難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮ー古代日本のターニングポイントー」(7/5～8/26)を、NHK大阪放送局、大阪観光局の後援をうけ、一般財団法人大阪市文化財協会と開催した。館蔵品に加え、外部資料を約30件借用し、大化改新を切り口とした独自の構成で14,671人の来場者を得た。 【令和5年度実績】 なし(特別展示室改修工事のため) イ 自主企画の特別企画展「おおさか街あるきーキタ・ミナミー」(4/19～6/3)を開催した。館蔵品中心の展覧会であったが、実際の街の風景を取り入れた展示構成に加え、4回の街歩きイベントの実施は身近な大阪の街への興味を呼び起こし、観覧者の好評を得た。年度後半には「発掘！大名たちの蔵屋敷ー「天下の台所」に集う米・物・人ー」(1/11～3/3)を大阪市文化財協会とともに開催し、大阪城、難波宮に次ぐ、大阪市内の重要な遺跡として注目を集める展示となった。 【令和5年度実績】 「異界彷徨ー怪異・祈り・生と死ー」	3
大阪中之島美術館	大阪の美術館として地元大阪で育まれた美術に関する特別展を実施する。 館の特色を活かした特別展や、時代や社会のニーズにあった広い視点を持った特別展を実施する。 ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。 イ 海外の美術館・博物館と連携して、コレクションを活用した独自企画の特別展を実施する。	ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施した。 イ 海外の美術館・博物館と連携して、コレクションを活用した独自企画の特別展を実施した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。			中項目No.	2
				小項目No.	15
中期計画	15. 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 2025年大阪・関西万博を契機として、マーケティング・リサーチにより把握した来館者のニーズを踏まえて、来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長を計画的に進める。 具体的には、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館においては、夜間開館を2024年度に試行実施し、大阪市立美術館を含め3館は2025年大阪・関西万博期間中に本格実施していく。 それらの検証結果を踏まえ、2026年度以降に最適な開館時間の延長を実施できるよう計画的に進めていく。				
法人自己評価		東洋陶磁美術館では夜間開館を、科学館・歴史博物館・中之島美術館では開館延長等を試行的に実施した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	夜間運営を行う予定のカフェの入店状況より、開館時間延長の来館者ニーズや運営上の影響を分析する。	3月1日に開設したカフェ・施設の利用状況について利用状況を踏まえ運営上の影響について現状把握を行った。	3
大阪市立自然史博物館	ア TeamLABO事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展などの機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館などを行う。 イ 観察会などを伴った特別な付加価値を持った夜間開館について検討と試行を行う。	ア 特別展は共催者の意向により夜間鑑賞は実施しなかった。民間との連携により夜間の常設展示利用の企画(ナショナル ジオグラフィックナイトミュージアム)を実施した。 (200名の募集に対し、応募件数 1,598件(人数 5,434名)。当日参加は156名)またTeamLABOとJR西日本の共同企画イベントにおいて、クジラポーチをユニークベニユー的活用として提供した。 イ 友の会とともに検討・試行を行った。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	令和6年度の光の饗宴開催期間中に、夜間開館の試行実施を行い、令和7年度の本格実施の準備を進める。	・光の饗宴開催期間中の12/20、12/21の2日間に夜間開館を実施した。 12/20(金)、12/21(土):夜間開館(9:30-19:00)、12/20:16時30分以降の入館者数:26名、12/21:16時30分以降の入館者数:22名 ・中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリーデーを開催。休館日である8/5(月)来館者実績は64名。 ご家族連れのお客様が安心して来館できたと好評であった。 ・2025年度の開館日、イベントにも反映する。	3
大阪市立科学館	リニューアル・オープン直後の土日祝日とお盆時期については、展示場のオープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。	リニューアルオープン直後である8月の土日祝日とお盆期間の合計13日間、展示場オープン時間を18時まで1時間延長し、またプラネタリウムは17時開始の投影を追加した。その結果、延長分のプラネタリウム13日中12日が満席となり、来館者のニーズに一定答えることができた。	4
大阪歴史博物館	ア 令和5年度など過去の取組実績のデータをもとに、人件費などを勘案しながら、夜間開館延長を試験的に実施する。 イ 事務局が実施しているマーケティング・リサーチ結果をもとに夜間開館における来館者ニーズを分析する。 ウ SNSなどによる夜間開館延長に関する情報発信を実施する。	ア 令和5年度など過去の取組実績のデータをもとに、人件費などを勘案しながら、夜間開館延長を試験的に実施した。 【令和6年度実績】 8/21～26の6日間、17:00～18:00に実施(入館は17:30まで)、86人来館 イ 事務局が実施しているマーケティング・リサーチおよび過去の夜間開館の実績を検討し、判断に役立てた。 ウ 館のホームページへの掲載およびX(旧Twitter)の投稿により、夜間開館延長の情報を発信した。	3
大阪中之島美術館	3月から5月に行われるモネ展において全日1時間の開館時間延長を行い、万博開催時の試行とする。	3月から5月に行われるモネ展において全日1時間の開館時間延長を行い利用者の利便性の向上に寄与するとともに、次年度の開館延長に備えた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上			中項目No.	2
	各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。			小項目No.	16
中期計画	16. 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 6館一体で実施する「大阪博」や各館学芸員による講座など博物館機構一体としての連携事業のほか、複数の博物館等が連携・協働した企画展・特別展を実施する。複数の博物館等が共同して外部資金等を獲得し、各館の枠組みを超えた調査研究を実施する。				
法人自己評価		各館連携のもと、次年度に開催する大阪博事業を進めた。本事業の一環としてNFTを活用したスタンプラリーを行う等、各館を周遊する企画を展開するなど一層の各館連携を図った。 また、中之島美術館で開催した「醍醐寺展」において市立美術館館長がその監修にあたった。その他隣接する科学館・中之島美術館で共同で学芸員のトークイベントを開催した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	「大阪博」や学芸員による講座など、機構一体の連携事業に参加する。	大阪博のLPに参画した。 大阪博イベントの一環である、NFTを活用したスタンプラリーにも閉館ながら、天王寺動物園を参画および連携するよう交渉を行った。これにより大阪博の充実に貢献した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 連続講座や大阪博事業に積極的に関与する。 イ 共同した外部資金獲得の可能性について積極的に情報収集し、公開の場であるべき姿の議論を進める。	ア 連続講座、大阪博事業にメンバーとして関与している。大阪公立大連携講座、ミュージアム連続講座に講師として参加。 イ 博物館機構に限らない共同研究同様、様々な資源を持っている博物館機構内部での共同研究の可能性について、個々に検討している。また、博物館経営論として地方独立行政法人制度についての研究を深めた。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 各館と連携して「大阪博」を開催し、コレクションの魅力を多角的にPRしていく。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に大阪中之島美術館や大阪市立科学館とともに参加し、連携事業や共同広報を推進する。	ア 各館と連携してウェブ上での「大阪博」を開催し、大阪の宝に選定したコレクションの魅力を多角的にPRした。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に大阪中之島美術館や大阪市立科学館とともに参加し、連携事業や共同広報を推進した	3
大阪市立科学館	大阪中之島美術館との連携による分野横断的な普及事業を実施する。	中之島美術館での展覧会の関連イベントとして、共催による連携事業(ワークショップ)を12月と3月に実施した。また、中之島美術館の展示に協力し、資料1点を貸し出した。	3
大阪歴史博物館	ア 各館と連携した「大阪博」の展示(デジタル・リアル)の準備を進めるとともに、その他の共同研究の企画を模索する。 イ 文化庁等の補助金、博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。 ウ 大阪市立美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。	ア 各館と連携した「大阪博」の展示(デジタル・リアル)の準備を進め、3D・VR研究会により5世紀代の復元倉庫(南側公園)の3Dデータを活用し、XR化を実施した。特別展「大化改新の地、難波宮」では大阪市立自然史博物館より資料を6点借用し、自然史的視点で難波の歴史を説明した。 イ 文化庁の令和6年度「日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」に機構各館と共に参画し事業を推進した。令和7年度募集についても応募に参画した。 ウ 大阪市立美術館が休館中のため、単館であべのハルカス近鉄本店への特別企画展・特別展ポスター掲示、チラシ設置を実施した。	3
大阪中之島美術館	ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。 イ 中之島地区の他機関と連携した誘客策を実施する。	ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図った。 イ 引き続き中之島地区の他機関と連携した誘客策を実施した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。			中項目No.	2
				小項目No.	17
	中期計画	17. 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸出等を行う。 博物館等資料や図書等の館外研究者への貸出の対応を行う。 他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。 企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借用し、有効活用する。 災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。 他館との博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。			
法人自己評価		各館とも計画通り博物館等資料の貸し出し等を実施した。科学館においては自館で作成したプラネタリウム番組12件を他館へ配給した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	改修工事竣工後、速やかに新たな作品管理体制を整備し、令和7年度に作品貸借の再開できるよう準備を進める。大阪中之島美術館や京都国立博物館で保全している館蔵品・寄託品については、両館等で開催される関係展覧会での有効活用を図る。また国指定文化財、館蔵品・寄託品の一部について、大阪歴史博物館において保全を図る。	次年度以降の作品の賃貸者に向け準備を進めた。 また下記のとおり賃貸者にかかる作業等を進めた。 ・芦屋市立美術館や北京故宫博物院、広島県立美術館、岐阜関ヶ原古戦場記念館、愛知県美術館ほか、収蔵品の特別展への貸出を実施。5件 ・次年度、京都国立博物館、九州国立博物館、東京国立近代美術館ほか、10件以上の貸出し予定。 ・次年度の日本国宝展、根来展、妙心寺展において、100件を超える法人外の博物館施設と連携して文化財の借用予定。	3
大阪市立自然史博物館	ア 資料の研究利用目的での貸出・展示目的での貸出を積極的に進める。 イ 外来研究員をはじめとする外部の博物館資料の利用者受け入れを積極的に行う。 ウ 特別展示などの外部博物館からの資料の借り入れを必要に応じて適切に行うとともに、博物館相互の信頼を維持向上させる。 エ 文化遺産防災ネットワークや西日本自然史系博物館ネットワークなどと連携した防災及び相互レスキューの体制を維持向上させる。	ア 例年通り、館外の研究者の利用を進めた。 イ 外部研究者の利用受け入れを進めた。より円滑な運用のために外来研究員の利用規定を改正し、運用した。 ウ ネコ展開催に際し、北九州市立自然史・歴史博物、国立科学博物館、岸和田自然資料館をはじめ多くの博物館の協力を得た。 エ 文化財防災センターとともに活動に参画した。共催研修も実施した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。	他館などからの作品拝借について、下記のとおり準備を進めた。 ・京都市京セラ美術館「民藝誕生100年－京都が紡いだ生活の美」 会期：で2025年9月13日～12月7日 出品作品：濱田庄司作「掛分指描大鉢」（堀尾幹雄コレクション）1点 ・那覇市壺屋焼物博物館「中国陶磁と琉球（仮）」 会期：2025年11月1日～12月14日 出品作品：景德鎮窯「青花龍牡丹唐草文双耳壺」ほか 計2点 ・兵庫陶芸美術館「This is SUEKI ―古代のカタチ、無限大！―」 会期：2025年12月13日～ 2026年3月8日 出品作品：須恵器円面硯 1点 ・韓国文化院（東京）「浅川伯教・巧兄弟展（仮）」 会期：2025年12月～ 2026年2月 出品作品：浅川伯教・巧関連資料	3
大阪市立科学館	ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 ウ 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。 エ 气象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。 オ 全国理工系学芸員会議や日本プラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。	ア 京都産業大学神山天文台（指定博物館）と大阪中之島美術館へ合計2件の資料貸出を行った イ 当館オリジナルのプラネタリウム番組を12件配給した。 ウ 大阪大学と連携した常設展示を1階に設置したほか、大阪公立大学との共催の講演会を1件実施した。また、京都産業大学神山天文台と光学機器メーカーと3者共同で館蔵品の共同調査を行った。 エ 大阪管区气象台、電気学会関西支部、日本気象予報士会関西支部、白鹿記念酒造博物館等と共催による実験教室などの事業を4件実施した。また、当館と大阪管区气象台との連携や普及啓発事業に対し、気象庁より気象庁長官表彰を受賞した。 オ 日本プラネタリウム協議会、全国科学館連携協議会と情報共有を行った。	3

大阪歴史博物館	ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑み、継続して各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。 【令和4年度実績】貸出21件108点、借用資料は2件の特別企画展で約300点 イ 常設展においては文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図る。特集展示・特別展・特別企画展についても、博物館等関係機関から資料を借用し、展示内容の充実を図る。 【令和4年度実績】貸出0件0点、借用6件1,486点 【令和6年度目標】借用6件1,486点 ウ 関係機関と包括連携協定を結び、資料の活用や展示環境調査への協力を得る。 【令和4年度実績】 包括連携協定:(一財)大阪市文化財協会・大阪市教育委員会 共同研究:江戸東京博物館 【令和6年度目標】 包括連携協定:(一財)大阪市文化財協会・大阪市教育委員会 共同研究:江戸東京博物館 展示協力:三田市教育委員会・三田市先哲顕彰会 エ 震災を機に発足した全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、災害時のネットワーク機能を果たす。	ア 資料の保存状況や展覧会趣旨などを鑑み、各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努めた。また、韓国ソウル歴史博物館と台湾国立故宫博物院への貸出し準備を行った。 【令和5年度実績】 貸出資料 15件47点、借用資料 特集展示2本で約500点 【令和6年度実績】 貸出資料 12件80点、借用資料 特別展2本で254件550点、特別企画展1本で約60件432点、特集展示4本で686件719点 イ 常設展において文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図った。 【令和5年度実績】 借用6件1,486点 【令和6年度実績】 借用6件1,486点 ウ 関係機関と包括連携協定を結び、資料の活用や展示環境調査への協力を得た。大阪府立近つ飛鳥博物館においては、事業連携に基づき展示資料の出品や相互に講演会等に出講した。 【令和5年度実績】 包括連携協定:(一財)大阪市文化財協会、大阪市教育委員会 事業連携:大阪府立近つ飛鳥博物館 共同研究:江戸東京博物館 【令和6年度】 包括連携協定:(一財)大阪市文化財協会、大阪市教育委員会 事業連携:大阪府立近つ飛鳥博物館 共同研究:江戸東京博物館 展示協力:三田市教育委員会、三田市先哲顕彰会 エ 震災を機に発足した全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、災害時のネットワーク機能を果たす。	3
大阪中之島美術館	ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 国内外の他館から作品・資料を借用することで、展覧会の充実を図る。 ウ 災害時の作品・資料保全のため他館の事例を参考とする。	ア 国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを通じて自館の館蔵品の魅力を広く発信した。 イ 国内外の美術館からの作品・資料の借用を通じて自館で実施する展覧会の充実を実現した。 ウ 災害時の作品・資料保全のため、国内の他館の事例を参考とする。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上		中項目No.	2
	各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。		小項目No.	18
中期計画	18. 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 大阪観光局や民間事業者等と連携し、各館施設の活用と魅力の発信に向けてユニークベニユーを計画し、市場ニーズと合致した館・施設から段階的に実施する。			
法人自己評価		各館とも施設や付帯設備を活用し幅広い事業を行った。 市立美術館においては改修後の施設を活用し、ユニークベニユーを実施した。また次年度事項の本格実施に向け着実に準備を進めた。 中之島美術館においては引き続き多様な形態でのユニークベニユーを展開した。		
4				

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	リニューアル・オープン後(令和7年度以降)のユニークベニユー実施に向けて計画を策定する。	ユニークベニユーの施設設定、価格設定、受注手続きや業務フローを設定して、4月1日事業開始にむけて準備をおこなった。また、3/10には、レセプションのデモンストレーションを行い、UV・MICE関係者を約80名集めて、BtoBに対しての広告宣伝を行い、3/24には、住友EXPO委員会の結団式を誘致に成功し、第1回目のユニークベニユーを開催した。	4
大阪市立自然史博物館	ア 学会などの催事開催を積極的に誘致する イ エコカーの展示など企業活動と連携した催事の誘致についてMICE事業者などと情報共有を進め、実施に繋げる。	ア 日本貝類学会、日本甲虫学会のほか、魚類関連のシンポジウム、ワークショップ研究会、サイエンスミュージアムネット研究会などを誘致した。その他、大阪府環境農林水産総合研究所との連携協定に基づくシンポジウムなどを実施している。 イ MICE、長居公園、フィルムコミッション、TeamLABO、J-COMなど様々な主体と連携し、活用を促進している。 TeamLABOとJR西日本の共同企画イベントにおいて、クジラポーチをユニークベニユー的活用として提供した。(再掲)	3
大阪市立東洋陶磁美術館	改修により増築したエントランス棟を積極的に活用し、ユニークベニユーを計画・実行するとともに、施設を有効利用した幅広い事業展開を模索し実現に向けて協議する。	・ユニークベニユー開催の計画、実施に向けて、施設を有効利用した幅広い事業展開を模索し、実現に向けて博物館機構事務局や業者との協議を行っている。準備段階のため、本年度は未実施	3
大阪市立科学館	プラネタリウムを活用した「スペシャルナイト」等のイベントを実施することにより、需要創出を図る。 【令和4年度実績】プラネタリウムスペシャルナイト開催2件。参加者数525名。	プラネタリウムを活用したイベント「スペシャルナイト」を3件実施し、開催中の展覧会の関連テーマや、最前線の天文学の話題を取り上げた。	3
大阪歴史博物館	ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどを実施する。 【令和4年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者663人(5/11再開～3/31) イ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。	ア 令和6年度よりボランティア活動を再開し、ボランティアによる遺跡ガイドツアー「難波宮遺跡探訪」を1日2回実施した。 【令和5年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者1,079人 【令和6年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者2,796人 イ 令和4年度に開始した大阪迎賓館(バリューマネジメント社・大阪城西の丸庭園内)によるナイトミュージアムとディナーのセット企画を7月・8月に2回継続実施した。 【令和5年度実績】 大阪歴史博物館ナイトミュージアム2回	3
大阪中之島美術館	ホールや芝生広場を使ったユニークベニユーの実施に努める。	施設の活用と魅力の発信に向け、ホール、芝生広場、パッサージュ等を使ったユニークベニユーを積極的に進めた。また、ユニークベニユーを実施する先行館としてその成功事例を機構の他館に展開するなど積極的に施設の魅力向上に貢献した。 1階 ホール:42件 1階 ワークショップルーム:10件 2階 多目的スペース:10件 2階 パッサージュ:3件 芝生広場:3件 ・大阪・神戸ドイツ連邦総領事館記念催事 コーンズ・モータース(株)ベントレー大阪(新車商談会) ・ヒロコシノインターナショナル(ファッションショー・商談会) ・大阪アジアン映画祭 ・施設を複合的に活用した結婚式展 等	4

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(3) 国際的な連携及び発信			中項目No.	3
	各館の各種活動の発展及び認知度の向上を目指し、海外の他の博物館等関係機関と積極的に連携する。			小項目No.	19
中期計画	19. 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 学芸員が積極的に国際会議やシンポジウム等に参加し、各種活動成果の発表を行う。				
法人自己評価		各館とも計画通り国外の学会等において研究発表を行いその成果を還元した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	東アジア各地域の美術史、またミュージアム経営戦略などに関する学芸員の活動成果について、国際的に視野を拡大して情報発信を図る。	海外機関での研究発表を行った 4件 ・敦煌研究院および陝西師範大学「敦煌美術の研究」 ・台北故宫博物院「高麗青磁」 ・台南芸術大学「博物館のイノベーション」 ・国立台湾大学「正倉院宝物の唐代楽器について」	3
大阪市立自然史博物館	ア 9月のSPNHC沖縄大会に積極的に参加・発表する。 イ 8月の国際昆虫学会京都大会で発表する。	ア 9月SPNHC沖縄大会1名現地参加(3件発表)、1名オンライン参加。同NATHIST(フランス)1名オンライン参加など。ICOM ETHICOMシンポなどに参加。 イ 8月国際昆虫学会1名参加、発表	4
大阪市立東洋陶磁美術館	国際会議やシンポジウム等において調査研究等の活動成果の発表を行う。	・小林仁 ①シンポジウム名：国立台湾大学芸術史研究所・中央研究院歴史語言研究所「跨域：隋唐帝国物質文化研究新取向」国際学術研討会 会期：2024年10月26日、27日／場所：台湾・台北 国立台湾大学 題名：「盛唐婦女俑考—美人イメージの成立と展開」 ②国際会議名：国立故宫博物院「文物管理論壇」 会期：2024年12月3日／場所：台北 國立故宮博物院 題名：古陶磁作品の収蔵庫管理の実践—大阪市立東洋陶磁美術館を例に（古陶磁器物文物庫房管理的實踐—大阪市立東洋陶磁美術館爲例） ・陳彦如 シンポジウム名：东亚陶瓷史研究国际研讨会（東洋陶磁史研究国際シンポジウム） 会期：2024年11月2日～11月3日 場所：中国江西省景德鎮市蓮社北路155号 景德鎮御窯博物院報告庁 題名：日本京都出土的天目碗（日本京都出土の天目碗）11月2日発表	3
大阪市立科学館	日本プラネタリウム協議会や全国理工系学芸員展示研究大会をはじめとした各種団体での大会・研究発表会等において、実践報告をはじめとした活動成果の発表・公演を行う。	日本天文学会のフォーラムで講演を1件、学会発表を1件行ったほか、全国プラネタリウム大会、全国理工系学芸員展示研究大会などにおいて3件の発表を行った。また、科学館で開催する中之島科学研究所コロキウムにおいて4件の発表を行い、広く成果を公開した。	3
大阪歴史博物館	国際会議やシンポジウム等において各種活動成果の発表を行う。 【令和4年度実績】研究発表68件(国内のみ)	研究等各種活動を進め、その成果を発表した。 【令和5年度実績】 研究発表66件(国内のみ)	3
大阪中之島美術館	国際会議・シンポジウムの開催に向け、国内外の美術館・美術関係者との交流を深める。	展覧会の開催等の機会を通じて国内外の美術館・美術関係者との交流を深めた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(3) 国際的な連携及び発信 各館の各種活動の発展及び認知度の向上を目指し、海外の他の博物館等関係機関と積極的に連携する。			中項目No.	3
				小項目No.	20
中期計画	20.海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 学術交流を積極的に進めることにより、海外の博物館等関係機関との人的ネットワークの形成・拡大を図る。				
法人自己評価		各館とも、交流のある海外館との連携を促進し人的ネットワークの拡大を図った。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	海外館の書籍出版等による画像掲載依頼への協力、各種刊行物の交換などを通じて、学芸員の学術交流を深めるとともに、在外作品に関する情報蓄積を継続的に行う。	海外館との交流を行った。件数:22件 ・調査による学術交流 瀋陽故宮博物院(清朝美術) ・各種刊行物の交換による学術交流 中国 浙江省博物館 敦煌研究院 陝西省師範大学 故宮博物院、国家博物館、復旦大学 麦積山石窟研究所 山西大学 福建省考古研究院 ほか 韓国 国立中央博物館 光州国立博物館 Amorepacific Museum of Art 韓国文化遺産研究院 大邱潤松美術館 ほか 台湾 台湾大学 台北故宮博物院 台南藝術大学 ・画像掲載への協力による海外機関との人的ネットワーク形成 Archives of Women Artists Research & Exhibitions	3
大阪市立自然史博物館	ア 9月のSPNHC沖縄大会に積極的に参加・発表する。(再掲) イ 8月の国際昆虫学会京都大会で発表する。(再掲)	ア 9月SPNHC沖縄大会1名現地参加(3件発表)、1名オンライン参加。同NATHIST(フランス)1名オンライン参加など。ICOM ETHICOMシンポなどに参加。(再掲) イ 8月国際昆虫学会1名参加、発表(再掲)	4
大阪市立東洋陶磁美術館	相互協力提携のある台北・国立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを展開する。	・展覧会で共催する上海博物館との学術交流 ・中国国家博物館との学術交流 ・中国科学院上海硅酸盐研究所との学術交流 ・北京故宮博物院との学術交流 ・国立台湾大学芸術史研究所との学術交流 ・国立故宮博物院との学術交流 ・福建省考古研究院、福建博物院との学術交流	3
大阪市立科学館	オーストラリア国立科学技術センター(クエスタコン)との交流を行い、ネットワークの充実を行う。	・アメリカオハイオ州にある産業科学博物館(COSI)とオーストラリア国立科学技術センター(クエスタコン)とそれぞれ大阪関西万博での活動支援について情報交換を行った。加えて、来年度開催予定の企画展に向けて、国立自然科学博物館(台湾) ・国立精華大学(台湾)とのディスカッションを行った。これらは、来年度の事業実施に向けて準備を進めている。その他、北京天文館とのプラネタリウム運営に関わるweb会議を行った。	4
大阪歴史博物館	ア 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流など、韓国や中国の博物館との交流についての情報交換を行う。 イ 世界の博物館等関係機関の視察を受け入れ、博物館運営についての情報を収集する。 【令和4年度実績】視察:1件	ア 韓国・国立大邱博物館との交流については、双方で協定を再確認し、交流の再開に向けて交渉中である。なお、漢城百済博物館、中国・上海万博博物館との交流計画については進展していない。 イ 韓国・ソウル歴史博物館とは、令和7年4月の朝鮮通信使資料の貸出しについて協約書を締結した。台湾・国立故宮博物院とは、令和8年2月の朝鮮通信使資料等の貸出しについて情報交換を進めた。海外の関係機関の視察は7件であった。 【令和5年度実績】 視察11件	4
大阪中之島美術館	作品の貸借を契機とした海外美術館との交流をもとにネットワークの形成・拡大を図る。	作品の貸借を契機とした海外美術館との交流をもとにネットワークの形成・拡大を図った。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(3) 国際的な連携及び発信		中項目No.	3
	各館の各種活動の発展及び認知度の向上を目指し、海外の他の博物館等関係機関と積極的に連携する。		小項目No.	21
中期計画	21. 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) 関連する分野における博物館等資料の貸出・借用等を通じて、海外の博物館等関係機関と積極的に連携・協働を行う。			
法人自己評価		各館とも国内外の関係機関と資料の貸出・借用を通じて連携を促進した。		
3				

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	中国・上海博物館の学芸員との連携・共同により、上海博物館との交換展の開催準備を進める。	中国・上海博物館との連携・共同として、以下貸出と借用をおこなった。 ・貸出 1 故宮博物院(北京) 中国絵画(重要文化財)1件 2 上海博物館と、大阪市立美術館名品展開催を協議中 ・借用 1 ゴッホ美術館(アムステルダム)収蔵作品の特別展への借用条件等を協議中 2 瀋陽故宮博物院収蔵作品の特別展への借用を見据え、九州国立博物館とともに協議中	3
大阪市立自然史博物館	海外研究者との資料の閲覧・貸出について、デジタル・実物両面に対応する。	海外研究者との資料の閲覧・貸出について情報を集約するとともに、ABS条約などに基づき生物試料の国外での利用がやや難しくなっている影響を勘案し、館内向けにABS条約のセミナー等を実施した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。(再掲) イ 海外の博物館と協働して、優れた作品を借用して展覧会を共催する。	・上海展において、上海博物館所蔵の中国陶磁50点と当館所蔵の中国陶磁27点とを、コラボレーションして展示することで、相互の作品の魅力を紹介し、各作品の学術的な位置付けを行った。 ・上海博物館「百般紅翠斗芳非 宋元明漆器珍品展」(会期:2025年9月26日～11月23日)に、当館所蔵の「堆朱蓮池鴛鴦文輪花盆」1点を貸出予定。	3
大阪市立科学館	ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 ウ 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。 エ 气象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。 オ 全国理工系学芸員会議や日本プラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有と協働を行う。	海外の博物館との資料貸出・借用について、今年の実績はなかったが、来年度開催予定の企画展に向けて、国立自然科学博物館(台湾)・国立精華大学(台湾)と展示や資料に関するディスカッションを行った。また、オーストラリア国立科学技術センター(クエスタコン)と大阪関西万博期間中における活動支援と協働事業について情報交換を行った。 ア 中之島美術館や京都産業大学神山天文台(指定博物館)と大阪中之島美術館へ合計2件の資料貸出を行った。 イ 当館オリジナルのプラネタリウム番組を12件配給した。 ウ 大阪大学と連携した常設展示を1階に設置したほか、大阪公立大学との共催の講演会を1件実施した。また、京都産業大学神山天文台と光学機器メーカーと3者共同で館蔵品の共同調査を開始し、3月より同大学の展覧会に貸し出している。 エ)大阪管区气象台、電気学会関西支部、日本気象予報士会関西支部、白鹿記念酒造博物館等と共催による実験教室などの事業を4件実施した。また、当館と大阪管区气象台との連携や普及啓発事業に対し、気象庁より気象庁長官表彰を受賞した。 オ)1月に当館で全国理工系学芸員会議を開催した。また日本プラネタリウム協議会とは、来年度に当館で行う大会開催のための交渉と準備を行ったほか、全国科学館連携協議会と情報共有を行った。	3
大阪歴史博物館	令和7年度開催予定の韓国ソウル歴史博物館による「朝鮮通信使展」に館蔵品の通信使資料を出品するための準備を行う。	令和7年4月開催予定の韓国・ソウル歴史博物館、および令和8年2月開催予定の台湾・国立故宮博物院の展覧会に館蔵品の朝鮮通信使資料等を出品するため具体的な条件を調整した。 ・ソウル歴史博物館 貸出32件38点(予定) ・国立故宮博物院 貸出15件16点(予定)	3
大阪中之島美術館	作品の状態を鑑みながら可能なものの貸し出しを行い、他館との交流の契機としていく。	作品の状態を鑑みながら時間の作品の貸し出しを行うことで、他館との交流の契機とした。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。			中項目No.	4
				小項目No.	22
中期計画	22. 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 「大阪博」にむけて、Web等のプロモーション活動を積極的に展開するとともに、各館のターゲット分析に基づき、各館事業を周知し、国内外からの来館者を獲得する。				
法人自己評価		事務局と各館が連携してSNSによる情報発信やプレスリリース配信サービスの利用による広報発信力を強化した。「大阪博」開催にあたって、マーケティング・リサーチ結果を元にWebを中心した広告配信を実施し、積極的なプロモーション活動を展開した。また、人流データを活用した来館者分析を行い、適宜各館に情報を展開するなどビッグデータを用いた来館者の獲得に向け着実に事業を進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア リニューアル等の情報をホームページにて周知する。 イ ホームページで作品リストを公開し館蔵品を広く周知する。 ウ ホームページで「大阪博」と連携をする。 エ リニューアル情報、館蔵品等の情報をSNSで周知する。	ア リニューアルについての情報をホームページで周知した。 イ ホームページで作品リストを公開することで館蔵品の魅力の発信に努めた。 ウ ホームページで「大阪博」のバナーを掲載し、連携をはかった エ リニューアル情報をSNSで周知した	3
大阪市立自然史博物館	大阪博と連携してプロモーション活動を行う。	大阪博と連携した EXPO WALLETやブルームバークコネクトとの連携などを進めている。また、コンテンツのプロモーションを共同で進め、広報面での効果を得た。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	各館と連携して「大阪博」を開催し、各種プロモーション活動やコンテンツ作成等の準備を進める。	大阪博開催にあたり、国宝「飛青磁花生」動画コンテンツを作成作成した。 大阪博開催にあたり「大阪の宝」でとりあげる当館所蔵品20点を、4/19から11/24まで開催する特別展「CELADON－東アジアの青磁のきらめき」および併設のコレクション展などで全点展示し、併せてweb上の各作品解説のQRコードを作品の前に設置する計画を進めた。 また、「大阪の宝」のスペシャルコンテンツとして、国宝「油滴天目茶碗」を自室などの空間内で手に取っているように疑似体験できるVRを作成し、コンテンツのQRコードを「大阪の宝」HPと館内の展示作品のそばに設置するべく準備を進めた。	3
大阪市立科学館	万博関連の企画展「万博で夢見たサイエンス展(仮)」を実施する。	・12月6日より万博関連の企画展「万博で夢見たサイエンス展」を開催した(次年度4月6日まで予定)。 ・電力館(電気事業連合会)の屋外ステージでの活動にボランティアチーム「SCIENCE de DOYA」で応募し、活動枠を確保した。 ・万博に関連した中之島地区の地域連携「中之島パビリオンフェスティバル」に協力し、イベント協力や共同の広報などを行った。	3
大阪歴史博物館	事務局と連携した広報活動を実施する。	機構事務局が取りまとめるPR TIMESへのプレスリリースを活用するとともに、人流データによる展覧会分析をおこなった。 常設展示のWEB広告の検討を進め、Instagram広告を実施した(1～3月)。秋の特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」では、関西圏の女性をコアターゲットとしてマスコミ系列のWEBマガジンへの掲載、LINE、InstagramでのSNS広告(メディアによるSNS投稿含む)を実施した。	3
大阪中之島美術館	従来にも増してSNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるように発信情報等を工夫していく。	SNSを積極的に活用した広報・プロモーションを実施することで国外からの入場者の増加を図るとともに、国外旅行者にわかりやすく伝わるような情報発信を行った。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。			中項目No.	4
				小項目No.	23
中期計画	23. エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 マーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、その分析結果をもとに戦略的な広報を展開する。				
法人自己評価		オンライン・オフラインの両面からアンケートを実施するとともに、その分析結果をもとに広報・プロモーション活動を展開した。大阪博事業においてはWEB広告配信結果を分析し、より効率的・効果的な情報発信を適宜行った。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	令和7年度に実施予定の来館者に対する満足度アンケートの内容を確定する。	来館者アンケート内容の確定させた。	3
大阪市立自然史博物館	ア モバイル端末によるビッグデータの活用等を広報委員会で検討し、データ分析に基づく広報展開を行う。 イ SNSなどのアクセス情報を利用する。 ウ 大規模改修に伴う調査の解析などを行う。	ア 特別展などの人流データの解析を進めている。広報展開への応用は今後の課題である。 イ SNSを利用した広報などで、アクセス数やクリック率などの情報を活用している。 ウ 今後さらに調査が必要となる。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 最適な時期を踏まえ、ターゲティングを活用した戦略的なWeb広報を展開する。 イ アクセス解析を通して広報効果を把握し、効果的な広報を展開する。	令和6年度に開催した2本の特別展において、下記のとおり実施した。 ア ターゲティングを活用した展覧会のWeb広報を委託した専門事業者と協議しながら展開した。 イ QRトランスレータの利用実態、および受付スタッフの目視による外国人来館者数(5月以降)のデータの分析をしてインバウンドの来館実態を分析した。 ・アンケート回答 シン展:513件／上海展:141件 ・QRトランスレータ利用者数 シン展:1772人／上海展:606人 ・受付目視(5月以降) シン展 欧米:2132人／アジア:3618人 上海展 欧米:2207人／アジア:3817人	3
大阪市立科学館	ア 来館者アンケートを実施して、事業に関するニーズを把握し、SNSやホームページ、チラシ等の広報媒体を有効に用いた広報活動を行う。 イ 各種活動を広く紹介する広報誌「科学館だより」、月刊誌「うちゅう」を発行し、市内施設や友の会会員など効果的な配布を行う。 【令和4年度実績】「科学館だより」4号、「うちゅう」12冊発行	ア 来館者アンケートをオンラインにより実施している。また、内容に合わせてSNS、ホームページ、チラシなどを利用した広報活動を適宜実施している。 回答数は以下の通り:来館者アンケート60件、プラネタリウムアンケート210件、サイエンスショーアンケート3,431件 イ 「科学館だより」を3回発行し、また月刊「うちゅう」4～3月号の12冊を発行した。	3
大阪歴史博物館	ア 特別展・特別企画展、特集展示及び常設展示のアンケートを実施し、その分析により有効な広報手法を模索する。 【令和4年度実績】アンケート実施 特別展・特別企画展2回、特集展示4回 【令和6年度目標】アンケート実施 特別展・特別企画展4回、特集展示6回 イ ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。 【令和4年度実績】Twitterツイート825件 【令和6年度目標】X ツイート600件以上 ウ 事業に応じてSNSと紐づけたWeb広告を実施し、特設のランディングページ(LP)を設け、発信力を高めるとともに実施レポートにより有効な広報ターゲット、メディアを選択する。	ア 特別展2回、特別企画展2回のアンケートを実施。特集展示では令和5年度からの継続分を含めて7回実施(6回実施済、1回を継続中)。 【令和5年度実績】 アンケート実施 特別企画展1回、特集展示は令和4年度からの継続分を含めて3回実施 【令和6年度目標】 アンケート実施 特別展・特別企画展4回、特集展示7回 イ 館ホームページには逐次展覧会・イベント情報を掲載した。各投稿メディアには、X:414件、Instagram:433件、YouTube:2件(再編集・再投稿)の投稿を実施した。 【令和5年度実績】 X(旧Twitter)ポスト(ツイート)数396件 ウ 事業に応じて有効な広報ターゲット、メディアを選択し、常設展示ではInstagram広告を実施し、民間連携事業においてLP開設準備を進めた。特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」では、関西圏の女性をコアターゲットとしたWEBマガジンへの掲載、LINE、インスタグラムでのSNS広告を実施した。また、民間連携事業の一環として、大阪歴史博物館にまだ来館したことがない層に向けたランディングページを新たに開設(3月末)。これまでできなかったGoogleアナリティクスによる分析を今後実施していく。	3
大阪中之島美術館	SNSのフォロワーの増減、ツイート数などを定期的にチェックして、更なる効果的な発信に努める。	SNSのフォロワー等の増減やツイート数やその内容等を定期的にチェックして、常に効果的な発信に努めた。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」		大項目No.	1-①
中期目標	(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。			中項目No.	4
				小項目No.	24
中期計画	24. 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 地域の広報誌や新聞への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、各館の魅力の効果的発信を行う。				
法人自己評価		各種の事業の開催、コンテンツ制作、研究発表等の場で積極的に情報発信を行った。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	リニューアル・オープン後の館の魅力向上を全国的にアピールするため、テレビ、新聞及び美術雑誌等に向けた情報発信(出演・寄稿等)の頻度を高める。	リニューアルオープン記念特別展について、メディアへの出演や取材対応を積極的に行った。 テレビ・ラジオ:15件 新聞:19件 雑誌:32件 WEB・SNS:130 件 計196件のメディア露出が実現した。 また、記者発表や取材会(2/28、3/1、3/24)3案件の参加メディア数、マスメディア+インフルエンサー92社(126名)を集めた。これにより、記念特別展来館者数29818名、目標対比115%を達成することができた。	4
大阪市立自然史博物館	ア 適切なプレスリリースにより専門的な情報の提供を着実に行う。 イ 平常からSNSなどを通じた平易な情報発信を行う。	ア 特別展などの催事情報、論文出版などの学術情報をわかりやすくプレスリリースしている。 イ 特別展などの関連情報、混雑情報なども含め様々な情報発信を積極的に行っている。これらの結果、学芸員などのコメントが掲載された媒体37件、その他催事情報などを含めると125件のメディア掲載を確認している。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信する。 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信する。	ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信した。 ・『日経サイエンス』、『陶説』、『目の眼』、『典藏』など イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信した。 ・NHK、NHKラジオ、ラジオ大阪、ラジオ関西、中国・河北廣播電視台、エフエム802、日本経済新聞、朝日新聞、中日新聞、聖教新聞など21回。 ・広報におけるSNS対応をはかった(インスタグラム／特別展公式X)。	3
大阪市立科学館	情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。	・新聞・情報誌・テレビ・ラジオ等のメディアへの出演、対応は、310件実施した。 ・プレスリリースをメルマガ発行を含め5回発信した。	3
大阪歴史博物館	ア 地域の広報誌や新聞誌上等への寄稿を行い、専門情報の発信を行う。 【令和4年度実績】 日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、共同通信などに歴史・文化に関するコメント イ 様々なメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。 【令和4年度実績】テレビ、ラジオへの出演等 全28件	ア 大阪府建築士事務所協会機関誌「MACHINAMI」の歴史記事について、企画・編集に協力し、連載投稿を継続している。神宗淀屋橋本店だしカフェ&ミュージアムにおける解説動画に出演した。 イ NHK総合「ほっと関西」nanでnan? (2件)・ええやんトレンド&カルチャー、NHKラジオ第一「関西発ラジオ深夜便〜かんさい玉手箱〜大阪歴史散策」(6件)、産経新聞、日本経済新聞(2件)など 【令和5年度実績】BS11「偉人・敗北からの教訓」、読売テレビ「す・またん」、「関西情報ネットten」、NHK「美の壺」、「有吉のお金発見突撃!カネオくん」、「ウィークエンド関西」など	3
大阪中之島美術館	新聞、美術雑誌、地域の広報誌、テレビ、ラジオなどで展覧会の広報を行う際は、学芸員による紹介を行うよう努め、研究成果を発信する。	各種の媒体における展覧会広報時には、学芸員による紹介等をおこなうことで研究成果を発信した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。		中項目No.	4
			小項目No.	25
	中期計画	25. 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 他の関係機関とのHP・SNS等の相互リンクにより、より幅広い層への広報を展開する 市立の生涯学習施設等を利用した講座などの事業展開や、施設との広報連携を進める。		
法人自己評価		各館とも計画通り周辺施設等と連携した事業を展開した。		
3				

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	大阪観光局と連携した広報展開を行う。	大阪観光局も参画している大阪デスティネーションキャンペーンのエクスカーシオンにフィールド提供して、旅行業者を通じたビジネス展開と広報施策を実施した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 大阪市立中央図書館及び各区の図書館などでの巡回展示などを実施する。	ア 大阪市の各区図書館での外来種の展示、貝の展示、SDGsに関連した巡回展示を実施中	3
大阪市立東洋陶磁美術館	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進する。	・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などの推進準備を進めた。 ・大阪市立総合生涯学習センターにおいて、当館リニューアルオープン記念の連携講座を2回(5/18・6/29 講師:館長守屋雅史)開催。	3
大阪市立科学館	ア 大阪市立東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。 イ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。 ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。	ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携事業を計画するとともに、各種情報の共有、広報に協力している。 イ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に年間2回の記事協力等を実施した。 ウ 科学館だよりやリーフレットを、Osaka Metro、京阪電車、近隣の図書館やホテルなどに配布・設置した。	3
大阪歴史博物館	ア 大阪市生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を定期的に提供する。 イ 本法人と住民学習センターが連携開催する「ミュージアム連続講座」へ講師派遣を行う。 ウ 事業協力するシニアCITYカレッジ、大阪府高齢者大学校等と連携し、講師派遣及び当館事業の広報を行う。	ア 「いちよう並木」へ毎月情報提供し、7月号「おすすめコレクション」、8月号「ミュージアムトピックス」では特別展「大化改新の地、難波宮」の出品資料の情報掲載を実施した。 イ 本法人と市民学習センターが連携開催する「ミュージアム連続講座」は、12月に学芸員1名が出講した。 ウ シニアCITYカレッジのなにわ歴博コラボ講座では前期「中世大阪学ことはじめ」6回を実施し、後期は「近世大阪学あれこれ」6回を実施した。大阪府高齢者大学校「近世史を楽しく学ぶ科」へも当館の展示見学を含めた講師派遣を実施した。10～12月には银杏生涯学習会「阿倍野で学ぶ月曜講座」『なにわ大坂をつくった人物像』6回の講師派遣を行った。	3
大阪中之島美術館	ア 全国美術館会議の機関誌への執筆や、周辺地域の公的機関への講師派遣など幅広い広報活動に努める。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。	ア 全国美術館会議関係機関紙等への執筆や周辺機関等への講師派遣等を行うことにより、より幅広い広報活動を展開した。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により協働した広報を実施するなど周辺施設との連携を推進した。	3

大項目Ⅰ-①		1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標	(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。		中項目No.	4
			小項目No.	26
中期計画	26. 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する。 紙・マスメディア・SNSなど各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。			
法人自己評価		各館とも紙媒体やSNS等各種媒体の特性を活かし、各館の活動や研究成果等の情報発信を行った。特にSNSにおいては各館とも時宜に応じた広報を積極的に実施した。また、大阪博事業において、国の補助金（日本博2.0事業）を活用し、PDCAに基づく戦略的な情報発信を行った。		
3				

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	【令和4年度実績】 「大阪市立美術館紀要」の発行（ホームページ上でも公開） 「華風到来 チャイニーズアートコレクション」開催に伴う「VRミュージアム」作製（ホームページ上で公開） Twitter ツイート数 173 回 Instagram 投稿数 37 回 【令和6年度目標】 「大阪市立美術館紀要」、広報誌「美をつくし」（1回）を発行（ホームページ上でも公開）する。X、Instagram（各2回）でリニューアル・オープンに関する情報発信を行う。	SNS発信を行った。 〈発信回数〉 インスタグラム:71投稿 X:61投稿 / 2622RT	3
大阪市立自然史博物館	ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開を行う。 イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。 ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。 エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。 【令和4年度実績】 ホームページ 発信115件 Twitter ツイート数304件 Facebook 投稿205件 YouTube 総再生時間10786.9時間	ア 研究報告などを継続的に発行し、リポジトリサイトを通じて公開している。 イ 共同研究報告書、資料目録などを継続的に発行し、公開している。 ウ 館報を発行し、公開している。 エ 博物館新着情報、SNSアカウントから積極的に発信している。博物館アカウントだけでなく、学芸員個人アカウント、友の会blogなど様々なメディアを通じて情報発信、研究課程の発信を行っている。 【令和6年度実績】 ホームページ新着情報 80件 X ツイート数157件 特別展専用Xからは666件 FaceBook 投稿151件 Instagram 投稿129件 YouTube 総再生時間 9,824.4時間	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 公式ウェブサイト、YouTube、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。 イ 調査研究その他の活動の成果をウェブサイトや雑誌等によって公表する。 【令和4年度実績】 Instagram投稿数50回（フォロワー5,532人） 【令和6年度目標】 Instagram投稿数50回	ア 公式ウェブサイト、YouTube、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信した。 ・Instagram投稿71件 フォロワー9,126人（4/16現在） ・XとMETAによる展覧会情報の発信163回 ・YouTubeでの展覧会関連動画発信数9本 イ 調査研究その他の活動の成果をウェブサイトや雑誌等によって公表した。	4
大阪市立科学館	ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、ホームページを通じて公開する。 イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。 【令和4年度実績】 12冊発行 ウ 3ヶ月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。 エ 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。 オ SNSツールを利用した情報発信を行う。 【令和4年度実績】 X 発信数「大阪市立科学館広報」286件、「学芸員@大阪市立科学館」152件、「館長の散歩@科学館」35件、Instagram「大阪市立科学館」266件 カ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。 キ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。	ア 日本天文学会フォーラムでのパネリスト発表を1件、学会発表を1件実施した。また、大阪市立科学館研究報告誌第34号を出版した。 イ 月刊「うちゅう」4～3月号の計126冊を発行した。 ウ 「科学館だより」を3号発行した。 エ メールマガジンを2件配信した。またプレスリリースを3件実施した。 オ SNSツールを利用した情報発信を行っている。 【令和6年度実績】 X 発信数「大阪市立科学館広報」134件、「学芸員@大阪市立科学館」194件、「館長のひとりごと」60件、Instagram「大阪市立科学館」268件 カ)ミニブック1冊の改訂新版を発行した。 キ)学芸員によるホームページを作成・公開している。	3

大阪歴史博物館	ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、データをWeb上に公開する。 【令和4年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第21号 【令和6年度目標】「大阪歴史博物館研究紀要」第22号 イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を計画的に発行する。 【令和4年度実績】「共同研究報告書」「大阪歴史博物館館蔵資料集」の刊行なし 【令和6年度目標】「大阪歴史博物館館蔵資料集」第19号 ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。 【令和4年度実績】「大阪歴史博物館年報」令和3年度 【令和6年度目標】「大阪歴史博物館年報」令和5年度 エ 開催する自主企画展特別展・特別企画展について、それぞれ図録・リーフレットを作成する。 【令和4年度実績】図録:特別展1冊、リーフレット:特別企画展3種 【令和6年度目標】特別展:図録1冊、特別企画展:2種 オ 特集展示リーフレットの印刷・配布方法を見直し、ホームページでPDFを公開する。【令和4年度実績】特集展示6本 【令和6年度目標】特集展示6本 カ ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。 【令和4年度実績】Twitter ツイート825件 【令和6年度目標】X ポスト600件以上 キ 事務局で導入されたプレスリリース配信サービスを活用し、プレス情報を配信する。	ア 大阪歴史博物館研究紀要23号を編集・発行した。 【令和5年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第22号 イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を計画的に発行する。 【令和5年度実績】『大阪歴史博物館館蔵資料集19 興上清雅』 【令和6年度実績】『共同研究成果報告書17 大阪市の中世城館』 ウ 「大阪歴史博物館年報」令和5年度を発行し、当館ホームページ上で公開した。 【令和5年度実績】『大阪歴史博物館年報 令和4年度』 エ 特別展「大化改新の地、難波宮」図録、特別企画展「おおさか街あるき」リーフレット、特別企画展「発掘！大名たちの蔵屋敷」リーフレットとパンフレットを発行した。 【令和5年度実績】リーフレット:特別企画展1種 オ 特集展示6本の解説リーフレットのPDFをホームページ上で公開した。 【令和5年度実績】 特集展示4本 カ 館ホームページには逐次展覧会・イベント情報を掲載した。各投稿メディアには、X:414件、Instagram:433件、YouTube:2件の投稿を実施した。 【令和5年度実績】 X(旧Twitter)ポスト(ツイート)数396件 キ 事務局を通じてPR TIMESへの配信を実施した(特別展2・特別企画展2、特集展示6)。	3
大阪中之島美術館	ア 展覧会カタログへの論文執筆をはじめ、展覧会関連の紹介記事等を執筆し、多様な媒体に情報発信する。 イ 公式ウェブサイト、YouTubeサイト、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。 【令和4年度実績】 Twitter ツイート数301回 Instagram 投稿数88回 YouTube 総再生回数7,073回	ア 展覧会カタログへの論文執筆をはじめ、展覧会関連の紹介記事等を執筆し、多様な媒体に情報発信する。 イ 公式ウェブサイト、YouTubeサイト、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。 【令和6年度実績】 X(旧Twitter) ツイート数307回 Instagram 投稿数317回 YouTube 総再生回数11,216回	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備			中項目No.	5
	幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。			小項目No.	27
中期計画	27. 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) 「大阪博」にむけて、Web等のプロモーション活動を積極的に展開するとともに、各館のターゲット分析に基づき、各館事業を周知し、国内外からの来館者を獲得する。				
法人自己評価		事務局と各館が連携してSNSによる情報発信や外部事業者を活用した配信サービスの導入など、積極的にオンラインによるプロモーション活動を展開した。また、人流データを活用した来館者分析を行い、適宜各館に情報を展開するなどビッグデータを用いた来館者の獲得に向け着実に事業を進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア リニューアル等の情報をホームページにて周知する。 イ ホームページで作品リストを公開し館蔵品を広く周知する。 ウ ホームページで「大阪博」と連携をする。 エ リニューアル情報、館蔵品等の情報をSNSで周知する。	ア リニューアルについての情報をホームページで周知した。 ウ ホームページで「大阪博」のバナーを掲載し、連携をはかった。 エ リニューアル情報をSNSで周知した。	3
大阪市立自然史博物館	大阪博と連携してプロモーション活動を行う。	大阪博と連携したEXPO WALLETやブルームバークコネクツとの連携などを進めている。また、コンテンツのプロモーションを共同で進め、広報面での効果を得た。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	各館と連携して「大阪博」を開催し、各種プロモーション活動やコンテンツ作成等の準備を進める。	国宝「飛青磁花生」動画コンテンツの作成 当機構全館共通で実施するweb展覧会「大阪の宝」でとりあげる当館所蔵品20点を、4/19から11/24まで開催する特別展「CELADON－東アジアの青磁のきらめき」および併設のコレクション展などで全点展示し、併せてweb上の各作品解説のQRコードを作品の前に設置する計画をしている。 また、「大阪の宝」のスペシャルコンテンツとして、国宝「油滴天目茶碗」を自室などの空間内で手に取っているように疑似体験できるVRを作成し、コンテンツのQRコードを「大阪の宝」HPと館内の展示作品のそばに設置することにより、広く提供する予定。	3
大阪市立科学館	万博関連の企画展「万博で夢見たサイエンス展(仮)」を実施する。	・12月6日より万博関連の企画展「万博で夢見たサイエンス展」を開催した(次年度4月6日まで予定)。 ・電力館(電気事業連合会)の屋外ステージでの活動にボランティアチーム「SCIENCE de DOYA」で応募し、活動枠を確保した。 ・万博に関連した中之島地区の地域連携「中之島パビリオンフェスティバル」に協力し、イベント協力や共同の広報などを行った。	3
大阪歴史博物館	事務局と連携した広報活動を実施する。	機構事務局が取りまとめるPR TIMESへのプレスリリースを活用するとともに、人流データによる展覧会分析をおこなった。 常設展示のWEB広告の検討を進め、Instagram広告を実施した(1～3月)。秋の特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」では、関西圏の女性をコアターゲットとしてマスコミ系列のWEBマガジンへの掲載、LINE、InstagramでのSNS広告(メディアによるSNS投稿含む)を実施した。	3
大阪中之島美術館	従来にも増してSNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるように発信情報等を工夫を行う。	従来にも増してSNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるように発信情報等を工夫を行う。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。			中項目No.	5
				小項目No.	28
中期計画	28. 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者の鑑賞機会の確保(再掲) これまで受け継いできた各館が所蔵するコレクションの魅力を伝えるための常設展示について、その充実に努める。				
法人自己評価		科学館では目標数値を大幅に上回る来館者を迎えることができた。全館においても来館者は目標人数を上回る964,492人(目標:928,199人)を記録した。 また中之島美術館においては次年度のコレクション展示にかかる準備を事務局と連携して進めた。 【令和6年度実績】(自然史博物館:266,921人(目標:248,450人)、東洋陶磁美術館:96,778人(目標:95,880人)、科学館:338,484人(目標:283,869人)、歴史博物館262,309人(目標:300,000人)			
4					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。 様々なテーマにより、変化に富むコレクション展示を開催するとともに、時宜やテーマに即し「特集展示」を開催する。 【令和4・5年度実績】改修工事の実施に伴い開催なし	改修工事の実施に伴い企画展示の開催はなし。 【令和5年度実績】改修工事の実施に伴い開催なし	3
大阪市立自然史博物館	常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示などで、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、SNS、動画配信などを含め展示品の背景情報についてもデジタルメディアを活用して伝えていく。 ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。 【令和4年度実績】 常設展示入場者数247,000人 ミニ展示3回、テーマ展示5回 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。 ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。	ア ミニ展示として「もう一つの自然史のイラストレーション 菌類の教育掛図」、「魚を描いて楽しむ ～顔彩からデジタルまで～」、「植物の標本を使って研究する(月替わり展示)」、「博物館の学芸員の仕事～研究って、どうするの?」、「秋山知伸 世界の野生ネコ科動物写真展」、「化石を楽しむ」、「自由研究展示」などを実施した。また新年度に行う、大阪博連携展示「大阪の宝」先行展示を3月より行った。これらにより、特別展だけで伝えられなかった館藏品などを紹介し、SNSなどでも積極的に広報を行っている。こうした活動の結果、常設展入館者数についても予算計画を上回った。(計画248,450人、実績266,921人) イ 子どもワークショップも特別展の主題や常設展示内の展示物と連動した企画を行い、来館者の理解を促進した。また、この取り組みが文化庁new!!seum事業によりビデオ紹介されることとなった。 https://youtu.be/Chm-c_CO9ZQ ウ 新規の収録を行い、順次公開を続けている。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	国宝や重要文化財を含む世界的なレベルの館藏品の魅力を最大化した独自の展示方法と、コレクション展示にテーマを設けるなど、名品を様々な切り口から鑑賞できるようにする。 ア 専用展示ケースの導入による国宝の新たな見せ方に努める。 【令和4年度実績】改修工事の実施に伴い、開催なし 【令和6年度目標】コレクション展入場者95,880人 イ コレクション展示のサインやキャプションをリニューアルする。	当機構全館共通で実施するweb展覧会「大阪の宝」でとりあげる当館所蔵品20点を、4/19から11/24まで開催する特別展「CELADONー東アジアの青磁のきらめき」および併設のコレクション展などで全点展示し、万博開催の全期間展示公開するよう計画した。 併せてweb上の各作品解説のQRコードを作品の前に設置するよう計画を策定した。 ＜主な取組＞ ・国宝「飛青磁花生」動画コンテンツの作成 ・国宝「油滴天目茶碗」の体感コンテンツの導入 ・大阪博「大阪の宝」に関する作品展示	3
大阪市立科学館	物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を再現する体験型展示を行う。 また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。 ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。 【令和4年度実績】常設展示入場者 288,920人 【令和6年度目標】常設展示入場者 283,869人(4-7月休館) イ 実験装置・観測装置等の実物資料静展示や、体験型展示を設置する。 ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3～4か月に1本実施する。 エ 企画展示コーナーを新設し、企画展などで所蔵コレクションを公開する。	ア 展示場を全面的に改装し、新しい展示の開発・製作、既存展示の改修・改良を行い、8月1日にリニューアルオープンした。またサイエンスショーもプログラムを新たな形式にして実施している。 【R6年度常設展示入場者目標 283,869 人】 【展示場入場者実績:338,484人】 イ 実験装置・観測装置等の実物資料静展示や体験型展示を合計250点設置・公開している。その他、ツアイスⅡ型プラネタリウム投影機の移設に伴って関連資料を新たに常設展示した。また、プラネタリウムの歴史に係る収蔵資料(大西式プラネタリウム、MS-10)を新たにプラネタリウムホワイエにて常設展示した。 ウ 今年度よりサイエンスショーの演示プログラムを、期間内で固定した演目を実施する形式から、適宜新プログラムを追加・実施する方式に変更した。9月時点で9演目を適宜公開している。 エ 展示場1階に新設した「みんなのサイエンス・ラボ」において、8月1日から11月24日まで企画展「日本の科学館は大阪から」を、12月6日から企画展「万博で夢見たサイエンス」(次年度4月6日まで開催予定)を開催し、館藏品等のコレクションを展示・公開している。	4

大阪歴史博物館	第1期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。これまで以上に展示更新を行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。 ア 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。 【令和4年度実績】常設展示入場者131,844 人 【令和6年度目標】常設展示入場者300,000 人 イ 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。 【令和4年度実績】テーマ展示2回、展示更新38回 【令和6年度目標】テーマ展示2回以上、展示更新30回以上 ウ 館蔵資料及び市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。 ・わたしが難波橋のライオン像をつくりました!! なにわの彫刻家・天岡均一没後10年記念展 5/8～7/8 ・新収品お披露目展 7/10～9/2 ・新発見! なにわの考古学2024 9/4～10/28 ・心斎橋ときもの一小大丸260年のあゆみー 10/30～12/23 ・稲作民俗事始め一米をつくる技術、米がつくる文化ー 12/25～2/17 ・泉布観ー大阪最古の洋風建築ー 2/19～4/14 エ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。 オ 個人端末による音声ガイド(多言語)を導入・稼働させ、展示の理解度を深める。 カ ハンズオン展示を再実施する。	【令和6年度】 常設展示入場者262,309 人 ア 常設展示の更新は57件を実施した。また、両替商の道具や大型農具の露出展示を行うなど、体感的な展示を実践した。さらに、安全確認のため休止していた考古学体験ゾーンの一部を、ボランティア監視員の配置を前提に再開し、活気ある展示空間を実現した。 イ 夏の天神祭りなど季節や時宜に応じた展示を行った。また、新紙幣への切り替えに伴い、大阪市を通じ受領した福沢諭吉一万円券の最終印刷紙幣を、同様の経緯で受領した最初期印刷紙幣とともに8月に展示した。 ウ 特集展示は下記6本を実施した。 ・わたしが難波橋のライオン像をつくりました!! なにわの彫刻家・天岡均一没後100年記念展 5/8～7/8 ・新収品お披露目展 7/10～9/2 ・新発見! なにわの考古学2024 9/4～10/28 ・心斎橋ときもの一小大丸260年のあゆみー 10/30～12/23 ・稲作民俗事始め一米をつくる技術、米がつくる文化ー 12/25～2/17 ・泉布観ー大阪最古の洋風建築ー 2/19～4/14(予定) エ キャプションの英語表記を充実させるとともに、固定の配布物(考古学体験ゾーンの解説等)については四か国語のリーフレットを整備した。 オ 音声のみの音声ガイドを廃止し、スマートフォンを用いた多言語対応のミュージアムガイドに移行した。これにより、視覚障害だけではなく聴覚障害の方にも対応可能となった。 カ 常時体験できる文楽人形かしらメカや、拓本体験に加え、今年度から新たに両替商体験を実施し、実際の展示物を展示空間内で触る体験を提供した。	3
大阪中之島美術館	所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。 ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。 イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。	所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進めた。 また、令和7年度が2025大阪・関西万博の開催年度であることから、利用者サービスの向上に資するため、創意工夫のもと特別展の一部スペースを活用し所蔵コレクションを夏季の展覧会中に展示するよう準備を完了した。 ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。 イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。	4

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。			中項目No.	5
				小項目No.	29
中期計画	29. 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致及び開催 社会教育施設としての基本的な活動を踏まえつつ、各館の特徴を活かしながらマスメディア等との連携を図り集客力のある展覧会を誘致・開催する。 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。				
法人自己評価		各館においてマスメディア等との共催による展覧会において、目標を大きく超える来館者を迎えた。特に再開館した市立美術館では目標を大きく超える来館者を迎えるとともに、中之島美術館においては年間約67万人を記録する等、地域の賑わいの創出に大きく貢献した。			
4					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	新聞社やテレビ局との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致に注力する。 また、大阪観光局等との連携を図り、効率的かつ効果的に館の市場浸透を図り、主催する展覧会の告知を行う。 【令和4年度実績】 「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」192,277人 【令和5年度実績】	令和6年度開催予定特別展の企画を実施した。 「What’s New! 大阪市立美術館 名品珍品大公開!!」展 目標来館者数：26,825人　＊令和6年12月に上方修正 〈来館者実績〉 有料　20,095名 無料　9,376名 合計　29,471名 目標達成率：109％	4
大阪市立自然史博物館	マスメディア各社と連携して魅力ある特別展の誘致を行うとともに、必要に応じ、所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。 また、当館企画による巡回展の企画を行う。	・巡回展示として実施したネコ展は最終的に90,134人の入場者を得て、好評のうちに閉幕した。来年度の巡回展示として誘致している昆虫マニアックも順調に準備が進んでいる。同規模の入場者を見込んでいる。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	マスメディアとの連携による特別展を企画・開催し、SNSを中心としたWeb広報を推進するとともに、地域の様々な施設・機関との連携による共同広報の充実やチケット販売の促進を図る。 【令和4年度実績】改修工事に伴い、開催なし 【令和6年度目標】 ・大阪市立東洋陶磁美術館リニューアル・オープン記念特別展「シン・東洋陶磁－MOCOコレクション」41,180人（再掲） ・友好都市協定50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流－上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」合計54,700人（再掲）	・NHKエンタープライズの共催、NHK大阪の後援により、リニューアルオープン記念特別展「シン・東洋陶磁－MOCOコレクション」を開催した。9月末までの会期ではあるものの、入館者は当初の予想を大きく超えており、またインバウンドの来館者が占める割合も予想以上であった。 ・NHKエンタープライズの共催、NHK大阪の後援という同じ枠組みで、友好都市協定50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の交流－上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」を実施した。近年、中華人民共和国の文化財を拝借して開催する展覧会がすくなくないためにかなり力を入れることができたが、本展ではかなりの優品の出品承諾を得ることができ、双方の所蔵作品をコラボレーションして展示するといった内容の質を、一段と向上させることができた。	4
大阪市立科学館	近隣の大阪中之島美術館、国立国際美術館、クリエイティブアイランド中之島の参加施設などと連携した活動を行い、新規来館者の増加に努める。	・クリエイティブアイランド中之島連携の一環として、10月～11月に大阪市北区・京阪HDとの連携事業を1件実施した。また、来年度に予定している中之島パビリオンフェスティバルの計画、準備を行っている。 ・中之島美術館での展覧会に関連した普及事業を2件、連携事業として実施した。	3

大阪歴史博物館	マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催する。観光関連事業者等と連携した広報展開を模索する。 ア 在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い誘致に努め、特別展1本を開催する。 「川瀬巴水―旅と郷愁の風景」観覧者数28,200 人 イ 最寄の Osaka Metro 駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metro の事業への協力などを通じての広報を推進する。 【令和4年度実績】Osaka Metroスタンプラリー	マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催し、観光関連事業者等と連携した広報展開を模索した。 ア 読売新聞社、NHKエンタープライズ近畿が共催する特別展「川瀬巴水―旅と郷愁の風景」(10/5～12/2)を開催し、来場者数目標28,200人のところ、29,161人の来場があった。 イ OsakaMetro駅構内の掲示板へのポスター掲示を、特別展、特別企画展で実施した。谷町四丁目駅⑨号出口近くの当館専用掲示板は、駅改修に伴い令和6年中に撤去された。	3
大阪中之島美術館	ホール、芝生広場の貸し出し等と連動した展覧会を実施し、館全体で多様な利用者が楽しむことができる機会の創出を図る。 マスメディア等と連携した特別展を企画・開催する。 【令和4年度実績】 「モディリアーニ」145,766人 「みんなのまち 大阪の肖像」 〔第1期〕19,131人 〔第2期〕14,516人 「岡本太郎」162,534人 「すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」23,549人 「大阪の日本画」43,339人	下記のとおりマスメディア等と連携した特別展を開催し年間で60万人を超える来館者を迎えるなど大阪における賑わいの創出に大きく貢献した。 【令和6年度実績】 「モネ 連作の情景」 目標300,000人(3,750人/日) 通期実績451,842人(5,648人/日) ※うち2024年度目標131,250人(3,750人/日) 実績218,775人(6,251人/日) 「没後50年 福田平八郎」 目標46,000人(836人/日) 通期実績54,557人(991人/日) ※うち2024年度目標29,273人(836人/日) 実績41,603人(1,188人/日) 「没後30年 木下佳通代」 目標25,000人(329人/日) 実績23,429人(308人/日) 「開創1150年記念 醍醐寺 国宝展」 目標100,000人(1,587人/日) 実績56,510人(896人/日) 「塩田千春 つながる私(アイ)」 目標120,000人(1,765人/日) 実績115,591人(1,700人/日) 「開館3周年記念特別展 TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」(2024.9.14～12.8:74日間) 目標100,000人(1,351人/日) 実績96,572人(1,305人/日) 「Space In-Between:吉川静子とヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン」 目標20,000人(303人/日) 実績15,317人(232人/日) 「歌川国芳展 一奇才絵師の魔力」 目標70,000人(1,272人/日) 実績89,814人(1,632人/日) 「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション」(開催中) 目標98,000人(1,180人/日) ※うち2024年度目標11,807人(1,180人/日) 実績9,415人(1,046人/日) 「生誕150年記念 上村松園」(開催中) 目標:80,000人(1,403人/日) ※うち2024年度目標2,807人(1,403人/日) 実績2,674人(1,337人/日) 【年間】目標入場者数:610,137人(当初目標) 総入場者数:669,700人 ※目標入場者数については会期途中で上方修正したものもあり、最終目標は約68万人。	4

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。			中項目No.	5
				小項目No.	30
中期計画	30. 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長(再掲) 2025年大阪・関西万博開催を契機として、マーケティング・リサーチにより把握した来9館者のニーズを踏まえて、来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長を計画的に進める。 具体的には、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館においては、夜間開館を2024年度に試行実施し、大阪市立美術館を含め3館は2025年度の大阪・関西万博期間中に本格実施をしていく。 それらの検証結果を踏まえ、2026年度以降に最適な開館時間の延長を実施できるよう計画的に進めていく。				
法人自己評価		東洋陶磁美術館では夜間開館を、科学館・歴史博物館・中之島美術館では開館延長等を試行的に実施した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	夜間運営を行う予定のカフェの入店状況より、開館時間延長の来館者ニーズや運営上の影響を分析する。	3月1日に開設したカフェ・施設の利用状況について利用状況を踏まえ運営上の影響について現状把握を行った。	3
大阪市立自然史博物館	ア TeamLABO事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展などの機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館などを行う。 イ 観察会などを伴った特別な付加価値を持った夜間開館について検討と試行を行う。	ア 特別展は共催者の意向により夜間鑑賞は実施しなかった。民間との連携により夜間の常設展示利用の企画(ナショナル ジオグラフィックナイトミュージアム)を実施した。 (200名の募集に対し、応募件数 1,598件(人数 5,434名)。当日参加は156名)またTeamLABOとJR西日本の共同企画イベントにおいて、クジラポーチをユニークベニユー的活用として提供した。 イ 友の会とともに検討・試行を行った。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	令和6年度の光の饗宴開催期間中に、夜間開館の試行実施を行い、令和7年度の本格実施の準備を進める。	- 光の饗宴開催期間中の12/20、12/21の2日間に夜間開館を実施した。12/20(金)、12/21(土):夜間開館(9:30-19:00)、12/20:16時30分以降の入館者数:26名、12/21:16時30分以降の入館者数:22名 - 中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリーデーを開催。8/5(月)来館者実績は64名。 ご家族連れのお客様が安心して来館できたと好評であった。 2025年度の開館日、イベントにも反映する。	3
大阪市立科学館	リニューアル・オープン直後の土日祝日とお盆時期については、展示場のオープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。	リニューアルオープン直後である8月の土日祝日とお盆期間の合計13日間、展示場オープン時間を18時まで1時間延長し、またプラネタリウムは17時開始の投影を追加した。その結果、延長分のプラネタリウム13日中12日が満席となり、来館者のニーズに一定答えることができた。	4
大阪歴史博物館	ア 令和5年度など過去の取組実績のデータをもとに、人件費などを勘案しながら、夜間開館延長を試験的に実施する。 イ 事務局が実施しているマーケティング・リサーチ結果をもとに夜間開館における来館者ニーズを分析する。 ウ SNSなどによる夜間開館延長に関する情報発信を実施する。	ア 令和5年度など過去の取組実績のデータをもとに、人件費などを勘案しながら、夜間開館延長を試験的に実施した。 【令和6年度実績】 8/21～26の6日間、17:00～18:00に実施(入館は17:30まで)、86人来館 イ 事務局が実施しているマーケティング・リサーチおよび過去の夜間開館の実績を検討し、判断に役立てた。 ウ 館のホームページへの掲載およびX(旧Twitter)の投稿により、夜間開館延長の情報を発信した。	3
大阪中之島美術館	3月から5月に行われるモネ展において全日1時間の開館時間延長を行い、万博開催時の試行とする。	3月から5月に行われるモネ展において全日1時間の開館時間延長を行い利用者の利便性の向上に寄与するとともに、次年度の開館延長に備えた。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。			中項目No.	5
				小項目No.	31
中期計画	31. 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 パンフレット、展示解説文等の多言語化を進めることとし、デジタル機器(情報端末)などを積極的に活用する。高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性の向上を図るため、バリアフリー化を推進する				
法人自己評価		各館において計画通りICTを活用した多言語化を進めた。特に二次元コードを用いた多言語対応ソリューションの導入により、館内パンフレットの多言語化を推進した。(東洋陶磁美術館:11ヵ国語、科学館:15ヵ国語)			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	改修工事によるバリアフリーの向上実現と、今後のインバウンド需要に向けた展示室内の各種情報の多言語化推進を図る。	展示室内各種情報については、グーグル翻訳などのアプリで多言語化対応を行った。外国人観光客による、館内で順路に迷うなどのクレームはなかった。	3
大阪市立自然史博物館	ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。 イ 常設展示場内における外国語表記について二次元コードを利用した解説など多様な手法について展示委員会にて他館事例などの情報収集を進め、試行を行う。 ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証とスタッフによる案内の改善を行う。	ア 教員向け研修の場などでも非日本語話者の生徒の増加などが伝えられており、学校利用も含めた包摂的な取り組みが必要と認識し検討をしている。 イ 外国人旅行者のスマートフォンによる自動翻訳利用が進み、最適な案内方法について再検討が必要な状況にあると考えている。 ウ スタッフ間での研修を進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 主要館蔵品61件の多言語対応の無料解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供とその充実を図る。 イ 館内パンフレットに二次元コードを利用した多言語対応ソリューションを取り入れ、スマートフォン等で11ヶ国語の翻訳表示を可能にする等、多様な来館者へ快適な鑑賞環境を提供する。	・主要館蔵品61件の多言語対応の無料解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供とその充実を図った。 ・館内パンフレットに二次元コードを利用した多言語対応ソリューション(QRトランスレーター)を取り入れ、スマートフォン等で11ヶ国語の翻訳表示を可能にする等、多様な来館者へ快適な鑑賞環境を提供することができた。インバウンドの来館者への利便性向上をすることが出来た。対応している言語数は11ヶ国語(日本語、英語、中国語(簡体、繁体)韓国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語)	4
大阪市立科学館	ア Osaka Free Wi-Fiサービスを提供し、来館者の利用に供する。 イ 施設案内サイン等(非常時の案内を含む)の多言語表記・ピクトの活用を統一的に行う。 ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。 エ ホームページ、リーフレットの英語・中国語(簡体字)・韓国語対応を進める。 オ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化に取り組む。	ア Osaka Free wi-fi サービスを提供し、館内でアクセスできるようにしている。 イ リニューアルに伴い、館内サインには日本語と英語、必要に応じてピクトグラムを表記した。また、単語で説明できるサイン、安全や利便性に関わるサインについては、中国語(簡体字)、韓国語も表記している。 ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッドを設置しており、改装工事に伴い新たに独立した授乳スペース2か所を設置した。 エ 英語版館内リーフレットを制作、発行した。中国語(簡体字)、韓国語についてはQRコードからpdfをダウンロードできるようにした。また、QR Translatorを導入し、日本語、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語のほか、計15言語について、二次元コードをスキャンすることで、リーフレットの掲載内容をオンラインで閲覧できるようにし、国内外からの来館者の利便性を高めた。 オ 各展示物の解説パネルにQRコードを表示し、オンラインで日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国語での解説を読むことができるようにした。 その他、プラネタリウム(B番組)において、赤外線補聴システムを利用した英語音声を提供した。	3
大阪歴史博物館	ア 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。 イ 展示室のネットワーク環境を活用し、個人端末による音声ガイド(多言語)を導入する。	ア キャプションの英語表記を充実させるとともに、固定の配布物(考古学体験ゾーンの解説等)については四か国語のリーフレットを整備した。 イ 音声のみの音声ガイドに代わり、多言語対応のスマートフォンを用いたミュージアムガイドに移行した。このことにより、視覚障害だけではなく聴覚障害の方にも対応可能となった。	3
大阪中之島美術館	施設案内等の多言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。	施設案内等の多言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努めた。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。			中項目No.	5
				小項目No.	32
中期計画	32. 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 施設内外に、図柄や多言語を用いた直感的に認識できるサインを掲出することにより、来館者の利便性の向上を図る。				
法人自己評価		各館において施設のサイン充実に努めた。特に改修等を行った市立美術館、東洋陶磁美術館及び科学館においては図柄や多言語を用い来館者にとって分かりやすい案内表示の整備を推進した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	令和5年度策定のサイン計画に基づき、館内サインを作成し配置する。	壁色とサインのコントラスト及び位置の工夫で見えやすさを追求し、英字とピクトを導入することで多国籍対応を実施した。 本館1F2Fの男女トイレに、入り間違いが発生したため補助サインを設ける対応をした。	3
大阪市立自然史博物館	ア 長居植物園・長居パークセンターと協調して進める。	ア 特に特別展などの催事案内に重点を置いてスムーズな案内を行うべく進めている。 3月に情報センター内のサイン掲示について協議し、一定の改善を行った。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	キャラクターや数字・色などを生かした新たなサイン表示により、来館者に分かりやすい案内誘導に努める。	・館蔵品のモチーフによるキャラクターや数字・色などを生かした新たなサイン計画により、来館者に分かりやすく、展示の特色を明確化した案内誘導に努めた。しかし実際には、順路が分かりにくいという来館者からの声が、アンケートや受付監視スタッフを通して聞こえてきており、改善を検討したい。	3
大阪市立科学館	ア 施設案内等に日英を中心とした多言語表記を導入するとともに、ピクトグラムを導入し、来館者にわかりやすい案内を行う。 イ 館内サインの配置等の見直しを実施する。	ア リニューアルを機に館内掲示を全面的に見直し、主要な館内施設等の看板や案内表示は日本語と英語で表記し、必要に応じて中国語(簡体字)と韓国語を併記したものに更新した。また、ピクトグラムも導入し、来館者の利便性を向上させた。 イ リニューアルを機に館内サインの配置を全面的に見直し、更新した。 なお、ア及びイの目的を達成するために、多言語対応への有用性々と視認性の高い「noto sans」というフォントを採用した。	3
大阪歴史博物館	ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進める。 イ 大阪城及び難波宮への来訪者にもわかりやすい屋外デザイン表示の拡充を進める。 ウ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。	ア インバウンドの来館状況や個人端末による翻訳技術の進展を注視し、今後の施設案内等の多言語化の検討を進めた。 イ NHK大阪放送局と共同で、屋外階段等へ博物館へ誘導するビジュアルサインを設置した。 ウ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図った。	3
大阪中之島美術館	施設案内等の多言語化を推進する等、外国人にもわかりやすい案内表示を行う。	施設案内等の多言語化を推進する等、外国人にもわかりやすい案内表示を実施した。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携し、相互割引やイベントの企画及び実施並びに広報の展開を通じて各館及びその周辺エリアの魅力向上を目指す。			中項目No.	6
				小項目No.	33
中期計画	33. 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (大阪市立美術館)「慶沢園」や「てんしば」「天王寺動物園」との誘客連携 (大阪市立自然史博物館)「長居公園を中心とする周辺施設」との誘客連携 (大阪歴史博物館)「大阪城」や「難波宮跡」との誘客連携 (大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館及び大阪中之島美術館等)地域の関連施設等との誘客連携				
法人自己評価		各館とも積極的に周辺施設と積極的に連携し、共同事業の実施や共同広報を通じて地域の活性化を図った。市立美術館ではハルカスのこども美術館と教育普及活動を実施し、歴史博物館では民間事業者との協働事業企画や難波宮跡公園との連携を進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 慶沢園との連携を実施する。 イ 周辺エリアの事業者等と連携を協議する。	ハルカスのこども美術館との連携で教育普及事業を実施した。 3月22日ファミリーデー「アートカードで楽しむ美術館」を2回開催した。 参加者数:32名	3
大阪市立自然史博物館	ア 特別展などの機会を捉えた周辺飲食店との連携を行う。 イ セレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアムでの試合開催時の特別展PRなどを推進する。 ウ 大阪自然史センターと連携したショッピングモールなどでのPR展開を特別展などの催事に合わせて企画・推進する。 エ 長居植物園と連携した50周年記念事業を実施する。	ア 特別展開連のキャンペーン商品企画などを進めている。 イ ネコ展でのキャンペーン告知、ユニフォーム着用割引などを行った。 ウ イオン藤井寺店にて大阪自然史センターが自然史ワークショップを実施、合わせて特別展などのPRを展開した。 エ 長居植物園と連携し、記念展示、式典、シンポジウムなどを実施した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進する。	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進した。 ・毎月のプロジェクト会議への参加 ・実行委員会への参加 ・上記実行委員会との共同企画で「中国文化とお茶を楽しむ ナイトミュージアム」を11/21に開催した。 ・中国の火鍋ブランド「海底撈火鍋(かいていろうひなべ)」心斎橋店の協力のもと、中国四川の伝統芸能「変面」を、3回(2/9、2/16、2/23)開催した。	3
大阪市立科学館	ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。 ウ 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携に協力、実施する。 エ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリア B1、中之島ウエスト・エリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。 オ 国立国際美術館、大阪大学中之島センター内カフェとの連携を実施する。	ア Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関やショッピングモールやスーパー、金融機関にポスターを掲示した。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置した。 ウ クリエイティブアイランド中之島に参加し、実行委員会とワーキンググループに参加し、併せて協力関係にある中之島パビリオンフェスティバルとの連携を実施した。 エ 中之島ウエスト・エリアプロモーションの事業に参加した。またアートエリア B1と大阪市北区役所、京阪ホールディングスとの共催事業を実施した。 オ カフェは8月1日の開業以降、想定以上の利用者を迎えたため、混乱を回避するために、連携等さらなる集客に向けての取組みを見送った。	3

大阪歴史博物館	ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。 イ 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続やOsaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。 ウ 周辺の商業施設(もりのみやキューズモールBASE、近鉄百貨店各店など)との共同広報展開を継続する。また令和7年に本格化する難波宮公園整備事業との連携を深める。 エ 「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業による提案をもとに「ユニークベニュー事業」や「学び×エンタメ事業」に協力して実施することで館の魅力を向上させる。 オ 「生きた建築ミュージアムフェスティバル(イケフェス大阪)」や「OSAKA CLASSIC」など大阪市で開催されている文化イベントの関連を深めることで、博物館に関心が低い方々への周知を行う。 カ NHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続 し、BK大感謝祭等にあわせた企画を実施する。 キ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。(再掲) ク 各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。 ケ 民間企業と協働でイベントを企画し実行する。 【令和4年度実績】特別企画展1件、クラブツーリズム2件、大阪迎賓館1件 【令和6年度目標】特集展示1件、クラブツーリズム2件、大阪迎賓館1件 コ 民間企業と共同でイベント等企画開発を行うべく営業活動を実行する。 【令和4年度実績】協力可能な民間事業者を探すため、各社にサウンディングを実施した。 【令和6年度目標】民間連携事業者と調整しながら事業の調整、実施可否判断をしながら事業を進める。	ア 令和7年度からの大阪城天守閣の料金変更に伴い、共通券のこれまでの販売状況を分析した結果、継続はいったん白紙とした。令和6年は12月まで発行し、1月から販売中止、相互割引については継続検討中である。 イ OsakaMetroの駅構内掲示板へ特別展・特別企画展のポスター掲示を継続した。谷町四丁目駅出口通路の当館専用掲示板は駅改修のため令和6年中に撤去された。 ウ 館周辺では令和7年春にオープンする難波宮跡公園「なノにわ」および「パティナーナ大阪」(代表企業:NTT都市開発株式会社)との連携に向けて準備を進めている。上町台地エリアではあべのハルカス近鉄本店と連携して店内に展覧会年間予定・ポスター・チラシを設置し、また近鉄百貨店上本町店でもデジタルサイネージによる展覧会広報を行った。 エ 「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業による提案をもとに「学び×エンタメ事業」に協力し館の魅力を向上させた。 【令和6年度実績】 ショップでのワークショップ 10回 286名参加(3/末時点) オ 「生きた建築ミュージアムフェスティバル(イケフェス大阪)」に令和5年度に引き続き参画し、10月に館内ツアーを実施した。 【令和6年度実績】 10名参加 カ NHK大阪放送局および関連会社との展覧会企画について検討を進めた。秋のBK大感謝祭において常設展示等の広報を実施した。 キ 令和4年度に開始した大阪迎賓館(バリューマネージメント社・大阪城西の丸庭園内)によるナイトミュージアムとディナーのセット企画を7月・8月に2回継続実施した。(参加者39名・32名)(再掲) ク 大阪市立美術館が休館中のため、単館であべのハルカス近鉄本店への特別企画展・特別展ポスター掲示、チラシ設置を実施した。(再掲) ケ 民間企業と協働でイベントを企画し実行した。 【令和5年度実績】 クラブツーリズム3件、大阪迎賓館1件 【令和6年度実績】 特集展示1件、クラブツーリズム5件9回、大阪迎賓館1件2回 コ 民間企業と共同でイベント等企画開発を行うべく営業活動を実行した。 【令和6年度実績】 レストラン、ショップのリニューアル。ショップ事業者と連携して「学び×エンタメ事業」を10回実施(ショップでのワークショップ、レストランでの日本酒イベントなど)。公益社団法人ストリートダンススタジオ協会、NPO法人関西演芸推進協議会、大阪観光局との連携により「Hello!おもてなしジュニアプロジェクト」をアトリウムで2回開催。	4
大阪中之島美術館	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」、「中之島ウエスト・エリアプロモーション」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」、「中之島ウエスト・エリアプロモーション」に参加し、他館や周辺事業者等と連携したイベントや広報に積極的に協力、実施した。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(3) 民間企業等との協働等 各館のサービスの充実及び観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の活性化のため、次の通り民間企業等との協働及び相互支援を推進する。			中項目No.	7
				小項目No.	34
中期計画	34. 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 ミュージアムショップやカフェ・レストランについて、民間事業者と連携して、商品開発や快適な空間の提供など来館者サービスの充実を図る。				
法人自己評価		市立美術館では予定通り開館にあわせてミュージアムショップ・館内カフェをオープンした。東洋陶磁美術館ではカフェ・ショップ事業者と協働して館蔵品をモチーフとしたオリジナルメニューを開発する等、来館者サービスの向上を図った。歴史博物館においても民間事業者と連携して展覧会ごとにオリジナルグッズの開発を行った。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア ミュージアムショップの委託事業者を決定しオープンする。 イ 館内カフェの委託事業者を決定しオープンする。	ミュージアムショップ及び館内カフェを計画通り再開館にあわせ店舗をオープンした。 ・ミュージアムショップ 3月売上:531万円 ・カフェ 3月売上:687万円	3
大阪市立自然史博物館	ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供できるように努める。	ア ミュージアムショップを継続的に提供し、イラスト展、ネコ展ともに主題に寄ったオリジナルグッズ企画(合計10点以上)と関連商品展開を行った。また、貝に沼る展に向けて作成した大判風呂敷が好評を博している。 イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供している。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	民間事業者と連携し、カフェ、ミュージアムショップにおいて館の魅力を来館者に伝えることができるメニュー開発やグッズ開発、制作による魅力向上やサービスの充実を図る。	・カフェ、ショップ事業者とのコラボ商品開発を推進し、カフェでは、当館オリジナルメニューを開発、顧客に提供した。オリジナルメニューとしては、白磁刻花、木葉天目をモチーフとしたスイーツ、陶片をイメージしたクッキー、飛青磁花生や紫紅釉盆をモチーフとしたドリンクなどがあり、SNSなどで人気メニューとして発信されている。 ・ショップについても、当館作品とのコラボ商品を数多く開発、一例として、サーモボトル、マグネットなどが好評を博し、それを目当てに来店されるお客様が増加している。	4
大阪市立科学館	ア リニューアルに伴いミュージアムショップの面積を拡大し、また民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。 イ 休憩スペースを兼ねたカフェスペースを新設し、館内での滞在時間をより快適に過ごせるようにする。	ア 1階ミュージアムショップを移転、面積を拡大するとともに、付せん、マグカップ、トートバッグ、マスキングテープ、ラバーキーホルダー、タオルハンカチ、缶バッジ、星座早見盤などのオリジナル商品の開発し、販売を開始した。 イ 地下1階アトリウムにカフェ店舗と、休憩スペースを兼ねたカフェスペースを新設し、来館者が快適に滞在できるようにサービスの充実を図った。	3
大阪歴史博物館	ミュージアムショップ、レストランともに「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業と共同で館の魅力向上を推進する。	レストラン、ショップをリニューアルし、ともに「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業と共同で館の魅力向上を推進した。 ・レストラン:特別展・特別企画展ごとに展覧会コラボメニュー9商品を開発・販売。 ・ショップ:館蔵品および展覧会展出資料を使用したシルクスクリーン印刷ワークショップを開催。好評な資料を使用したオリジナルグッズを3月から発売開始。 ・学び×エンタメ事業:大阪の伝統工芸技術を体験できるワークショップ、特集展示と関連付けた「大阪産日本酒の試飲イベント」などを試験的に実施、来年度以降の本格展開につなげることができた。 ・広報・情報発信支援事業:当館の未来館者をターゲットとしたランディングページを構築。3月末に公開。Googleアナリティクスによる分析を行いながら周知、来客につなげていく。	4
大阪中之島美術館	ア 民間事業者と展覧会に関連したオリジナルグッズを開発する。 イ レストランと連携して、展覧会に関連したメニューを開発する。	ア 特別展の開催時等において、民間事業者等と展覧会に関連したオリジナルグッズを開発し利用者サービスの向上に寄与した。 イ レストラン等と連携しメニュー開発に取り組んだ。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②	
中期目標	(3) 民間企業等との協働等 各館のサービスの充実及び観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の活性化のため、次の通り民間企業等との協働及び相互支援を推進する。				中項目No.	7
					小項目No.	35
中期計画	35. 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 民間事業者等と協働したミュージアムグッズの企画と商品化等を図る。 民間事業者等と協働し、AIの活用などによる展示設備の開発を進める。					
法人自己評価		各館ごとにミュージアムショップや館内カフェ事業者と連携し、博物館・美術館に関連するグッズを開発し商品化を図った。				
3						

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	リニューアル・オープンに向け、オリジナルグッズを販売できるよう、ミュージアムショップ委託事業者と連携し商品開発を行う。	・館蔵品や施設外観をあしらったオリジナルグッズ開発点数 15アイテムー73SKU ・地域振興として、地域特産物の泉州タオル”にじゆら”とのコラボレーション商品を開発する。	3
大阪市立自然史博物館	ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供できるように努める。 ウ 民間出版社と協力した書籍の作成を行う。	ア ミュージアムショップを継続的に提供し、イラスト展、ネコ展ともに主題に寄り添ったオリジナルグッズ企画(合計10点以上)と関連商品展開を行った。また、貝に沼る展に向けて作成した大判風呂敷が好評を博している。(再掲) イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供している。 ウ 過去に出版した書籍の改定新版作成の企画が進んでいる。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を進める。	・商品化件数は7件。ロールステッカー、アクリルマグネット、アクリルバッジ、Tシャツ(婦女俑)、コットンポーチ、ポケットサーモボトル、有田焼ガラスペンなど、今までにないコラボ商品のため、他では買えない記念品として購入される方が多い。	3
大阪市立科学館	民間事業者との連携で、ミュージアムショップの商品の充実を図る。	・ミュージアムグッズとして、館のロゴやカールツアイスⅡ型プラネタリウムをデザインした記念メダル、付せん、マグカップ、マグネットなどを新たな商品を10件開発・販売した。	3
大阪歴史博物館	令和5年度に選定した民間連携事業を受託した事業体の運営によるミュージアムショップで販売するグッズ選定・開発を進める。 【令和4年度実績】 独自にオリジナルグッズ8種類を開発し、ショップ及びオンラインショップで販売。 【令和6年度目標】 民間連携事業者とも連携してグッズ開発計画を立てる。	民間連携事業を受託した事業体の運営によるミュージアムショップと共同で、新規のミュージアムグッズを開発し商品化を行った。引き続きショップ運営事業者とは魅力あるミュージアムグッズの開発のため、来館者のニーズを分析中。レストラン運営事業者とは、特別展・特別企画展においてコラボメニューを展開した。 ・ミュージアムグッズ商品化:3アイテム5商品 ・レストランでの展覧会コラボメニュー:3展覧会9品目	4
大阪中之島美術館	テナントのショップ事業者と協働してミュージアムグッズの開発・販売を行う。	テナントのショップ事業者と協働してミュージアムグッズの開発・販売を行った。	3

大項目Ⅰ-②		2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」		大項目No.	1-②
中期目標	(3) 民間企業等との協働等 各館のサービスの充実及び観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の活性化のため、次の通り民間企業等との協働及び相互支援を推進する。			中項目No.	7
				小項目No.	36
中期計画	36. 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 専門的知識に基づく助言等を行うことにより、民間企業や住民活動を行う団体等を支援する。 博物館等資料を使った出版活動や商品開発を支援する。 企業のCSR活動の支援を行う。				
法人自己評価		各館とも計画通り画像提供等を通じて民間事業者等の活動の支援を行った。 自然史博物館では大阪府内の市町村や周辺自治体の環境行政への協力を積極的に進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	各種出版や商品開発のための画像データを提供する。 【令和4年度実績】63 件	・各種出版や商品開発のための館蔵資料の画像データの提供を実施した。 提供件数:43件	3
大阪市立自然史博物館	ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行う。 イ 能勢町の保護上重要な生物に関して、大阪府の生物多様性地域戦略検討委員等として協力を行う。 ウ 兼業等を含め、民間企業等への講師派遣を行う。 エ 長居公園みどり自然部会への協力を行う。	ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、河内長野市、京都府、奈良県等の環境行政に委員等として協力を行っている。 イ 能勢町事業は一定の区切りがついている。そのほか、和泉市をはじめ各地の文化財行政、自然環境行政に協力している。 ウ 兼業等を含め、民間団体等への講師派遣を行っている。 エ 長居公園みどり自然部会への協力を行っている。 また長居植物園で開催されているteam-Labが植物園内の鳥類に与える影響調査(鳥類モニタリング)について、事務局・オブザーバーとして参画している。 この他、企業緑地での生物多様性関連の質問や同定依頼に数多く協力している。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	民間事業者との協働やオープンデータ化した館蔵品画像による出版や商品開発を促進する。 【令和4年度実績】写真貸出12件(国内9件、国外3件)	写真貸出 18件(国内 12件、国外 1件) うち書籍出版 1件	3
大阪市立科学館	館蔵資料や展示物の画像データの提供、専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。 【令和4年度実績】民間事業者への画像有償提供6件	館蔵資料や展示物の画像データの提供や専門的な問い合わせは1件。民間事業者への画像有償提供は6件行った。	3
大阪歴史博物館	ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、住民団体の要請に応える。 【令和4年度実績】特別観覧242件 イ 資料及び関連情報を活用し、住民が館外でも楽しめる事業・サービスを民間事業者と共同で事業計画の協議を進める。 ウ 通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。	ア 各方面より館蔵資料利用についての問い合わせを日常的に受けており、企画が実現するよう対応している。 【令和5年度実績】 特別観覧278件 【令和6年度実績】 特別観覧167件 イ 難波宮整備事業において現地設置看板に用いるための画像の撮影や提供、専門的知識の助言を行った。 ウ 通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく、法人賛助会員の獲得活動を試みた。	3
大阪中之島美術館	ア 館蔵資料や展示物の画像データを有料又は無料で提供する。 イ 専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。	ア 引き続き館蔵資料や展示物の画像データ提供を有料又は無料で実施した。 イ 美術館の専門分野にかかる問い合わせ・取材対応等を通じて、企業や自治体活動の要請に応えた。	3

大項目Ⅰ-③		3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」		大項目No.	1-③
中期 目 標	(1) こども及び教員等への支援 博物館等の活動に関連するこどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。			中項目No.	8
				小項目No.	37
中期 計 画	37. こども及び教育等への支援 博物館等の活動に関連するこどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施を行う。 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援を行う。 学校教育との連携をさらに推進し、共同で博物館内での学習、出前授業など学習支援を行う。				
法人自己評価		各館とも講演会や見学会等の教育普及活動を積極的に展開した。また、教員の資質向上のための教員支援施策を積極的に実施した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ワークショップ等のこども向け事業の計画構想をまとめる。また令和7年度から開始するコレクション展で使用するこども向けワークシートを作成する。 【令和4年度実績】 天王寺ジュニアクラブ 実施件数1件、参加人数 40 人 文化財修理ワークショップ 実施件数1件、参加人数 14 人 アートプログラミングワークショップ 実施件数1件、参加人数 13人	・「What’s New! 大阪市立美術館 名品珍品大公開!!」展特別鑑賞日ーファミリーデーを開催した。(3月22日) 開催数:2回 参加者数:32名 その際、対話型鑑賞プログラムの実施と、「美術館の所蔵品」アートカードを作成した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 子ども向けのセルフワークシートとして探検ノートを開発し、配布する。 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。 ウ 「教員のための博物館の日」を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。 エ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用方法の周知に努める。 オ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。 カ 職場体験を受け入れる。	ア 子ども向けのセルフワークシートとして探検ノートを開発し、定期的に新たな問題を作成し配布している。 イ 子どもワークショップも特別展の主題や常設展示内の展示物と連動した企画を行い、来館者の理解を促進した。また、この取り組みが文化庁によりビデオ紹介されることとなった。(再掲) ウ 「教員のための博物館の日」を開催(8月68日、76人参加)し、そのほかにも大阪市教育センターなどと協力して学校利用のための研修や相談に対応している。 また学校団体からのリクエストを受けて、学芸員による授業や実習を行い、自然に関する質問や職業インタビュー等の対応も行った、(授業・実習19件、質問対応9件) エ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し(4回/年)、利用方法の周知に努めている。 オ 教員と連携した貸出資料(103件)・学習キットの開発に努めている。 カ 職場体験を受け入れている。(8校、15人)	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ワークショップの実施に向けての準備を進める。	・中学生以下の子どもとその保護者を対象とした「MOCOファミリースペシャルデー」を開催。来館者実績は64名。 ご家族連れのお客様が安心して来館できたと好評であった。 ・大阪大学学術総合博物館と連携して高校生向けのイベントを開催し、ワークショップを行った ・令和7年5月17日に、館名石を磨参加型くワークショップ「Love Stone Project×MOCO」の開催に向けた準備を行った。	3
大阪市立科学館	ア 学習指導要領に対応した新展示場ワークシートを試作する。 イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、観覧者に天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を配布する。 【令和4年度実績】 学習投影実施234回 ウ 小中学生を対象としたワークショップを常設展示場にて実施する。 エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。 【令和4年度実績】 ファミリータイム投影450回 オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。 カ 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。 【令和4年度実績】 研修4件のべ6日実施。80名参加	ア 展示場ワークシートを試作し、本格公開のための館内テストを行っている。 イ 学校団体向けの学習投影を153回実施し、観覧者には学習資料を配布している。 ウ 展示場1階「みんなのサイエンスラボ」で、来館者むけのワークショップを1回、特別イベント(PV)を1回、また、企画展「万博で夢見たサイエンス」に関連したワークショップを3回実施した。 エ) 小学校5-6年生を対象としたジュニア科学クラブ(会員制)を月1回実施した。 オ) 小学校向け出張サイエンスショーを10校に対して実施した。 カ) 大阪市教育センターと連携した教員研修を1回実施した。	3

大阪歴史博物館	ア 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施し、それに係るワークシート等の作成を行う。 【令和4年度実績】実施件数4件、参加人数134人 【令和6年度目標】実施件数4件 イ 教員研修への協力として「教員のための博物館の日」を実施する。またワークショップの開催等を通じて、館活動の周知と教材開発への支援を行う。 【令和4年度実績】実施件数2件、参加人数47人 【令和6年度目標】実施件数2件 ウ 地元の小中学校への郷土史学習コンテンツやイベントを共同で企画し、館への参画・利用を働きかける。 【令和4年度実績】「和菓子、いとおかし」プロジェクト(2回開催) 【令和6年度目標】1回開催	ア わくわく子ども教室「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！@れきはくコットンプロジェクト」(5/5・6:81名、3/30:112名)、「なりきり三英傑～ 戦国武将のお面を作つくろう」(5/5・6:26名)、「考古学者になつてみよう 出土したカケラで古代遺跡の謎を解け！」(7/27:15名)、「組ひもにチャレンジ！」(8/11:35名)、「凧作りと凧揚げ」(1/27:33名)を実施した。延べ8日、参加者302名。 【令和5年度実績】 延べ6日、参加者205名。 イ 大阪市教育センターと協力し、8/5に教員研修を実施した(47名)。今年度は令和5年度に実施した「手で触って観察する考古学の出前授業」等の成果について報告し、研修では体験プログラム(綿くり・拓本)を実施し、学校団体の来館および出前授業等の促進を図った。中学校教員の2年目研修として2名を受け入れた。 【令和5年度実績】 47名 ウ 小学校向け来館授業1回(講義)、出張授業1回(綿くり体験)を実施した。 【令和5年度実績】 「教員のための博物館の日」・教員研修で、「和菓子プロジェクト」、特集展示「ナニコレの考古学」の取り組み、「ふわふわの綿花かタネを取り出そう！@れきはくコットンプロジェクト」を紹介。	3
大阪中之島美術館	ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施する。 【令和4年度実績】ワークショップ 実施件数4件、参加人数122人 イ 大阪ロータリークラブの支援を受けたこどもの鑑賞教室を開催する。 【令和4年度実績】ワークショップ 実施件数1件(2日間4回)、参加人数40人 ウ 展覧会に際してこども向けワークシートを配布する。	ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施した。 イ 大阪ロータリークラブの支援を受けたこどもの鑑賞教室を開催する。 ウ 展覧会に際してこども向けワークシートを配布する。 【令和6年度実績】ワークショップ等 実施件数7件	3

大項目Ⅰ-③		3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」		大項目No.	1-③
中期目標	(2) 幅広い来館者への支援 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施のみならず、さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるための支援メニューの充実に取り組む。			中項目No.	9
				小項目No.	38
中期計画	38. 幅広い来館者への支援 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施のみならず、さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるための支援メニューの充実に取り組む。 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業を行う。				
法人自己評価		大学への講義の提供や大阪商工会議所との包括連携に基づくなにわなんでもWEBチャレンジへの問題提供等(計4回実施)に加え、講演会や教育実習の受入れを通じて幅広い教育支援への取組を進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	計画なし	令和7年度より博物館実習の受け入れ再開する予定。	3
大阪市立自然史博物館	ア 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。 イ 博物館実習生・インターン・専門研究のための利用など多くの学生を受け入れ支援する。	ア 1月に視覚障害者対応のための3Dデータ活用に関する講義と実習を実施し、更に3月に視覚障害者向けバックヤードツアーを実施した。 イ 夏期、秋期、冬期に博物館実習生54名を受け入れた。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を行う。 イ 研修生や博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れを推進する。 【令和4年度実績】 ・見学実習 改修工事に伴い、実施なし ・インターン1名を受入れ(継続)	ア コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を行った。 ・シン展:2回 ・上海展:2回 イ 研修生や博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れを推進した。 ・大阪公立大学:38人(展示論の講義と見学)	3
大阪市立科学館	ア 博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。 【令和4年度実績】実習受講者5名 イ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。 ウ 市井の研究者と学芸員の協働による中之島科学研究所事業を行う。 【令和4年度実績】コロキウム11回実施、参加者158名	ア 博物館実習を9月19～26日に実施した。受講者2名。 イ 今年度4～7月は休館のため実績なし。7月より機構HPのキャンパスメンバーズページにてプログラムを周知している。 ウ 中之島科学研究所コロキウムを毎月1回開催し、今年度は8回実施した。	3
大阪歴史博物館	ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連続講座・見学会などを実施する。 【令和4年度実績】講座11回、参加人数784人、見学会2回、参加人数38人 【令和6年度目標】講座6回、参加人数350人、見学会4回、参加人数60人 イ 博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れるとともに、学校からの要望に応じて職業体験や出前授業を実施する。 【令和4年度実績】博物館実習:実施2回、参加数9大学52人、見学実習4大学、参加人数80人、中学生向け職業体験:3校6名 職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等:中学校1校、高等学校4校 【令和6年度目標】 博物館実習:実施2回、参加人数40人、見学実習 中学生向け職業体験、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等	ア なにわ歴博講座3回(286名)、なにわの日講演会(178名)を実施、見学会は展覧会企画として8回実施し125名の参加を得た。 【令和5年度実績】 講座7回279名、講演会8回590名、見学会13回198名 イ 8/19から8/30まで2期に分けて博物館実習を行い、9大学29名の実習生を受け入れた。見学実習は9大学366名を受け入れた。その他、中高生向け職業体験:4校11名、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等:高等学校2校、中学校1校を受け入れた。 【令和5年度実績】 博物館実習:実施2回、参加数12大学50人、見学実習7大学、参加人数255人、中高生向け職業体験:3校7名 職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等:高等学校2校、大学1校	3
大阪中之島美術館	ア コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を行う。 イ 博物館学を開講する大学の実習の受け入れを行う。 【令和4年度実績】実施なし	ア コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を展開した。 イ 教員向けワークショップを開催し、美術鑑賞学習に関する教師の資質・能力や指導力の向上を図った。	3

大項目Ⅰ-③		3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」		大項目No.	1-③
中期 目標	(3) 参画機会の提供 芸術文化に係る活動及び市民活動に寄与するため、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。			中項目No.	10
				小項目No.	39
	中期 計画	39. ボランティアやNPO等の各館の活動への参画の促進 各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。 友の会等の自主性を活かした運営を積極的に支援する。			
法人自己評価		各館とも各種ボランティア等が参画する行事を積極的に展開した。また、自然史博物館や中之島美術館ではNPO団体との協働事業を実施した。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	各種ボランティア活動、NPO等の館活動への参画等をサポートする人員の配置について館内で協議する。	市美としては、ボランティアの活用や友の会の組織化は行わない方針だが、来館者の観賞支援として、こども美術館スカイミュージアムの協力のもと、子供向けのワークショップをボランティアと共に開催した。 実績件数:1件	3
大阪市立自然史博物館	ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう引き続き注力する。 イ 学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。 ウ 関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施する。 エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。	ア 野外行事の補助スタッフを受け入れ、行事の充実と、ボランティア参加者の知識向上に務めた。標本の整理などにもボランティアとしての参加は多く、全体での登録者数は93名にのぼる。このうち野外行事にのべ187名が参加、貢献した。 イ 学生向けのボランティアについては、今年度は登録43名(のべ参加者数458名)と例年に比べ多くなった。自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化している。 ウ 関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施した。 エ 友の会をはじめ様々な自然関連団体に講師を派遣した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	新たなボランティア制度によるガイド等活動の実施を進める。	ボランティアによる来館者向けのギャラリーガイドを、展覧会会期中の毎日曜日11:00と14:00の2回開催。1日につきボランティア3名が対応。 ア シン展 ・ボランティア研修:4/5 ・ボランティア向けの学芸員によるモデルガイド:9/15、9/22、9/29の計3回実施 ・ガイド実施日数:のべ25日 50回 イ 上海展 ・ボランティア研修:10/18 ・ボランティア向けの学芸員によるモデルガイド:10/27の計1回実施 ・ガイド実施日数:のべ23日 46回	3
大阪市立科学館	ア 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い住民に対する専門的な助言等の支援を行う。 イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施するほか、ジュニア科学クラブをはじめとした大阪市立科学館の各種活動を支援する。 ウ デモンストレーターによるアウトリーチ活動(SCIENCE de DOYA)を推進する。	ア 科学館友の会の例会、友の会ナイト、天体観望会、合宿などの活動に協力している。 イ サイエンスガイドによる展示ガイドのほか、科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショー、天体観望会指導員による活動、その他ボランティアによるジュニア科学クラブのワークショップ指導など、各種ボランティア活動を支援している。また、科学デモンストレーター養成講座を実施し、ボランティア活動のさらなる支援を行った。 ウ デモンストレーターによるアウトリーチ活動(SCIENCE de DOYA)を支援している	3
大阪歴史博物館	ア ボランティア活動を再編・再開するとともに、自己研修として展示の見学、講座への参加を通じてボランティアスタッフの資質を高める。 【令和4年度実績】自己研修参加人数:講座142人、展示65人 イ 友の会行事への参加や講師派遣などを通じて、友の会の運営を支援する。 【令和4年度実績】友の会講師派遣4回 ウ 近隣地域に活動拠点を置くNPO法人等と協働事業を実施する。 【令和4年度実績】「わくわく子ども教室」1回、参加人数38人 【令和6年度目標】1回実施	令和6年度ボランティア登録164人、友の会会員170名 ア ボランティアの自己研修として、現在までに特別展(2回)見学238人、講座(13回)聴講358人の参加を得た。また、歴博イベント等への協力として、8回48名の参加を得た。 【令和5年度実績】自己研修参加人数:展示5人 イ 友の会への講師派遣(4回)を行った。 【令和5年度実績】友の会への講師派遣4回 ウ NPO法人まち・すまいづくりとわくわく子ども教室「凧作りと凧揚げ」1回(33名)を実施した。 【令和5年度実績】わくわく子ども教室「凧作りと凧揚げ」1回、参加人数23人	3
大阪中之島美術館	大阪で活動するアートNPOと共同でイベントを行う。	社会福祉法人いちろうの森と共同で環境や福祉の視点も取り入れたワークショップを実施した。	3

大項目Ⅰ-③		3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」		大項目No.	1-③
中期目標	(3) 参画機会の提供			中項目No.	10
	芸術文化に係る活動及び市民活動に寄与するため、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。			小項目No.	40
中期計画	40. 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 ボランティア・友の会会員等との意見交換の場を設け、その意見を聴取し活動に活かす。 住民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。				
法人自己評価		各館において、ボランティアや委託事業者との丁寧な対話・意見交換等を行った。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	カフェ及びミュージアムショップの委託事業者から美術館運営における意見を徴する。	カフェ及びミュージアムショップ委託の両事業者との協議を実施した。 カフェ事業者との協議：13回 ショップ事業者との協議：10回	3
大阪市立自然史博物館	ア ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を普及委員会等で検討する。具体的には、博物館と博物館周辺での活動活性化のための資金獲得のあり方について、公開での議論を受けて制度検討をする。 イ 友の会の総会及び評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。	ア 連携方針についての議論を進めている。検討とともに、従来通り密接な連携や意見交換の場を設けている。公開での意見交換の場は活動報告会として持った。 イ 多様な場での意見聴取を行っている(評議員会5回、事業WG12回等) ウ 事務局連絡会など連携を密に行う体制を持っている。(年間12回程度)	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取し活動に活かす。	・意見交換を主とした例会を4/5、7/21、9/15、2/9の計4回開催。	3
大阪市立科学館	サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、展示や普及活動に関して意見聴衆する。	・サイエンスガイドリーダーと月2回程度、打ち合わせを行った(今年度計42回実施)。また、開館日には朝礼、終礼を通じて日々の活動についての意見を聴取している。	3
大阪歴史博物館	ア 「ボランティアだより」の配信や懇談会等を通じて、ボランティアとの情報共有と意見交換を行う。 【令和4年度実績】「たより」発行5回、懇談会1回 【令和6年度目標】「たより」発行4回、懇談会1回 イ 友の会の総会および幹事会を通じて、友の会との意見交換を行う。 【令和4年度実績】総会1回、幹事会13回	ア 新たな活動内容によるボランティア活動を開始し、ネット環境やメールを活用した効率的な運用を行うとともに、メール・質問用紙を用いた情報共有と意見交換を定期的に行った。また、ボランティア懇談会を1回実施した(32名)。 【令和5年度実績】 ボランティア再編・再募集の実施 イ 友の会の総会(1回)および幹事会(7回)を通じて、友の会との意見交換を行った。 【令和5年度実績】 総会1回	4
大阪中之島美術館	館の運営をスムーズに行うために、テナントのカフェ及びショップ事業者との定期的に協議を実施する。	テナントのカフェ及びショップ事業者と定期的に協議を実施し館運営の円滑化を図った。	3

大項目Ⅰ-③		3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」		大項目No.	1-③
中期 目標	(3) 参画機会の提供 芸術文化に係る活動及び市民活動に寄与するため、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。			中項目No.	10
				小項目No.	41
	中期 計画	41. さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 住民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。			
法人自己評価		館の特性に応じて市民の活動・学習成果の発表の場を提供することができた。特にユニークベニユー等を推進する市立美術館や中之島美術館では施設の貸出しを積極的に進めた。			
3					

	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	令和7年度からの施設貸し出しに向けての準備を進める。	教育活動の場やユニークベニユーとして提供する施設選定、貸出価格設定、受注手続きや業務フローを設定して、R7年4月1日事業開始にむけて準備をおこなった。 開催事例:市民招待ギャラリートーク ・日時:8月27日 2回開催 ・参加者:約200名 また、市民の文化芸術活動の発表の場である地下展覧会室を改修した(照明のLED化、壁塗装、トイレ改修等)。R7年4月1日天王寺ギャラリーと名前を変更して市民への貸出事業を再開する予定。	3
大阪市立自然史博物館	ア 住民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。 イ 博物館と連携して活動する住民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 ウ 関連学会と連携した住民の発表機会を誘致する。 エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。	ア 11月16日・17日に「大阪自然史フェスティバル2025」を開催し、126団体が出展、入場者数はのべ22,500人にのぼった。来年度以降は隔年開催の方向で検討している。 イ 大阪市立自然史博物館友の会、大阪自然環境保全協会、大阪シニア自然大学、たかつき市民環境大学を始め様々な団体に指導や支援を行った。 ウ 貝類学会、日本甲虫学会、関西自然保護機構などで公開講演会を開催し、オンライン配信などを支援した。 エ 令和7年度大阪府高等学校生物教育研究会 生徒研究発表会を11月23日に開催し、生徒108名、ほか合計155名が参加した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	計画なし	計画なし	—
大阪市立科学館	ア サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動や、友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展等の活動を支援する。 イ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。 ウ 科学に関する冊子を制作するグループと住民が交流するフェスタを開催する。	ア サイエンスガイド、科学デモンストレーター、天体観望会指導員のボランティア活動を支援している。 イ デモンストレーター有志SCIECEN de DOYAによる万博共創チャレンジの参加と活動への支援を実施している。 ウ 科学に関する冊子を製作するグループと市民が交流する「サイエンスブックフェスタ」を開催した。	3
大阪歴史博物館	ア 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 【令和4年度実績】 凧づくりと凧揚げ1回、大阪税関パネル展1回、関西考古学の日1回 【令和6年度目標】 教育活動企画 2回実施	ア 教育活動企画を2回実施。難波宮整備事業に協力するために協定を結び、同事業の成果を紹介するポスターを特別展会場内に掲出し、団体の活動を支援した。 【令和5年度実績】 凧づくりと凧揚げ1回、関西考古学の日1回	3
大阪中之島美術館	ア 服飾専門学校の制作発表に会場を提供する。 イ アニメーションフェスティバルの開催を支援する。	ア 服飾専門学校の制作発表に会場提供を行った。 イ クリエイティブアイランド事業「中之島パビリオンフェスティバル2025」の一環として開催されるアニメーションフェスティバルの開催を支援した。	3

大項目Ⅱ-①					1 自主的かつ自律的な組織運営				
中期目標	(1) 経営と運営の一元化による効果の発揮 理事長のマネジメントの下、経営と運営の一元化により中長期的視点を備えた事業展開ができる組織として、取り組むべき課題に対して機動的かつ柔軟に対応する等、自主的かつ自律的な組織運営を安定的に行う。	大項目No.			2-①				
		中項目No.			11				
		小項目No.			42				
中期計画	42. 全職員に対する博物館機構の経営理念及び活動方針等への理解の促進によるガバナンス強化 機構の経営理念及び活動方針等について、様々な階層の職員研修等を通じて理解促進を図る。 また、理事会や経営会議の議決事項等については、事務局より総務課長連絡会議や学芸課長連絡会議、グループウェア等を活用して各館へ伝達し、法人全体の決定事項を職員へ共有することにより、組織のガバナンスの強化を図る。								
法人自己評価									
3		計画通り各種の会議を開催するとともに情報の共有化を進めたる等、内部統制の強化に向けた取組を進め内部統制の強化を図った。							
事務局	令和6年度計画			評価の判断理由				評価	
	ア 定例で開催される理事会や経営会議の議決事項等を、総務課長連絡会・学芸課長連絡会、グループウェアを用いて各館構成員に適宜周知・徹底し、情報の共有化を図り内部統制の強化を目指す。 イ 各会議の議事録を会議終了後に迅速に共有することで組織全体の意思一致を図る。			ア 理事会や経営会議の議決事項等について、総務課長会議・学芸課長連絡会議やグループウェアを活用して迅速に共有し内部統制の強化を図った。 イ 会議終了後に審議結果を速やかにグループウェアに掲載することで迅速な共有化を図った。				3	
中期計画	43. 中長期的な視点を備えた事業の企画及び実施 6館一体経営による人事や財務の一元化のメリットを活かし、経営会議における議論を経て機構全体の総合調整機能を発揮し、展覧会の企画・立案等についてもよりコミットするなど中長期的視点を備えた事業を企画、実施する。			大項目No.			2-①		
				中項目No.			11		
				小項目No.			43		
法人自己評価									
3		大阪博実施を契機として従来の広報施策を抜本的に見直しつつ、各館横断的にオンライン周遊企画等の広報・プロモーション活動を積極的に展開した。 また、PFIコンセッション方式による大阪中之島美術館の運営について検証WGを設置し適宜検証を行う等、課題解決に向けた取り組みを進めた。							
事務局	ア 令和7年度に実施予定の大阪博の開催に向け、経営会議での協議等を経て、広報・プロモーション活動を実施する。 イ 各館の計画的な施設整備改修に資するべく、5カ年の改修計画を策定する。 ウ PFIコンセッション方式により運営する大阪中之島美術館のこれまでの運営について検証等を行う。 エ 各館の展覧会の企画・立案について複数年度の計画の情報集約をし、各館の連携・調整を図る。			ア 大阪博の開催に向け、経営会議等の協議を経てキービジュアルの作成、大阪博Webサイトのリニューアル公開の準備、広報用の動画作成など、各種の広報・プロモーション活動を戦略的に展開した。また、博覧会協会が提供するアプリ「EXPO Wallet」を活用し、博物館等施設を周遊するNFTスタンプラリー企画を実施した。本法人の各館近隣施設も企画へ参加し、計8施設で実施した。(累計NFT発行数：1,022) また、先行した取組や成功事例等については事務局から積極的に横展開を図り、機構全体での広報活動の推進を図った。 イ 計画通り5か年の改修計画を策定した。 ウ 運営協議会や部会での協議を精力的に行い、上半期において外部委員が参画する検証WGを設置、下半期には同WGによる検証を行い今後の運営にかかる課題解決の方向性を確認した。 エ 月1回、事務局において全館における複数年の情報を集約しグループウェアに掲載する等各館の連携・調整を図った。また適宜各館の展覧会情報を事務局で集約し、経営会議や学芸連絡会議の場を活用して情報を共有するなど、一元的な連携・調整を行った。				3	
中期計画	44. 各館におけるノウハウや事業成果、課題等の博物館機構全体での共有 経営会議等の場において、各館の成功事例を展開するとともに、課題等についても迅速に共有することにより未然・事前の危機回避を図る。			大項目No.			2-①		
				中項目No.			11		
				小項目No.			44		
法人自己評価									
3		経営会議等において成功事例や課題の共有を図るとともに、グループウェを活用して必要な情報を適宜共有することで、組織内における迅速な意志一致を図った。							
事務局	ア 経営会議、総務課長連絡会・学芸課長連絡会議の場において、事務局及び各館から事業成果や課題を報告し、その成果やノウハウを共有する。また、グループウェアを活用することにより迅速に情報を伝達する。 イ 人流データ分析の情報を広報活動に活かすべく、事務局から他館に展開し情報の共有を図る。			ア 経営会議、総務課長連絡会議・学芸課長連絡会議などを通じて、事業成果やノウハウのみならず来館者対応事例等を積極的に共有するとともにグループウェアを活用してその周知・徹底を図った。 イ 実来館者数及び人流データにおける分析結果を月1回行い機構内部で共有するとともに、必要な情報については各館に適宜展開した。また展覧会をサンプルとした課題分析を行い、事務局から各館に情報提供を行った。				3	
中期計画	45. エビデンスに基づいた戦略による事業の実施及び評価 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータの活用と分析により戦略的な事業を実施し、事業の結果と成果が達成できているのか評価する。 過去に積み上げてきた来館者動向などのデータや、携帯電話端末等の情報から取得した性別や年代、居住地データを用い、来館者データを分析・評価し、適正な目標設定により展覧会・各種事業等を実施し、PDCAサイクルのもと、館の魅力向上に繋げる。			大項目No.			2-①		
				中項目No.			11		
				小項目No.			45		
法人自己評価									
4		万博関係事業を進める中で、エビデンスに基づいたオンラインによる広報・プロモーション活動を積極的に展開するとともに適宜経営会議で報告・共有し来館者の増加に向けた取組を行った。また実施した施策の効果検証を行い次年度の実施予定の施策に適切に反映した。							
事務局	ア 万博関係事業においては、オープンデータ並びに独自のリサーチに基づくマーケティングデータを駆使しながら広告宣伝・プロモーション戦略を組み立てる。 イ アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。			ア 万博関係事業に向け、各種マーケティングデータを用いた広告宣伝・プロモーション戦略を策定し9月の経営会議にその概要を報告した。また下半期には報告した内容に沿い民間事業者と連携を図りながらオンラインを中心とした広報宣伝・プロモーション活動を行い来館者の増加等を図った。 イ 月1回のWebサイトのアクセス解析や、人流データにおける分析結果、各館の来館者実データの分析を行うとともに、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を積極的に進めた。また効果検証結果を基に、改善点を洗い出し次年度の事業計画に反映させた。				4	

中期計画	46. PFI事業に係るモニタリングによる大阪中之島美術館の安定的な運営		大項目No.	2-①
	PFIコンセッション方式により運営する大阪中之島美術館においては、本法人が運営事業者である(株)大阪中之島ミュージアムとの定期的な対話やモニタリングを通じ、相互のパートナーシップのもと大阪中之島美術館の安定的な運営を図り中之島地区をはじめとする地域の活性化や住民サービスの向上を実現し、賑わいの創出に寄与する。		中項目No.	11
			小項目No.	46
法人自己評価		運営事業者との協議や対話を精力的に行うことで円滑で安定的な運営を実現した。またPFIコンセッション方式による運営の検証を行うためのWGを設置し課題解決のための方向性を確認する等、計画通りに取組を進めた。		
3				
事務局	ア 定期的に運営協議会(年1回)や部会(月1回)を開催し、PFI事業者との連携を図る等、安定的な運営を行う。 イ PFIコンセッション方式によるこれまでの運営手法結果について(株)大阪中之島ミュージアムと協働して検証を行う。 ウ 4半期ごとのモニタリングに加えて適宜来館者数等の把握を行う。	ア 運営協議会や部会(月1回)に加え、適宜PFI事業者と協議を行い、安定的な運営に向け連携を図る等、安定的な運営を行った。 イ PFIコンセッション方式によるこれまでの運営手法結果について(株)大阪中之島ミュージアムと協働して検証を行うべく外部有識が参画する運営検証WGを設置した。下半期に同WGにて検証を行い今後の運営にかかる課題解決の方向性を確認した。 ウ 当初計画通り4半期ごとのモニタリングを実施し、来館者数の把握等を行った。	3	

中期計画	47. ICTの積極的活用等による業務の効率化		大項目No.	2-①	
	2019年度に導入した勤怠・財務会計・給与支給等のシステム適用範囲の拡充を図り、更なる業務の効率化を実現する。また、意思決定の迅速化や業務の省力化を図るため、文書管理や電子決裁にかかるシステムを本格稼働させる。		中項目No.	11	
	各種の規定やマニュアル等の整備・見直しを行い、業務の効率化・平準化を実現する。コレクションや展示物の情報をデータベース化し、効率的な検索や管理を行うことにより学芸分野の業務の効率化を図る。		小項目No.	47	
法人自己評価		各種のシステムを安定的に移働させ引き続き業務の省力化を実現した。 昨年度に構築した館蔵品データベースのコンテンツの増加を実現するとともに検索機能や多言語表示の充実を図る等、データベース化に向けた基盤整備を行った。			
3					
事務局	令和6年度計画		評価の判断理由		評価
	ア これまでの様々なシステムの稼働状況及び利用状況を勘案し、システムの効率化及び最適化を図っていく。 イ 令和5年度に構築した館蔵品データベースのコンテンツの増加を図る。 ウ 導入した文書管理システムの活用により業務の省力化を進める。		ア 財務会計システムのより効率的な運用を目指しシステム更新を行うなどの取組を進めた。 イ 令和5年度に構築した館蔵品データベースのコンテンツの増加を実現するとともに、検索機能の充実化を進めるなど6館を集約化した館蔵品データのアーカイブ化を積極的に進めた。大阪の宝120点をデジタル大阪ミュージアムズで公開し、作品名及び解説文を英訳するとともに、作品を多角的な視点で体験する「バーチャル体験展示室」を同サイト上に構築し、公開した。 ウ 令和5年度から導入した文書管理システムを積極的に活用するなど、業務の省力化に向けた取組を進めた。		3

中期計画	48. より一層のサービス向上実現に向けた民間活力の導入、渉外及び広報機能の強化 利用者サービスの向上や業務の効率化を目指し、民間活力を効果的に導入する。 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータの活用を積極的に行い、リサーチ結果に基づいた戦略的な渉外・広報を展開する。		大項目No.	2-①	
			中項目No.	11	
			小項目No.	48	
法人自己評価		アクセス解析や人流データによる来館者分析等によるエビデンスを持った広報活動を積極的に展開するとともに、民間のプレスリリース配信サービスを導入する等、広報活動の規模拡大や効率性の向上を実現した。また、事務局から各館に知見やノウハウの共有、広報研修の実施、その他適宜プロモーション施策を支援する等、計画以上の広報機能の強化を実現した。			
4					
事務局	ア アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。(再掲) イ プレスリリース配信サービス(PR TIMES)を採用・導入し、広報活動の規模拡大と効率向上を図る。	ア 月1回のWebサイトのアクセス解析や、人流データにおける分析結果、各館の来館者実データの分析を行うとともに、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行った。下半期には民間事業者と連携を図りながらオンラインを中心とした広報宣伝・プロモーション活動を行い来館者の増加等を図った。加えて民間事業者を招いてWebサイトのアクセス解析手法についての研修会を開催するなど、そのノウハウを積極的に機構内へ展開した。 イ プレスリリース配信サービス(PR TIMES)を積極的に採用・導入し、広報活動の規模拡大と効率向上を図った。本サービスの活用を機構内に積極的に浸透させ、配信内容の改善を図ることを目的に、プレスリリースの文章構成を中心とした研修を行った。また、配信後の閲覧数やメディア掲載数等の実績を事務局にて適宜把握するなど効率化に努めた。(令和6年度総配信回数:52回)	4		

中期目標	(2) 内部統制の強化 業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守並びに資産の保全を達成するための内部統制の仕組みについて、強化を図る。	大項目No.	2-①
		中項目No.	12
		小項目No.	49
中期計画	49. 内部統制の強化に向けた環境整備 コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づき法人規程を整備するとともに、理解促進のための職員研修を実施する。		
法人自己評価		オンライン・オフラインを併用して各種の研修を実施するとともに、法令に基づき内部統制環境の推進にかかる取組を計画通り進めた。	
3			
事務局	ア コンプライアンス遵守に関する研修等を実施する。(年間1回) イ 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。(年間1回) ウ 個人情報保護ポリシーの見直し、クッキーポリシーの策定、CMPツールの採用・導入により、GDPR、CPRA等の国内並びに諸外国の個人情報保護法令に対応する。 エ 監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行う。 オ 法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。	ア e-ラーニングの手法を用いて全職員に対してコンプライアンス研修を実施した。 イ 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施した。(年間1回) ウ 個人情報保護ポリシーの見直し、クッキーポリシーの策定、CMPツールの採用・導入により、GDPR、CPRA等の国内並びに諸外国の個人情報保護法令に対応した。 エ 監事監査(各館1回)及び内部監査(各館1回)の実施により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行った。 オ 法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を図った。	3

中期計画	50. 事業継続計画(BCP)の策定及び継続的改善 大規模災害等に備え、緊急事態における事業の継続又は早期復旧を図るため、事業継続計画（ＢＣＰ）を策定し、継続的に見直し・改善を行う。		大項目No.	2-①
			中項目No.	12
			小項目No.	50
法人自己評価		BCP策定にかかる調査の実施、策定支援事業者の選定など、次年度の策定に向け計画通り進めた。		
3				
事務局	BCP計画策定に向けた調査を実施し、令和7年度以降の計画策定に繋げていく。	上半期にはBCP計画策定にかかる調査を行い、下半期には同調査結果をもとに令和7年度に策定支援を担当する事業者を選定し次年度の策定に向け着実に進めた。	3	

大項目Ⅱ-②				2 職員の育成に向けた取組	
中期目標	2 職員の育成に向けた取組	職員の意欲、能力及び経験等を活かすための柔軟な適材適所の人員配置の実施や評価制度を活用することによる職員の勤労意欲と能力の向上等により、職員の育成に取り組む。	大項目No.	2-②	
			中項目No.	13	
			小項目No.	51	
中期計画	51. 職員の育成に向けた取組				
働きやすい職場環境の充実を図るとともに、職員の能力向上や職員のモチベーション向上のため、下記の取組を実施する。 職種や職階に応じた研修プログラムを策定し、実施する。 インセンティブが適切に働く人事評価制度を実施する。 個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組み作りに取り組む。 職員のキャリア形成に寄与するため、国等の他機関等との人事交流について計画を策定し、実施する。 定期的なジョブ・ローテーションにより、職員の多様なキャリア形成を実現する。					
法人自己評価					
3		職員の資質の向上のための研修や人事異動、専門人材の受入れ等を通じて職員育成のための取組を計画通り実施した。			
事務局	令和6年度計画		評価の判断理由		評価
ア 階層別の研修を各階層1回は実施する。 イ 適切な人事交流を行うべく、人事方針を策定する。 ウ 広報、マーケティング、Webマーケティング等研修を企画・実行し、デジタルマーケティングへのシフトを志向する。 エ 博物館のDX化の推進に向けた研修を年間2回実施する。 オ 個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組みについて制度設計に着手する。 カ 他機関等との人事交流の策定に向け組織内で協議を進める。 キ 職員の多様なキャリア形成に寄与するため、定期的なジョブ・ローテーションを実施する。		ア 全階層に対して必要な研修を実施するとともに、広報プロモーションやマーケティング、DX等にかかる研修を実施した。 イ 適切な人事交流に向け、各館ヒアリングを行いヒアリング結果に基づく人事交流を実施した。 ウ 広報、マーケティング、SNS運用に係る研修を各1回実施し、機構内の職員の専門性の向上を図った。 エ DX化にかかる研修を年間2回実施しデジタル分野での職員の知識の推進を図った。 オ 個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組みについて他機関の調査を実施した。 カ 大阪市文化財協会の解散に伴い、専門人材受け入れについて組織内で協議の上実施した。 キ 職員の多様なキャリア形成に寄与するため、定期的にジョブ・ローテーションを実施した。		3	

大項目Ⅲ 財務内容の改善に関する事項				
中期目標	1 収入の確保 展覧会収入並びに図録及びミュージアムグッズの販売収入に加え、施設の活用等による新たな収入確保に取り組む。		大項目No.	3
			中項目No.	14
			小項目No.	52
中期計画	52. 収入の確保 各館の展覧会等の来館者の増加を実現する等、収入の増加に務める。 積極的に民間企業と連携し、共同事業の実施や、商品開発、デジタルコンテンツの提供等を行うことにより新たな購買者層を獲得する。 法人資産の利活用のスキームを構築し、収入確保を図るとともに、貸出施設の稼働率の向上を実現する。			
法人自己評価		大阪市と連携して施設の利用料金の上限を再設定するとともに、新たな収益増化策であるユニークベニユーについて先行する中之島美術館に加え、改修後の市立美術館において再開後に試行・実施を図るなど計画以上に取組を進める等、次年度の本格実施に備えた。また、各館において民間事業者と協働して商品開発等を進めた。		
4				
事務局	ア 新たな収入確保に向け、新たな増収施策を実施する。 イ 各館において、民間企業と連携した商品開発やデジタルコンテンツの提供等を行う。 ウ ユニークベニユー専門事業者と連携しながら、本法人のユニークベニユー事業のモデルケースを策定する。（例：バリューマネジメントと大阪市立自然史博物館）	ア 新たな収入確保策であるユニークベニユーを各館が積極的に実施できるよう新たに上限料金を設定するとともに、特別展料金の上限についても変更する等、設立団体である大阪市と連携することにより収入増加に向けた各種の取組を実施し翌年度からの収入確保策の環境整備を行った。 イ 各館において、民間企業と連携した商品開発やデジタルコンテンツの提供等積極的に実施した。 ウ ユニークベニユー専門事業者（バリューマネジメント）と連携を積極的に図り、ユニークベニユー事業のモデルケースを策定すべく民間事業者と連携のもと、市立美術館においてユニークベニユーレセプション等を行うなど、モデルケース策定のみに留まらず本格実施し翌年度の収入確保策に一定の目途を付けた。	4	
中期目標	2 外部資金の獲得 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金及び協賛金、科学研究費並びに国等からの補助金の獲得に積極的に取り組む。		大項目No.	3
			中項目No.	15
			小項目No.	53
中期計画	53. 外部資金の獲得 経営会議のもとに外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織を設置する。 科学研究費補助金等の外部資金に積極的に申請するとともに、採択率の向上に向け、先行している館のノウハウを学芸連絡会議や研修会などを通じて法人内で共有し、採択率の向上を目指す。 寄附金等の獲得に向けた戦略を策定し、実行する。 「大阪博」の開催に向け、文化庁等の関係事業に申請するなど、外部資金の獲得を目指す。			
法人自己評価		外部資金獲得に向けた情報を積極的に収集し成功事例とともに学芸連絡が会議において情報を共有した。また、次年度開催する万博関係事業において文化庁補助金（日本博2.0）の採択を受けた。（採択金額22,185千円）		
3				
事務局	ア 外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織の設置に向け、他機関等の調査を実施する。 イ 科学研究費補助金等の採択率の向上に資するべく、学芸連絡会議等の場を活用し成功事例の共有を図る。 ウ 令和6年度に法人が実施する万博関係事業において、文化庁等への補助金申請を行い、採択を目指す。	ア 外部資金獲得のための内部組織の在り方について、他機関の調査を実施した。 イ 学芸連絡会議等の場で適宜外部資金の獲得に向けた情報共有や意志一致を図るなど、各館のノウハウを展開した。（科研費 新規採択金額7,839千円、新規採択件数10件） ウ 令和7年度に法人が実施する万博関係事業において、文化庁補助金（日本博2.0）の採択を受けた。（採択金額22,185千円）	3	
中期目標	3 経費の縮減 全職員が常にコストを意識するとともに、博物館機構による博物館等の一体的な運営の強みを活かした計画的な事業の実施や施設及び設備の整備等により、経費の縮減に取り組む。		大項目No.	3
			中項目No.	16
			小項目No.	54
中期計画	54. 経費の縮減 既に発行している紙媒体の広報誌の電子化や縮小など、事業のスクラップアンドビルドを積極的に行うとともに、各種の規定やマニュアル等の見直し、業務のICT化を推進することにより、経費の抑制を図る。 業務委託等を含めた共同調達について、有効なものから引き続き計画的に実施する。			
法人自己評価		広報関係業務を中心に事業のスクラップアンドビルドを積極的に行うとともに、文書管理システム等を活用し経費の縮減を図った。		
3				
事務局	ア 事業の効率化はもとより、契約事務審査会等を通じて、適切・効率的な契約手法を検討し、経費節減に繋げる。 イ デジタル化と集約化を目指し、広報誌OSAKA MUSEUMSの発行に代わり、万博専用LPに各館展覧会・イベント等の情報を集約する。 ウ TALK&THINKのリアルタイム配信に代わり、より視聴しやすい編集を施した動画を配信することで視聴者の満足度の向上を実現するとともに、同動画を広告宣伝ツールとしても活用する。 エ その他オウンドメディアの目的、機能の整理を行い、スクラップアンドビルドを継続していく。 オ 導入した文書管理システムの活用により業務の省力化を進めることで、経費の縮減を図る。	ア 契約事務審査会等を通じて、適切・効率的な契約手法を検討し、経費節減に繋げた。 イ 広報誌OSAKA MUSEUMSの発行に代わり、万博専用LPに各館展覧会・イベント等の情報を集約した。また、各館を周辺施設とともに紹介する「おさんぽミュージアム」や博物館等に知見のある著名人へのインタビュー記事を作成し、同サイトに公開した。 ウ TALK&THINKのリアルタイム配信に代わり、より視聴しやすい編集を施した動画を作成・配信し多くの新規視聴者を獲得した。視聴回数の増加を狙い、広告配信を行うとともに、SNS用にショート動画を制作し公開した。（令和6年度 5本公開、総視聴回数：約255,000回） エ オンライン化を中心に、限られた予算の中で目的、機能の整理を行い、スクラップアンドビルドを行うことで効果的な広報活動を展開した。 オ 文書管理システムの活用により業務の省力化・経費の縮減を実現した。	3	

大項目Ⅳ		その他業務運営に関する重要事項			
中期目標	1	SDGsの概念に基づく取組の推進	SDGsの理念に基づき、展示や教育普及活動等においても、ダイバーシティ、バリアフリー、循環型社会の構築及び生物多様性等の視点に立った取組を推進する。	大項目No.	4
				中項目No.	17
				小項目No.	55
中期計画	55.	SDGsの理念に基づく取組の推進 人材確保においては、被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。 展覧会やその他の事業実施において、SDGsに配慮した取組を実践する。 さまざまな来館者を念頭に、ジェンダーに配慮するなどユニバーサルデザイン化を推進する。 博物館等の活動に関連することのリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施のみならず、さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるための支援メニューの充実に取り組む。(再掲)			
法人自己評価					
3		包括的な人材採用を行うとともに施設のバリアフリー化や省エネ機器の導入等、SDGsの理念に基づく取組を進めた。			
事務局	令和6年度計画		評価の判断理由		評価
	ア 被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。 イ 建築物の大規模改修時にて、はじめて訪れる人にも理解できるサインの設置、トップランナー機器等の導入や照明器具のLED化、バリアフリートイレの設置など、SDGsの理念に基づく取組を推進する。 ウ こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。 エ 「リデュース・リユース・リサイクルのための法人の取組計画」に沿って環境に配慮した取組を行う。		ア 障がいを持つ方の雇用を促進するとともに、リテラシー向上に向けた各館の取り組みを推進した。 イ 市立美術館の大規模改修時に理解しやすいサインの設置、トップランナー機器等の導入や照明器具のLED化、トイレ等のバリアフリー化を実施した。また、自然史博物館の空気調和機更新時にトップランナーモータを採用するなど、省エネ機器の導入を図った。 ウ 東洋陶磁美術館でのファミリーデー実施を促進するなど、こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組んだ。 エ 引き続き「リデュース・リユース・リサイクルのための法人の取組計画」に沿った取組を行った。		3

中期目標	2 来館者の安全確保 来館者へ良好かつ安全な利用環境を提供するとともに、職員が快適かつ安全な労働環境で業務に従事できるよう安全対策と事故発生時の対応を徹底する。	大項目No.	4
		中項目No.	18
		小項目No.	56
中期計画	56. 来館者の安全確保 災害対策マニュアルを策定する。 来館者の安全確保のための訓練を定期的実施する。 職員研修を通じて、職員の安全への意識啓発や災害時の知識の向上を図る。 各館において、隣接する機関と緊密に連携を図り、緊急時の対応に備える。		
法人自己評価			
3		BCP策定に向けた取組を着実に進めるとともに隣接する機関との連携による緊急時の取組を進める等、来館者の安全確保に向けた計画を進めた。	
事務局	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
	ア 事業継続計画(BCP)策定に向け課題の洗い出しを行う イ 災害時の安全確保に向けた研修等を実施する。 ウ 各館において、隣接する機関と緊密に連携を図り、緊急時の対応に備える。	ア 上半期にはBCP計画策定にかかる調査を行い、下半期には同調査結果をもとに令和7年度に策定支援を担当する事業者を選定し次年度の策定に向け着実に進めた。 イ 各館において災害時の安全確保に向けた訓練等を行った。 ウ 各館において、隣接する機関と緊急時の対応について共有を図った。	3

中期目標	3 情報公開の推進	大項目No.	4
	運営状況の透明性を確保し、広く博物館機構の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。	中項目No.	19
		小項目No.	57
中期計画	57. 情報公開の推進 法令に定める情報のみならず業務内容に関する法人・各館情報を積極的に公開する。 利用者等が情報を効果的に享受できるよう、理解しやすいホームページの運用を行う。		
法人自己評価			
3		組織の活動情報を積極的に発信するとともに、法令に基づき情報公開の推進に取り組んだ。	
事務局	令和6年度計画	評価の判断理由	評価
	ア ホームページ等を積極的に活用し、情報の提供に努めるとともに、情報公開等に対しては速やかに対応していく。 イ ホームページやSNS等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信する。 ウ 令和7年度に実施予定の大阪博の情報を適宜ホームページ等にて発信する。 エ 利用者等が理解しやすいホームページの運用を行う。 【令和4年度実績】情報公開0件	ア ホームページ等を通じ、必要な情報を積極的に発信した。 イ ホームページやSNS等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信した。	3